

ウインドウはすべて
エレクトリック。

エイゾウ

エル
イコール
イーエル

目次

ウインドウはすべてエレクトリック。

エイゾウ

はじめに

ロクサツめのジチヨをだすことになった。イッサツめとくらべると、ブツリガクテキなセツがふえたとおもう。どうも、わたしのキョウミがそちらのホウにむいているからだ。これらはまとめ、ふゆあたりにイッサツにしようとおもっている。ブツリガクテキなはなしだけをよみたいというのであれば、てにとっていただきたい。

ことしは、レイカであろう。あまりあつくない。しかし、わたしがこどものころをおもいだしみると、そんなにあつひがあったというキオクがない。こんなかんじだったかもしれない。

いよいよコウレイカがシンテンし、ニホンケイザイがためされるキョクメンにさしかかっている。ここでニジュウネンばかりこらえられたら、そのあとまあうまくいくかもしれない。キョウ、にじがみえた。シゼンはニンゲンのツゴウとはベツにうごく。むずかしいシャカイジョウキョウであるが、いいしごとができればとおもう。

ニセンジュウキョウネン シチガツニジュウシチニチ

イチ

ケイエイカツドウでは、くろじがよしとされる。しかし、だれもがくろじというのはありえない。くろじがでるなら、どこかであかじがでていはずである。

ヒャクエンのジュースでかんがえよう。そのうちサンジュウエンがリエキブンとしよう。これをななジュウエンでうれば、うるホウも、かうホウもあかじはでない（くろじもでない）。しかし、ヒャクエンでうりかいですと、うるホウはサンジュウエンのくろじ、かうホウはサンジュウエンのあかじがでる。

フツウはこれをあかじといたりしない。しかし、そういうことである。かうホウは、そうやって、あかじ（くろじのもと）をキョウキュウする。ケイキがわるいときは、うるホウがあかじをキョウキュウしたりする。ただかうだけだったら、フケイキのホウがあかじはすくなくなるだろう。しかし、どこかではたらいでいたりするから、あかじじゃ

こまるとなる。カイシャがつぶれてしまっはこまるし、キュウリヨウがさがってもこまるからだ。そうやって、くろじはゼニンされる。

また、ロウドウもあかじである。イッセンマンエンブシごとをして、ゴヒヤクマンエンをうけとったりする。そういうわけだから、あかじはつきものともいえる。あかじがないシャカイをめざしたくにはあるが、それがセイコウしたとはきかない。

二

チホウからひとがダイトシのホウにイドウするという。そのために、ダイトシは、ますますおおきくなり、チホウはさびれる。なぜそういうことがおこるか。

ケイザイテキにいえば、ダイトシにはかねがあつまるからだろう。トクにシュトとなれば、ゼイキンがあつまるから、それにむらがるといえるだろう。チョクセツもらうのではなく、しごとをしてそれをもらうと。

しかし、ベツのみかたもある。これは、どちらかというトシャカイガクテキなみかただ。ひとには、ニシュルイのひとがいるかもいれない。ひとつは、チュウオウのホウをむくひとだ。なにかというト、チュウオウのホウをみる。チュウオウでは、なにがリュウコウしているのかなどをきにする。チュウオウというト、やはりダイトシだろう。

もうひとつは、ヘンキョウのホウをむくひとだ。いなかでは、なにがはやっているかなどをきにする。チュウオウのホウがいまはひとがあつまっているから、さびしくもなくなるかもしれない。しかし、いなかでノウギョウをしていなければ、たべていけない。だから、ノウサンブツをてにいれるために、トシでは、ニンゲンカンケイがジュウシされているといえる。そうやって、チュウオウのホウをむくひとがおおいから、ノウギョウがさかんになるというのはむずかしいかもしれない。

サン

クラシックオンガクのコウキョウキョクなんかはすごい。タクサンのパートにわかれて、タクサンのおとをひいている。それでトクにうまいひとは、「ソリスト」とよばれる。ヴァイオリンもあれば、チェロもある、トランペットもあろう。いってみれば、タクサンのソロがまじりあって、キョクをコウセイしている。

そのテン、ニホンのオンガクは、わりとタンジュンだったりする。ガッシュヨウなどもやるひとはやっているが、よんパートにわかれてのうたをうたいだしたのは、サイキンのことであろう。ニホンジンもそういう「ソロ」のあつまりになれてきたかもしれない。それがすすむと、いまはあまりしないのではとおもうが、「おチャにしますか、コーヒーにしますか。」などと、センタクをさせるバメンがふえるかもしれない。つまり、そのひとが「なんの」ソリストかをシュチョウしなければならぬというバメンができるということだ。

ニホンはタンイツブンカなどというが、やはりそういうヘンカがでてきてもおかしくな

い。セイショウもいいが、やはり、「ソリスト」のカツヤクもダイジとおもうわけである。わたしにいわせれば、ニホンのゲンダイのうたは、みつつのソロでできている。ひとつはうた。ひとつはカウンターメロディ、ひとつはコードだ（もうひとついえば、ベースフレーズ）。

クラシックだともっとフクザツだが、いまのうたは、そんなかんじである。だから、うりあげはどうあれ、ギジュツテキには、クラシックにおよばないとおもう。そうやって、モンクをいうならジブンでもっとフクザツなものをつくれればいい。しかし、ギジュツがヒツヨウなのである。そうカンタンではない。まだまだクラシックからまなぶことはあろう。

よん

なぜ、ニホンジンのめはダイタイくろいのか。それは、そのいろがよくあるシゲンなんだろう。モクザイをもやすと、くろくなる。カンタンにいうと、そのいろをつかえればいい。ガイジンなら、うみのいろとか、シヨクブツのいろをつかえればいいだろう。

しかし、なぜウチュウがくろいのか。ひょっとしたら、もえかすがタクサンただよっているのかもしれない。わたしのカイソウセツ（●『スーペリアーをみつけた。』[イカ、『ス』]ゴジウキユウ、ヒャクニジウロク、ヒャクサンジウロク）では、ウチュウがおおわれているから、くろいのであろう。まえに、ブヒンがよければ、カンセイヒンがよくなる（●『オンガクイチエンのジダイ』[イカ、『オ』]ヒャクサンジウイチ、『ス』ヒャクサンジウウ）。とかいた。

しかしである、モーツァルトのオンガクをまねてみた。おとそのものも、（ガツキをひいたわけでない。ガツキをひいたおとをつかった。）わるくない。それなら、「わるくない」オンガクができるはずである。

だが、ケツカはなれていないおとのシュウゴウになった。そのキョクは、いわゆるソロのあつまりのようなキョクである。それで、ブヒンもタイセツだが、シキ（くみたてギジュツ）もダイジだとおもった。いいハーモニーにしなければならぬと。だから、ソロがおおいようなオンガクのばあいは、シキシャがセンゾクでヒツヨウなのであろう。ひとつのギジュツである。

ニンゲンシャカイもそうなのだろう。シャカイブヒンをまとめるリーダーがヒツヨウなのかもしれない。トクにソロがつよいところではそうだろう。そういうメンでは、まだニホンはソロがつよくないといえるかもしれない。あまり、リーダーのはなしにならないからだ。セイゾウギョウでは、ブヒンをつくるのは、ニホンジンはつよいだろう。しかし、くみたてギジュツは、あまりやらなくなったブン、チュウゴクがつよくなっただろう。ハンエイするのは、ブヒンがつよいくにと、くみたてギジュツがつよいくにかもしれない

ゴ

「でるくいはうたれる。」という。しかし、ですぎたくいをうつのはむずかしい（●『よろこぶゲンシジン』[イカ、『よ』] ななジュウゴ)。まえのホンでギロンしたいじめのモンダイ（●『ス』ヒャクロクジュウゴ、ヒャクロクジュウサン）も、くいをたたけばいいわけではないというケツロンである。なぜなら、フコウヘイがショウずるからだ。

つまり、ひとりのできをかえるのでは、そのひとのフタンがおおきい。だから、コウヘイなりョウだけ、ゼンインのできをかえればいい。それはどういうことかということ、でたくいはちょっとたたき、でてないくいはちょっとひっぱるということである。そうすると、それぞれのドリョクがキントウで、あらたなフコウヘイカンがうまれないということである。

ロク

このごろ、わたしは、うたのカシュのカンジョウヒョウゲンがきになる。たまにヒョウゲンがゆたかなカシュがいる。まえは、メロディにかしがのってれば、リッパなうただとおもっていたかもしれない。まえに、ドのおとだけでなく、レのおとも、ミのおともくわえてはなせば、カンジョウがヒョウゲンできるとかいた（●『よ』サン）。

たしかにそういうメンもあるが、それだけではない。こえのおおきさもそうだろうし、こえのシツカンもある。サイキンは、コンピューターにカショウさせたり、ブンをよみあげさせたりするが、まだまだそういうイミでジツヨウテキではないとおもえる。もっともそのギジュツがジツヨウカノウになってしまうと、コンピューターにだまされるということになってしまう。ゲンジョウのままでもいいのかもしれない。

なな

ちょっとまえまでは、「コクサイキョウリョク」とか「キョウチョウ」とかいていたが、サイキンは、ナショナリズムがはやっているかのようだ。それについてギロンもあるだろう。

しかし、セカイジュウのみなのはあわせがダイジというイケンも、わたしたちのくのにのはあわせがダイジというイケンも、サイキンはあまりきかれなくなったことばだが、「イデオロギー」である。

つまり、ゲンジョウではそうではないが、モクヒョウとしてコウドウしたいというおもいである。それが、「ジコクユウセン」にかわってきているとすれば、（そのまえにいていた）コクサイキョウチョウは、あるテイドタツセイされたということかもしれない。そのうえで、ジコクをダイジにするだったら、そんなにわるいはなしでもないようなきがする。それでまたジコクがうるおえば、また、コクサイキョウチョウにむくかもしれないからだ。

シャカイもダイジだが、コジンもダイジである。ニホンでは、「シャカイジン」といい、シャカイニンゲンがソンチョウされるようだが、そういうタサイボウのいきものよう

ではなく、タンサイボウのいきものもいる。つまり、コジンニンゲンでもいいはずだ。むかしだったら、「いえ」ごとにかんがえていたんだろう。「シャカイジン」というかんがえは、そうふるくはないのだろう。それはともかく、サイキンは、モクヒョウがかわってきていると、そういうことだろう。タブン、どちらもタイセツだ。

ハチ

デンシキキのあるヨウシキのことを、「ドダイ」というようなことばであらわしたりする。「それはもっともフキュウしている『ドダイ』だ。」というようにである。しかし、これはレトリックというか、セイヒンのイメージをよくさせるために、えらんだことばではないかともおもう。

それは、だれでもがその「ドダイ」にのれるわけではないからだ。トクに「ニュージョウセイゲン」はもうけていないようだが、おかねがなければ、その「ドダイ」にはのれない。さらに、「タイジョウセイゲン」ももうけていないだろうが、イジするのにそこそこのシキンリョクがいる。それなら、「つりわ」とよんだホウがいいのではないか。タイリョク（シキンリョク）のないひとは、かつてにそこからおちるイメージである。しかし、「つりわ」はイダイである。それだけあいさされているわけだから。

キュウ

だれかがリエキをだすと、ものがやすくなるはなしをした（●『オ』ヒャクサンジュウゴ、『ス』サンジュウハチ）。だから、ブッカをアンテイさせたかったら、リエキをあげるのをやめればよい。しかし、それをするというはなしはきかない。

ブランドもののよさは、ものがたりとかにあるのではないかもしれない。たかいカカクがいいのではないか。たかいカカクでかわれば、ケッコウなりエキがでる。そうすると、そのリエキのブン、だれかがうっているもののねだんをさげるのである。ブッカがやすくなるから、あえてブランドものをかうのかもしれない。

ジュウ

よくケイキがいいだの、わるいだのいう。コウケイキかフケイキかである。ショウバイをしていれば、コウケイキのホウがいいだろう。それとおなじように、「シャカイ」にもいい、わるいがないか。

ものがスムーズにとりひきできるのは、いいシャカイ（コウシャカイ）だろう。イッポウ、ショウヒンセツメイが、いいカゲンだったり、フリョウヒンをうりつけたりするのは、アクシャカイだ。ケイキ、ケイザイのジュンカンもダイジだが、シャカイのジョウタイもダイジだとおもうのである。

ジュウイチ

ニホンのガッコウでまなぶショドウは、ハンシのおおきさにかきあげる。しかし、そこにかいたなんモジかは、ジツヨウテキなブンといえるだろうか。タブン、ジツヨウセイはすくないだろう。つかえるとしたら、スローガンにだろう。そういうのは、ネンにイッカイかけばいいぐらいだろう。それなのに、マイシュウイッカイはかく。

たしかに、おおきなジでかけば、こまかいはいや、はねにこだわるだろう。だが、ちいさいモジで、ブンショウをかいたホウがいいのではないか。どうもそんなきがする。いってみれば、いまのニホンのショドウキョウイクはゲイジツテキなのだ。

ジュウニ

ひかりは Netz をもっていたりもする。ちょっとまえにはやったシンガタデンキユウは、あえて、Netz をへらして、あかるさをふやしたかたなのだろう。タイヨウケイのワクセイは、そとがわをまわっているものほど、オンドがひくいとされる。ジツカンとしてもそうだ。

たいたひのちかくにいればあついが、はなれるとあつくなくなる。だから、タンジュンにいうと、ダブリユエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わるディ（キヨリ）となる（ただし、ヒョウジュンテキなひかりのばあいだ。）。)

しかし、あるキヨリをすすむことにより、あたたかさがうしなわれるかはうたがわしい。ひかりがあたたかさをうしなわないでとどくとするなら、ダブリユエーイコールエルアイだということになる。とおくのワクセイだと、ひかりのとどくヒンドがひくいというみかただ。ジツカンとしてはゼンシャだろうか。しかし、Netz のコウカン（すすむさきのブッシツと）とかんがえれば、コウシャといえるだろうか。また、ひかりのシュルイのモンダイもある。

ジュウサン

わたしのおやじとおふくろは、センソウをタイケンしたセダイだからか、かなりシツツだ。あたらしいものなんか、メッタにかけてこない。わたしは、いまのところ、それをまねできていない。

おやじなんかは、ものをショウユウしたところで、なにかがおこれば、なくなってしまうぐらいにかんがえていたのかもしれない。ただ、いまのところ、「トチ」はなくなるらない。だから、フドウサンがねあがりしたりしたのだろうが、またねさがりした（ジンコウゲンショウのため。）。おやじとおふくろがあじわったムジョウカンは、ジツサイにタイケンしてみないとわからないかもしれない。

ジュウよん

フケイキのときには、シツギョウがふえるという。そこでショクをうしなつたひとはどうすればまたかせげるだろう。

ニンゲンのこのむものをみれば、それはタッセイできるかもしれない。パソコンがはやつたジダイなら、パソコンみたいなニンゲンになればいいし、ケイタイデンワがはやつたのなら、ケイタイデンワみたいなニンゲンになればいい。それはよくうれるのだから、まちがいないだろう。

ジュウゴ

ものエーと、ものビーをみたときに、ニンゲンは、それを「おなじ」か「ちがう」とハンダンするだろう。ニホンでは、コクミンドウシが「おなじ」だと、キンシツテキだといわれることがある。しかし、よくみると、ちがいはあるだろう。そういうなかでは、「ちがう」とイシキしたら、「ちがう」となる。

イッポウでガッシュウコクには、「ちがう」ひとたちがあつまっていたりする。そういうなかでは、「ちがう」とニンシキしなくても、「ちがう」だろう。へたすると、「ちがう」ドウシでケンカになるから、「おなじ」とおもわせるしかけがヒツヨウとなるだろう。

そうやって、カンネンテキに「おなじ」にしていく。しかし、いまのはやはり、「ちがう」であるかもしれない。しかし、それをすすめると、ドンドン「ちがう」になってしまうので、「おなじ」といえるしくみをキョウカしたりするだろう。そうやって、くにやシャカイはやっていくんだとおもう。いまのところ、サイジョウの「おなじ」はグローバリズムだろう。しかし、「ちがう」のではと。

ジュウロク

「でるくいほうたれる。」という（●ホンチョ [イカ、ムヒョウキ] ゴ）。しかし、それではサギョウリョウがふえる。だから、でるくいをほおっておくと、もっともコウリツテキとえるかもしれない。たとえば、しごとなどでだ。エイギョウのエフさんはうりあげが、ほかのひとのニバイある。それをうってしまったら、コウリツがおちるだろう。それではしょうがない。

ジュウシチ

「チームワーク」がいいなどという。ひとがそれぞれしごととしているよりも、ダンケツシ

てしごとをしたホウがいいようにおもえるかもしれない。それはただしいかもしれないが、モンダイもある。

それは、まとまることがモクヒョウになったり、まとまることにおおくのロウリョクをさくばあいである。たとえば、それぞれのひとが、ニタンイジカンをついやして、イチずつのしごとをしたとする。それをチームワークよくやるばあいに、ひとびとがまとまるのに、ニタンイジカンをついやしたら、それぞれのばあいにニタンイおとるし、まとまるのに、イチタンイジカンをつやしても、イチタンイ、それぞれのばあいにおとる。だから、それぞれがしごとをしたホウがコウリツはよいとなる。

ジュウハチ

わるいことをすると、バツをうけるというのがある。そのホウがひとはわるいことをしないとされる。しかし、わるいことをつづけているだけで、ケンセツテキといえるだろうか。

ハンタイにいいことをしたことに、ショウをあたえるというのもある。そのどちらもあるのがフツウだろうが、ニチジョウテキに、トクにコジンとしてはたらいっているばあいには、ショウをもらうというのはいらないとおもわれる。だから、うまくショウをうけられるようにすれば、もっとしごとがハッテンするかもしれない。

ジュウキュウ

ミンエイカは、ハチジュウネンダイから、カッパツになった。ソレンのシッパイとドウヨウ、ケイエイのしかたのモンダイともいえる。しかし、そのほかにも、モンダイがある。それは、まえにシテキした、コウリツのモンダイである（●ジュウシチ、『オ』ゴジュウロク）。

つまり、まとまりをジュウシするゆえに、ココのはたらきがよわくなってしまいうことだ。それなら、ココのちからをいかせばよい。それだけであろう。

ニジュウ

もう、バブルゴのセダイがそだっている。そのセダイは、そのまえのセダイとはかんがえがちがうであろう。だから、「センゴ」のジダイのつぎのジダイがはじまってよさそうである。しかし、センゴのセイサンがおわらないために、なかなかそういうこえはきかれない。センゴのセイサンがすすまないためかもしれないし、そもそもセンソウがおわっていないからかもしれない。ショクミンチへのサクシュへのトウソウなどである。

まだまだハイワとはいえないそうなのである。

ニジュウイチ

ダブリュエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わるディ（キヨリ）とかいた（ただし、コウセイがハッするようである。●ジュウニ）。これがただしければ、ウチュウのそとがわは、つめたいはずである（●『ス』ゴジュウキュウ）。

それで、わたしは、ウチュウのそとがわは、コタイだとかんがえる。つまり、なかからみたチキュウのようにである。それとドウヨウに、チキュウのうちがわにも、ウチュウのようなものがひろがるとかんがえる（●『ス』ヒャクニジュウロク）。イチブンでいえば、ウチュウとは、カイソウコウゾウになっている。ということである。

ニジュウニ

ケイザイののびは、みぎかかたあがりがいよとされる。しかし、にもかかわらず、キュウなハッテンをカンゲイしたりする。そのリュウのひとつは、かぶぬしのリエキのためであろうが、まあ、それをキタイしたりする。

そうではなくて、ケンジツなのび（ネンリツイッパーセントのうりあげゾウなど）をめぎすのがよいのではないか。「ながいきケイエイ」といっておく。

ニジュウサン

ダイエイテイコクは、かつてのセカイイチのようにおもわれているかもしれない。そのゴに、ガッシュウコクがさかえたからだ。「アメリカジンによるヘイワ」なんてことばもある。

しかし、ジョウキキカンなどをカイハツしたギジュツリョクは、ゲンザイでもいきているだろう。また、レンポウのくにもおおい。そういうくになが、「チキュウカ」などといひ、がんばっている。

このさきは、ガッシュウコクとチュウゴクだといういいかたをするが、ベツのセンもあるのだ。トクに、チュウゴクがたくわえたセイゾウギジュツ（もはや、ニホンジンがつくれなくなったセイヒンもおおいだろう。）と、ダイエイテイコクのギジュツがくみあわされれば、もっともつよいケイエイタイといえるだろう。

ニジュウよん

フリョウショウネンがひざをまげて、おしりはつけずにすわるというビョウシャがある。わシキベンジョは、そういうつかいかたをする。このすわりかたには、ほとんどのニホンジンがこころえているだろう。

ところが、キュウジュウネンダイに、おしりをヂメンにつけてすわりこむわかものが

ふえたという。それはタイドとしてのリラックスであろう。ヨウシキベンジョがふえたためかもしれない。それにタイオウして、サイキンは、わシキベンジョがへっている。

ニホンジンのドウサにリラックスがふえたようだが、どこにすわるでもなく、いすにすわるでもなく、そういう「わシキずわり」のシセイは、ファイティングポーズのようにダイジだとおもう。

ニジュウゴ

モジをかくのに、おおいシュルイですくなくかくか、すくないシュルイでタクサンかくかというセンタクがある。ゼンシャはカンジをかくようにであり、コウシャはエイゴをかくようにである。

どっちのハウシキでもよいが、ゼンシャのばあいだと、ひとつひとつのモジをおぼえることがカンタンでない。

そういうモンダイがあつてか、サイキンは、コウシャをシジするひがおおいようにおもう。ニホンゴは、そのチュウカンである。ヘイキンからみると、カンジはくろうとむけだろう。

ニジュウロク

モジがハツメイされ、キロクがカノウになる。そのゴ、そのモジがくずされ、キロクしやすくなっていく（ショウケイモジから、ゲンダイのモジのように。）そうすると、キロクのリョウがふえる。それをブンカというのだろう。

キンネンでは、デンシテキにキロクされる。まだまだブンカのジダイはつづくかもしれない。

ニジュウシチ

ハチジュウ、キュウジュウネンダイは、ニホンはセカイでニバンのケイザイタイコクといていた。コクナイソウセイサンガクが、セカイダイニイだったからだ。いまは、セカイサンイといている。

しかし、ホントウにそうなのか。ホントウのところは、イーユーとエイレンポウにつづくセカイダイゴイである。それをわすれてはならない。

ニジュウハチ

ミライをヨキしたシナリオエーとビーがあるとす（シーもあるかもしれない）。それ

をだれがきめるのか。シジョウがきめるのならば、それはミンシュシュギだろう。かみがきめるというのもあるだろうし、セイジカがきめるというのもあるだろう。それで、セイジというかのシュルイがクベツできる。わたしは、いまのところ、それぞれがきめているとおもっている。

ニジュウキュウ

もし、ミライのシナリオをシジョウがきめるのなら、そのシジョウをソウサしてしまえというかんがえもできることがかんがえられる。それができるとなると、もはやシジョウがきめているとはいえないであろう。そういうのをソウサされたシジョウということにする。

だれがソウサされたシジョウをつくるのか。ひとつは、セイジカだろう。そうすると、そのカイニューがおおいほど、シジョウを（ミンイを）ソウサするわけだから、チョウキセイケンができやすいだろう（だから、「ちいさなセイフ」がはやらない。）。ドクサイになるかもしれない。

このようにコウセイなセイドのようでも、きびしいウンヨウになるカノウセイがあることをショウチしていなければならない。コジンがシナリオのセンタクケンをもてるシャカイがよいシャカイかもしれない。

サンジュウ

いまごろでは、あまりヒョウカされるニホンセイヒンはすくない（ニホンキギョウはカイガイでもつくったりもしている。）。ユイイツのレイガイは、くるまでだろう。

なぜヒョウカされないか。わたしは、それは、ニホンキギョウが「ブツリョウ」にはしったからだとおもう。ブツリョウとはどういうことか。タクサンうるということではない。セイヒンのシツがブツリョウなのだ。

ハチジュウネンダイからのエンだかになるまえは、すくないエネルギーでうごくようにセイヒンがつくられていた。しかし、エンだかにふれてからは、いろいろとユニューできるようになったからか、ブツリョウにはしりだした。カセットテープレコーダーは、デンチがジュウジカンもつが、シーディプレイヤーは、ゴジカンしかもたない。コウシャのホウが、おとはよいといわれるが、そういうケッテンがある。シゲンのすくないくにすむイジョウ、それではいけないのではとおもう。

サンジュウイチ

サギョウのコウリツカなどという。それをするためになにをするか。サギョウにかけるジカンをきめるのか。それもできるだろうが、タンジュンにいうと、サギョウにシャク

ドをつくれればよい。コンピューターをドウニュウしているのならカンタンだろう。

サンジュウニ

あるセイヒンがあるとする。それがベンリなら、シジョウにのこる（つかわれつづける）だろう。こどもをうむうまないのかんがえかたはあるが、やはり、ベンリなら、シジョウにのこるだろう。そうかんがえると、センシンコクのニンゲンは、やくにたっていないことになる。どうなのだろう。

サンジュウサン

ケイキがいいだのわるいだのいう。おかねがよくまわっているかどうかをあらわすことばなのだろう。ケイキがわるいと、ケイキタイサクといって、コウキョウコウジをはじめ。そうすると、セイフのあかじがふえる。それでいいのだろうか。

センゼンからそうだが、ニホンはユニウがあって、なりたっている。だから、ボウエキシュウニュウがダイジなはずである。どうも、それをわすれてしまっているかのようだ。

サンジュウよん

ダブリュエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わる ディ（キヨリ）とかいた（●ニジュウイチ、ジュウニ）。

しかし、ひかりがすすんでいくことにおとろえがないとすれば、ダブリュエーイコールエルアイとなる。だとすると、ひかりのとどかないところは、ダブリュエーイコールドレイとなる。そういうわけで、そういうところにはコタイがあるだろう。

サンジュウゴ

キュウジュウネンダイに、「トレンディ」なブンカがはやった。テレビバングミによるエイキョウあつただろうし、ザッシによるエイキョウもあつたろう。

なぜか、クリスマスには、デートをしてといたぐあいには、コウドウレイがしめされる。そうしたブンカのエイキョウがあつたからか、ふと、そういうブンカをおもいだしたりする。そういうことをしなければという、なかばギムカンのようなカンカクにおちいることがある。ベツにジブンはジブン、タニンはタニンなのだから、それにならずしもしたがうヒツヨウはないが、それをしないと、「まけ」をセンコクされるようなきがある。

なにかそういう「トレンドィ」とはちがうブンカをみつけなければならないかもしれない。

サンジュウロク

わたしがコウコウセイのころ、かよったシィディやは、ルイケイでイチマンニセンゴヒャクエンブンかうと、ニセンゴヒャクエンブンのシィディがもらえた。リツにすると、ニワリである。そういうサービスがあったのでよくいった。

いまはそういうみせはみられなくなった。ベツのいいかたをすれば、それは、まずしくなっただ。ひょっとしたら、ニンゲンもそうかもしれない。「コセイ」とはいうけれども、コウリツがユウセンされ、コセイはへっていく。

サンジュウなな

キュウジュウネンダイコウハンから、ニホンでは、パソコンブームになった。それからパソコンがフキュウした。トウジ、ニホンのメーカーはニホンでつくっていた。いまは、チュウゴクセイがおおい。

それはともかくとして、パソコンをつくることで、だれがもうかるのか、タブン、ニホンジンももうかるが、チュウゴクジンがイチバンもうかるだろう。なぜか。オウベイがアルファベットのブンカなのにタイして、チュウゴクは、カンジのブンカだからである。グタイテキには、モジニューリョクでラクになる。カンジがもっともカクスウがおおい。それを、ジブンではかけなくてもつかえるのだ。そのメリットはおおきいだろう。

サンジュウハチ

ウチュウのそとがわに、コタイのかたまりがあるかもしれないというはなしをした(●サンジュウよん、『ス』ヨンジュウハチ、ゴジュウキュウ)。

ひかりすらもこおりつくほどのテイオンではないか。そこにたまったひかりのコタイが、あたらしくトウタツするひかりによってねっせられ、エキタイ、キタイとなるのではないか。そのケツカ、ウチュウのうちがわにむかって、コウセイのネンリョウとなれば、ウチュウは、またジュンカンする。

サンジュウキュウ

ウチュウのそとがわから「ガスカしたひかり」が、ウチュウのうちがわにながれているかもしれない。とかいた(●サンジュウハチ、『ス』ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャ

クハチ)。なぜ、そういうことがおこるか。わたしは、ブッシツのうごきは、キホンテキに「コウカン」だとおもうからである。いってみれば、エル（うごき）イコール イーエックス（コウカン）である。

さきのレイでいうと、ひかりとガスカしたひかり（ダークライトということにする。）が、コウカンされる。それによって、ウチュウがながもちするのではないか。

よんジュウ

エル（うごき）イコール イーエックス（コウカン）とかいた（●サンジュウキユウ）。そうであれば、まえにかいた（●『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）ように、エルイコール ティ（ジカン）である。これから、ティ イコールイーエックスとなる。

つまり、ティをセイリツさせるためには、ティ イコールイー（エネルギー）わるダブリュ（おもさ）ゆえに、エネルギー、オモサがヒツヨウで、ティとコウカンはトウカとなる。

ニンゲンのことばのおもさは、あまりはかられないが、カガクブッシツとすると、なんグラムかだろう。そこにエネルギーがあり、コウカンカノウだとすると、ジカンのカンネンができるだろう。ニンゲンは、エネルギーをもっているし、ことばをコウカン（たべることだ。）するから、ジカンをニンシキすることがカノウだったのだろう。

ジカンがないと、シンポすることがないから、コウカンしないようなセイブツはほろびただろう。

よんジュウイチ

ジカンとコウカンについてかいた（●よんジュウ）が、これは、セイブツであるためのジョウケンかもしれない。つまり、イチ、エネルギーがあって、ニ、おもさがあって、サン、コウカンがカノウであること。ジリツテキなコウカンができるところが、ほかのものどちがうだろう。

ニのおもさがあっては、みたせるものがおおいだろう。しかし、イチのエネルギーは、ほかからちからがかかるばあいもあるが、なかなかみたせるものはすくない。サンのコウカンカノウとなると、もうめずらしい。

エーアイののっているパソコンも、それにちかいがジョウホウをコウカンするだけだ。だから、セイブツをテイギするには、「エネルギーセイのもの」をコウカンするといったホウがいいかもしれない。

このジョウケンセイリしていくと、「あなたは、ティ（ジカン）イコール キユウジュウイチ（ジュミヨウがキユウジュウイツサイ）ですよといえるかもしれない。

よんジュウニ

デスクワークばかりしているジブンに、ジブンとエーアイとのサをといかけたとき、どちらがうのか、イッシュンではセツメイできなかった。まえからいっているように（●『オ』ジュウ、サンジュウ、サンジュウイチ、サンジュウよん、サンジュウゴ、サンジュウロク、ななジュウハチ、ヒャクよんジュウイチ、ヒャクロクジュウサン）、ジムサギョウはエーアイにうばわれてしまうだろうから、あせりもひとしおだった。それなら、うごきまわれればいいのかであるが、それは、イッポまちがえると、「ボウドウ」とまちがえられるかもしれない。そんなことをかんがえると、はたけをイジすることをわすれているときづく。ジんルイのハツメイだったはずだ。そんなことをわすれているようじゃしょうがない。

よんジュウサン

ひとのセイカツには、しごともあったホウがいいだろうし、シュミもあったホウがいいかもしれない。また、なにかのサギョウは、しごとだとおもしろくない。もし、すべてのサギョウが、しごとだったらどうだろう。たのしいはずのリョコウも、たのしくないかもしれない。

わたしは、ガツキをみてさがすのがシュミだが、これがしごとだとすると、みたとしてもかいたくない。シュミといっても、ケイサンすれば、つかわれるカイスウはかぎられる。シュミだと、やらないこともセンタクシのひとつだが、しごとだと、やらないしごとはムダである。

そういうめでみると、あまりつかわないものはかおうとはおもわなくなる。わたしのおやじも、おふくろもあまりムダなものかわなかつた。そういうみかたがわたしはできなかつたのだとおもう。

よんジュウよん

サイキン、テレビをみて、ふとおもった。ガメンにうつっているニホンジンのこどもは、めぐまれているなど。タブンガッコウにいつているのだろうが、シュミもやっている。わたしがそれくらいのネンレイのころにも、やはりシュミをやっていた。プールにいくとか、テレビゲームをするとかである。

そういうゆたかさがおわっていないすると、まあここサンジュウネンほどは、あまりケイザイなどがアツカしていないのだろう。よくはなっていないかもしれないが、わるくもなっていない。まあ、わたしは、それで、わかいセダイに、ゆたかさをひきわたせたのだとアンドした。「バブル」というのもあったが、またおきるとはカクシンしていない。

よんジュウゴ

エル（ウンドウ）イコールイーエックス（コウカン）とかいた（●サンジュウキュウ）。ニンゲンもエルがカノウで、したがって、なにかをコウカンしてうごいているだろう。たべものやガスなどである。

これらは、カガクブッシツといえるだろうし、ばあいによっては、デンキシングウシヨリだろう。もし、そうであるなら、エルイコールイーエル（デンキ）である。それから、デンキをもつものはうごくとなる。シィディプレイヤーもうごいているし、テレビもヒョウジをかえる。

もし、ワクセイのカツドウをデンキでとらえれば、デンキがあるゆえにうごくともかんがえられる。つまり、ジュウリョクはデンキというわけである。ジー（ジュウリョク）イコールイーエルだ。また、ジーイコールエルでもある。これは、ジュウリョクにひかれるというはなしだから、わかりやすいであろう。

よんジュウロク

ちいさいおもいものをもってから、おなじおもさのおおきなものをもつ。すると、おおきなホウが、おなじおもさであるにもかかわらず、かるくかんじる。これは、タブン、シンリガクというサッカクであろう。ニンゲンはタイセキにあわせて、おもさをスイソクするチセイがそなわっているのだろう。

よんジュウなな

タイヨウには、ジュウリョクがあるといわれる。わたしはそれをうずまきリョクといった（●『ア』ヒャクロクジュウサン、『オ』ヒャクゴジュウロク）。そのかわりに、そとがわへむかってひかりをだす。ということは、ジー（ジュウリョク）とエルアイ（ひかり）のコウカンといえそうだ。

しかし、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるわけではない。もえつきたあのように、ひかりをださないこともあるだろう。だから、ジーがつよまれば、イーエル（デンキ）がつよまるとはいえそうだが（●よんジュウゴ）、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるとはいえなそうである。

よんジュウハチ

タイヨウは、ジュウリョクをもち、かわりにひかりをだすとかいた（●よんジュウなな、『ス』ヒャコジュウゴ）。そのようにひかりはジュウリョクからリダツするセイノウをもつ。それならば、ひかりをつかって、ジュウリョクからリダツするなにかもつくれるだろう。

よんジュウキュウ

ガッシュウコクで、あまりシャカイシュギシャがいるとはきかないが、タブン、シャカイシュギシャもうけいれるんだらう。 IPPOW、ロシア（ソレン）やチュウゴクは、シャカイシュギコクだったが、シホンシュギテキなケイザイカツドウをはじめている。たまに、ガッシュウコクとチュウゴクのニタイコクが、チキウシャカイをきめるなどというが、それがなぜなのか、あまりセツメイされない。わたしはこれをつぎのようにおもう。

ガッシュウコクなどのにしがわショコクは、シャカイシュギをみとめるシホンシュギコクである。かれらと、（ロシア、）チュウゴクなどのひがしがわショコク、シホンシュギをみとめるシャカイシュギコクとのトウソウではないか。おなじようかもしれないが、ちがうともいえる。そういうことではないか。

ゴジュウ

いまのニホンやこれからを、コウレイショウシカといっている。としよりがふえて、こどもがへるということだ。ひとがおいとどうなるか。からだがうごかせなくなったり、ぼけたりする。わたしのおやじもそうになった。ジテンシャにのってころぶくらいだったのが、やがてねたきりになった。そうすると、ヨウもたせないから、おむつとなる。

たまに、わかいひとがナンニンで、としよりをひとりささえるというはなしがでるが、まあそれだけロウリョクがかかるといえる。そのブン、フツウのしごとができなくなるといってもよい。そのように、おむつかするニホンであるが、フツウのしごとだけでなく、ボウエイなどもタイヘンであろう。いまは、ガッシュウコクがたすけてくれるからいいが、ニホンジンがおかねをもっていないとなると、そうもいかない。

チョキンがあって、おかねをあまりつかわないというと、ケイキがわるくなるといって、だれかがおこりだしそうだが、チョキンというのは、「ホケン」であろう。フツウのホケンは、だれかにおかねのウンヨウをまかせるが、チョキンはジブンでウンヨウする。ウンヨウにかかわるコストもおさえられるから、フツウのホケンよりいいかもしれない。そうしたジコホケンがあれば、なんとかなるだらう。ニホンジンがおむつかしたときに、ホケンなしではセイカツできないであろう。セイフは、ジコセキニンとはいわないが、やはりそういうメンがあるだらう。

ゴジュウイチ

ジュウネンほどまえに、パソコンソフトのカイゾクバンをつかまされたことがある。それは、パッケージのシツがわるいソアクヒンだった。なかみはみなかったのでわからないが、チュウゴクからおくられてきたわかりやすいレイだ。

サンネンまえにもまたつかまされた。それは、パッケージはまあまあでうごかしてみてもきづいた。フツウのものとはうごきがちがうからである。このまえもつかまされたが、サイキンのものは、みためでクベツがつきにくい。なかみも、トウロクバンゴウなどをパターンブンセキして、ホンモノとおなじものをつかうから、ほんものとおなじつかいことができる。そういうパターンブンセキのギジュツがここゴネンであがってきたようだ。シジョウをみわたすと、そういうソフトがかなりうられている。そういう「ゾンビ」ソフトをあつかうように、シジョウもゾンビかしているのである。こういうジョウタイがつづけば、セイキヒンをあつかうメーカーのリエキをそこなうのだ。ばあいによっては、そのシジョウから、てをひくということもかんがえられるであろう。ニホンのコンピュータソフトシジョウは、あまりうわさにならないが、そのようになりひどいのである。

ゴジュウニ

ジー（ジュウリョク）イコールイーエル（デンキ）のはなしをした（●よんジュウゴ）。もし、それがただしければ、ジュウリョクをつかったヒコーキができることになる。デンキでとぶヒコーキはまだすくないが、リクツのうえではそうなる。しかしながら、ジュウリョクはそれなりのシゲンである。だれかがチキュウからはじきとばされるのでは、しょうがない。だから、これはギジュツテキにはカノウかもしれないが、シャカイテキなモンダイをはらんでいるといえるだろう。

ゴジュウサン

イーエル（デンキ）イコールジー（ジュウリョク）のはなしをした（●ゴジュウニ、よんジュウゴ）。コウセイで、ジュウリョクがひきよせて、ひかりがはなたれるから（●よんジュウハチ、よんジュウなな、『ス』ヒャコジュウゴ）、イーエルとエルアイ（ひかり）は、ヒョウリのカンケイといえそうだ。たとえば、デンキが、ビーからエーホウコウにはしれば、ひかりがエーからビーホウコウにはしるとすることができそうだ。まあ、セツケイによるだろう。

ジッサイ、タイヨウコウハツデンキもつくられているし、デンキユウもつくられている。

イーエルイコールジーだから、ウチュウのごみをソウジするのに、デンキをつかえばいいかもしれない。ジーでごみをあつめるわけである。なにかのセイヒンにつかえるギジュツだろう。

ゴジュウよん

センゴ、トウキョウはたてなおされ、セカイユウスウのダイトシとなった。むかしからあるトシは、せいぜいチカテツをつくり、くるまとヘイヨウしてはしらせるのがフツウだが（むかしはバシヤがはしっていたであろう。）。トウキョウは、センソウのケツカやけたため、ダイタンなトシケイカクがカノウとなった。それで、シテツ、キュウコクテツカクシャが、トウキョウのチュウシンからホウシャジョウにロセンをはしらせた。ケツカ、コウガイにジュウタクがたち、テツドウでツウキンするようになった。

くるまでもツウキンカノウだが、それでツウキンするひとはすくないようだ。しかしながら、センゼンは、くるまは、かねもちののりものだったが、センゴフッコウをへて、ニホンジンはくるまをもつようになった。それであるならば、トウキョウにくるまつウキンすることは、ケイザイテキにゴウリテキなセンタクといえよう。しかしながら、コウガイからのカンセンドウロはせまいし、トウキョウでチュウシャジョウを見つけるのはむずかしい。つまり、トウキョウは、くるまでツウキンをするセツケイにはなっていないのである。

もっといって、セツケイシャは、くるまをニホンジンがもつとはおもっていなかったのであろう。しかしながら、もってしまったものはしょうがない。セツケイをてなおするヒツヨウがあるとおもわれる。くるまでかよったホウがやすいからだ。それなら、チュウシャジョウトウをつくれればよいが、あまりのこっているトチはない。ワンガンがあるが、ウォーターフロントだから、ひとがすみたがる。そこをどうかんがえるべきだろうか。

ゴジュウゴ

イデンシはジョウホウのチクセキである。タンジュンにタンパクシツをつくるともいわれる。ひょっとしたら、そのセイブツのレキシがかかっているかもしれない。トツゼンヘンイというのは、そのセイブツのなにかがかわったケツカだろう（ギヤクのカノウセイもある。）。

どのレベルのことから、ヘンイがハッセイするだろうか。わたしがおもうには、タブン、コウドウがかわったばあいである。そうすると、つかうキンニクがかわってくるからだ。そのためにつくるタンパクシツもかわってくるだろう。だから、あたらしいスポーツができたり、あたらしいセイヒンができたりして、つかいはじめると、イデンシがヘンカするだろう。

イゼン、わたしは、「あたらしい」ノウができるとかいたが（●『よ』ヒャクななジュウ、

ハクジュウサン)、イデンシレベルでヘンカがおこるようにおもう。ふるいブジュツがのこっているとすれば、ふるいイデンシものこっているだろう。だれかがうけついで、やすんでいるそれをみれば、ふるいブジュツがフクゲンできるかもしれない。

ゴジュウロク

カブケンならびにカブシキシジョウがデンシカされてしばらくたつ。むかしのトリヒキジョウは、ひとがあつまっていいとおもうが、タイリョウのチュウモンをこなすにはコンピューターのホウがツゴウがよいのだろう。

しかし、そのリテンはそれだけではないだろう。タイリョウのチュウモンが、イッキにショリされるから、シジョウがアンテイするわけだ。だから、トウキカにはおもしろくないが、チョウキでトリヒキするにはむいているだろう。あれてもすぐもどるというわけだ。

ゴジュウなな

「コウレイカ」といわれてひさしい。このあと、ジンコウがイチバンおおいセダイがコウレイカし、ホンカクテキナコウレイカシャカイがはじまる。

ゲンザイのニホンジンのコジンキンユウシサンはおおいが、セイフのフサイがおおいため、それでセイサンされれば、ニホンジンはキンユウシサンなしとなる。コンネンドのセイフヨサンがハクチョウエンほど。これはゼイシュウのほかにもゴジュツチョウエンほどのアカジコクサイがハッコウされる。このままザイセイカイカクをしないと、イチバンジンコウのおおいセダイのすがたがみえなくなるころ、ニセンサンジュウハチネンには、やはりセンチョウエンのкокサイザンダカがのこる。

これはニホンジンにはらえるかわからないガクだ（コクミンが、ただばたらきをすれば、はらえる。ニハクマンエンブンをロクセンマンニンがジュウネンはたらけばセンニハクチョウエンになる。）。

またそのゴもコウレイカはつづく。だから、さきにのべた、ただばたらきをしたくなければ、ザイセイなり、コジンのサイフのひきしめなどがヒツヨウであろう。ニセンサンジュウキュウネンでセンチョウエンだから、ニセンニジュウキュウネンでゴハクチョウエン。

もうすでに、ゴハクチョウエンキボの、ようするに、ニハクマンエンブンをサンゼンマンニンがはたらくただばたらきがはじまってもおかしくない。しかし、ほかにもホウホウがあるとことわっておく。

ゴジュウハチ

ガッシュウコクでキンユウギョウがハッテンしたといわれる。なぜおかねをふやすヒツヨウがあるのか。それはケイエイをやってみないとわからないメンがあるが、ジツブツにくらべると、ツウカそのものにはカチがない。それでもつかえそうだというかんがえがあろう。

むかしまいにキンでホシヨウすれば、ツウカもホシヨウされる。しかし、そのセイドはつづいていないようだ。あまりツウカダカだと、ユシュツがむずかしくなる。だから、それをとっぱらうために、キンをつかうのをやめて、ユシュツしようとしたのだろう。そうすれば、ほかのくにのひとがやすくかえる。それがホントウにやすいかはなんともいえないが、かうコウホになるだろう。

ニホンもハチジュウゴネンにエンダカになることをショウニンした。それでユシュツがフシンにおちいったともいえるが、モンダイはコヨウのホウだ。ニホンセイヒンのカカクキョウソウリョクがよわまったわけだから、うれなくなる。それで、ヒセイキコヨウをふやした。

ようするに、シツギョウシャみたいなのひとがふえたわけだ。ガッシュウコクでもそうだったのだろう。シツギョウシャをセイキコヨウするには、おかねがかかる。それをかせぐのがキンユウギジュツだったわけだ。ウンヨウエキができれば、それでやとえる。ガンボンワレだとあとにひびくが。ウンヨウエキのブブンでやればソンはない。

ニホンでは、フリヨウサイケンショリイコウ、キンリがあがっていないが、オウベイではちがう。ニホンでは、セイフのサイムがあったから、ミンカンがチョウシよくとも、セイサクキンリをあげられない。オウベイでは、そのキンリによって、シツギョウシャをささえられた。ニホンではおなじようなモンダイがあるにもかかわらず、それができていない。キンリがひくいから、カブシキシジョウにながれるだろう。わりだかといわれるくらいであぶないが、そういうことをしないと、シツギョウシャをささえきれない。そういうモンダイがある。

ゴジュウキョウ

さきに、ニホンジンが、ただばたらきをするようになる（●ゴジュウなな）とかいた。これは、コウレイカのシンテンなどで、セイフフサイがふえるためである。それはなにかであなうめしなければならぬ。タンジュンにフサイをださなければいいだけだが、いまのところ、カイゼンするケハイはない。だが、だれかががんばれば（おかねをだせば）、そうならないカノウセイもある。

しかし、むかしはロウエキがあったわけだから、けっしてめずらしいケースではない。ゲンジョウ、ただばたらきのロウドウシャがいるところを、だれかがかねをだしているから、そうなっていないところだろう。

おおきなかねがあると、キンリだけでケッコウなはずのロウドウシャをやしなえる。たとえばゴビャクチョウエンあれば、ネンカンジュウゴチョウエンくらいで。それなら、サンゼンマンニンのただばたらきのひとにゴジュウマンエンをはらうことができる。こづかいがでるわけである。しかし、そういうおかねがなくなると、ただばたらきのニ

ンズウがふえ、こづかいもでにくくなる。セイフフサイがでつづけるとなると、そうなるみこみがおおきい。

タンジュンにケイサンすると、セイフフサイがネンカンゴジュツチョウエンでるわけだから、イチネンカンにネンシュウゴヒヤクマンエンのロウドウシャイツセンマンニンが、ただばたらきしなければならないとなる。それがつづいて、だれもかねをださないとなると、キギョウのいきおいにあわせて（キギョウはブジである。しかし、キョウソウにさらされる。）、フツウのシャインのかずもゾウゲンするだろう。

キギョウは、コクサイキョウソウもそうだが、コクナイでタクサンのただばたらきがふえるわけだから、かなりのキョウソウにさらされる。ということは、シャインのチンギンがさがるか、やとうひとをへらすとなるだろう。そうなると、セイヒンをつくってもそんなにはうれない。かうひとにそんなにおかねがないからだ。

ゲンザイでもそういわれたりする。ということは、セイヒンのカカクがさがって、はたらくひとのキュウリョウもさがる。いわゆるケイキがわるいだ。それをどうやってのりこえていくかがカダイだろう。タンジュンにかなりチンギンをさげれば、ながつづきするだろうが、それをするためのキセイはきめにくいだろう。

ロクジュウ

そこらにあるしていると、くるまがよくめにつく。あるカンテンからいうと、それだけかねもちがおおい。そんなにかもちがいるのか。となる。

ニホンのユシュツニューのトウケイからいうと、せいぜいニジュツチョウエンのくるじ（それでもすごい。）だから、そのギョウカイにつとめるジュウギョウインはかえてもおかしくない（くるまはシゼンブツではないのだ。テッコウセキをユニユウするヒツヨウがある。つまり、ゲンリョウはユニユウだ。）。ニジュツチョウエンをキュウリョウとしてハイブンすると、ネンシュウサンビヤクサンジュウサンマンエンのガイカをもつジュウギョウインがロツピヤクマンニンいることになる。くるまのネダンがサンビヤクマンエンとしても、そのひとたちは、くるまをかえるだろう（ジュウネンローンでもいい。）。だとすると、ロウドウジンコウのジュウブンのイチテイドがクルマをかえることになる。つまり、ジュウニンにひとり、ジンコウでいうと、ニジュウニンにひとりとなる。

だから、そのケイサンでかんがえると、くるまはそんなにはしっていないはずなのだ。かねもちがおおいというジツカンもそこそこまとをえているだろう。しかし、くるまはタクサンはしっている。それはなぜなのか。

さきにのべたように、ニホンのガイカシュウニューはせいぜいニジュツチョウエンである。そのガイカシュウニューのハンブンはあぶら、ガスをかうだろう。のこりハンブンのハンブンはセイゾウにヒツヨウなゲンリョウをかうとして、そのこりのハンブンのハンブンでくるまをかうとする。ゴチョウエンだから、ヒヤクゴジュウマンダイかえる。かいかえがあったとしても、センゴロクジュウネン（ややフッコウしてから。センキュウヒヤクロクジュウネンから、それがつづいたとすると、ななジュウネンでハッセンロツピヤクマンダイかったことになる。

それなら、なぜかはセツメイできる。ところが、このケイサンだと、くるまいガイのユニウヒンテキなもの、かえていないことになる。ガイカシュウニュウのよんブンのイチをくるまのクウニュウにあてたということだからだ。

つまり、センゴフツコウしてユシュツできるようニホンジンががんばったが、コクナイにあるものイガイは、くるましかてにはいらなかったことになる（「くるまが」といったホウがいいかもしれない）。わたしがバブルをケイケンしたセダイなのでそういうが、ななジュウよネンカンのドリヨクのケツカが、ニホンジンがくるまをもったということになる。ベツにくるまでなくともよかっただろうが、そとをあるいてみると、どうもそのようだ。

それがいわゆるななジュウよネンカンのニホンのケイザイセイチョウである。キュウジュウネンダイから、ユニウヒンがふえはじめたが、それらをかうとなると、くるまをかうにはたりなくなってくる。それをどうかんがえるか。ひとつは、くるまをダイジにながくつかえばいいのである。しかし、ゼイセイ、キセイがチョウバツテキだから、カンタンではない。しかし、シュウリしてつかえればいいだろう。そうすれば、ほかのなにかもかえるかもしれないのである。

ロクジュウイチ

ニホンジンのジツツテキなものシュウニュウというと、ネンカンニジュツチョウエンほどのガイカシュウニュウにすぎない（●ロクジュウ）。そのほかはニホンジンドウシで、ぐるぐるまわしているにすぎない。そのまわしたリョウはコクナイソウセイサンではかられる。シュウニュウがニジュツチョウエンだから、ひとりあたりニジュウマンエンテイドだ。このハナイで、ユニウヒンをかわないとあかじになる。あぶらとガスはユニウである。デンキもダイタイあぶらやガスからつくられるので、ユニウだ。

あなたのいえのクウネツヒはいくらか。ネンカンジュウマンエンでおさまっていたらまあいいだろう。あとジュウマンエンのこることになる。わたしはキョネンユニウヒンをゴマンエンぐらいかった。そうすると、ゴマンエンのこるが、タブンショクヒにきえただろう。ギウニクとこむぎである。そうすると、そうすると、あたたかいおもと、いいからだつきと、かったテチョウとマンネンヒツがのこる。

そうかんがえると、そんなにゼイタクはできないとわかってくる。ショクリョウも、さかなや、とりにくをたべればガイカをつかわない。ラーメンでなくて、そばなどにしてもいい。それがカンベキにできれば、ゴマンエンチョキンできる。そうやって、ガイカをチョキンすれば、なにかのときにやくにたつだろう。もし、これがあかじだと、ニホンジンはまずしくなるということだ。

ロクジュウニ

ただばたらきのひとがふえそうだとかいた（●ゴジュウキュウ、ゴジュウなな）。コウレ

イカとシャカイセッケイのシツパイからそうなるんだろう。いまのところは、セイフフサイよりもミンカンのチョキンがおおいから、それはヒョウメンカしない。

セイフフサイののびは、まいとしゴジュツチョウエン。これがミンカンのチョキンにおいてしまうと、セイフはどこからか、かねをもってこないとならなくなるから、ゾウゼイやキュウリョウをテンビキすることがかんがえられる。そのはてが、ただばたらきである。イッセイにテンビキするか、シヨクギョウにあわせてテンビキするか、そこはわからない。

しかし、おかねがまったくないわけではない。あるところにはあるはずである。だから、うまくそういうひとたちとしごとをすればよい。おおむかしの、ひとはシュリョウしていたという。しかし、コンドは、ひとのよいシュリョウであろう。ブツブツなんかをいうより、すなおにしごとをするホウがこのまれる。そうやってめしをかせげばいいのである。そのためには、こだわりをすてるのもダイジであろう。

ロクジュウサン

ひとりあたり、ネンカンニジュウマンエンが、ニホンのケイザイセイセイチョウといった（●ロクジュウイチ）。このニジュウマンエンは、いまのところつかっていないなにかをてにいれるのにつかえる。ネンカンニジュウマンエンだから、よんジュウネンそれをためてもハッピークマンエンである。

いま、いえをもっていなかったとしたら、いえをたてたいかもしれない。しかし、このばあいたててはだめである。ハッピークマンエンではたたないだろうからだ。ともばたらきでセンロツピクマンエンとすれば、ズイブンなコウガイにたてられるかもしれない。しかし、ゼイタクするのなら、そのセンロツピクマンエンがねべりするからやめたホウがいい。

いますんでいるチンタイアパートがつきジュウマンエンなら、ネンカンヒャクニジュウマエン。ジュウネンでセンニヒャクマンエンだ。ずっとすむつもりだったら、よんジュウネンで、よんセンハッピークマンエンになる。それなら、はたらきだしてすぐにいえをかえばいいだろうが、そういうひとはすくない。よんジュウダイになって、ニジュウネンブンのヤチンのニセンよんヒャクマンエンとチョキンでかうかというハンダンになろう。

ゼイタクをしていなければ、さきのケイザイセイチョウブン、よんヒャクマンエンためているんだろう。それでニセンハッピークマンエンである。コウガイにかえる。こんなところが、ニホンジンにできることでないか。タブン、ケンジツでないともずかしいだろう。

ロクジュウよん

エル（ウンドウ）イコールイーエル（デンキ）のはなしをした（●よんジュウゴ）。うご

くということは、デンキカツドウというわけだ。もうショウメイされているが、デンキをつかえば、ロボットはうごく。ギャクもまたたしかなのだろう。フウシャがうごく、デンキがたまるといふぐあいである。もっとキョクタンにいうと、ニンゲンのうごきもデンキになるだろうし（そもそもデンキでうごいている。）、ゲンジョウ、てまわしハツデンがおおいが、ふることでハツデンもできるだろう。

ロクジュウゴ

イーエル（デンキ）のはなしをした（●ロクジュウよん）。イーエルをつかうと、ひかりがでるソウチがある。イッパンにデントウといわれる。シキにすると、イーエルたす ○ ○（なんといえよいだろう。）イコールエルアイ（ひかり）となる。つまり、○○があれば、デンキは、ひかりにかえられるし、ひかりも、○○があれば（エルアイひく ○ ○イコールイーエル）、デンキになる。それは、ジッサイにタイヨウコウハツデンがある。つまり、エル（ウンドウ）イコールイーエル（●ロクジュウよん、よんジュウゴ）だから、エル イコール エルアイひく ○ ○となるわけである。ようするに、○○があれば、ひかりは、ウンドウにかえられるということだ。ギャクに、○○があれば、ウンドウもひかりにかえられる。その○○とはなんだろうか。またかんがえてみたい。

ロクジュウロク

エル（ウンドウ）イコールイー（エネルギー）わるダブリュ（シツリョウ）とかいた（●『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）。このシキからいえることは、あるウンドウをおおきくするには、ふたつのやりかたがあるということだ。ひとつは、エネルギーをふやすことだ。たとえば、ロケットにタクサンネリョウをつめばいい。もうひとつは、シツリョウをへらすことだ。ロケットでいえば、キタイをかるくすればいい。

ところで、エル イコールイーエル（デンキ）だから（●ロクジュウゴ、よんジュウゴ）、マンガンをつかったデンキもウンドウがカノウだろう。フツウは、あるキョクへむかうという。こうしたウンドウをたかめたければ、さきにいったように、エネルギーをたかめるか、つまりエネルギーのおおきいブッシツをつかうか、シツリョウをかるくすれば（かるいブッシツをつかえば）よい。

つまり、スイツがあるシュルイのブッシツでは、もっともかるいらしいから、そのなかではもっともウンドウがおおきくなるかもしれない（エネルギーがおおきいものもある。）。そうしたホウが、ウンドウをふやすにはコウリツテキだろう。たとえば、コンピューターのケイサンである。そういうのをコウセイノウカしようとおもったら、もっとシツリョウのちいさなブッシツをつかったホウがいいかもしれない。だからそういうもののケンキュウがすすむ。それがセンタンのブツリガクであろう。

ロクジュウなな

チュウゴクは、シンコウコクのようにおもわれている。しかしながら、チュウゴクはブンメイコクである。かつていろいろなものをカイハツ、フキユウさせた。だから、チュウゴクをシンコウコクとみると、みあやまることになる。あたらしいものがないとはかならずしもいえないからである。

インカンもチュウゴクジンがハツメイしたひとつであろう。コウテイがつかっていたとき。コウテイヨウはともかく、イッパンにもリヨウがひろがったのであろう。インカンとカンジのくみあわせはいまでもつかわれている。ニホンでは、きをほることがおおいが、チュウゴクでは、いしをつかう。いしをつかうのは、ニホンではめずらしいだろうが、わたしもほったことがある。

トクにいいザイリヨウは、かざりとしてチョウコクがほられている。そのギジュツはすごい。ニホンでは、ブツゾウなどをほっていたジダイもあっただろうが、いまムメイのショクニンが、すばらしいチョウコクをしているとはきかない。そもそもそんなにかずがないのであろうか。

まねのイキをでないが、きのインカンにアニメノキャラクターをチョウコクしたっていいだろうが、どうも、そういうのはみない。そもそもアニメのキャラクターのチョウコクをしているひとも知らない。ひょっとすると、ニホンジンはそういうギジュツをあきらめてしまったかもしれない。そうだとすると、ニホンジンは、チュウゴクジンにくらべて、キソギジュツもおとるし、センタンギジュツでもおとることになるかもしれない。やはり、まじめにやるひとがづよい。

ロクジュウハチ

まえにいったように（●よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）、ティ（ジカン）イコールエル（ウンドウ）である。ということは、ウンドウをマイナスにすれば、カコへのジカンリョコウがカノウになるとなる。タンジュンに言えば、むかしいたところにもどればいいわけである。

しかし、それを「カコにいった。」というひとはいない。ほかのなにかがマイナスになっていないからだろう。たとえば、ビーさんもつきあって、むかしいたところにもどれば、カコへのリョコウといえるかもしれない。そうやって、「ジカンリョコウ」というのは、ひとりのイシでなく、タクサンのなにかのキョウリョクがなければ、タッセイできないといえそうだ。

ロクジュウキュウ

まえにデッドロックのはなしをした（●『ス』ヒャクなな、ヒャクよん、ニジュウ）。デッドロックとはまわりからのジュウリョクがつりあって、うごかないほしである。

そこでは、エル（ウンドウ）イコールレイ、エルイコールティ（ジカン）（●ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）ゆえに、ティイコールレイである。

つまり、ジカンがながれないほしである。そこをしらべれば、かつてのいきもののゲンケイなどがみつかるかもしれない。ジカンがながれないからだ。また、そこにはいっていけば、ニンゲンやドウブツなども、いつまでもホゾンされるとおもわれる。

ななジュウ

うみにはなみがある。それは、あまりとまったりしない。うごきつづけている。つまり、エル（ウンドウ）なわけだ。ハツデンをねらうたちばかりは、それはカッコウのうごきである。つまり、なみがたつブンは、デンキにかえられるということだからだ。しかし、それをダイダイテキにやると、サーフィンができなくなる。そういうモンダイもある。

ななジュウイチ

ウンドウとはひとにとっては、はじめられることだろうが（おどりをおどれるだろう）、イッポウで、はじめりだったかもしれない。わたしにいわせれば、エル（ウンドウ）イコールイーエル（デンキ）だ（●ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ）。つまり、ウチュウか、もっとおおきななにかのはじまりには、デンキがおこった。それによって、ウンドウがはじまったといえそうなのである。

トウショのウンドウはガスやいしなどのイドウであっただろう。つまり、デンキやウンドウがカクサンした。それがつづき、チキュウでウンドウするようなセイタイができた。それは、ウンドウのもと、「モデル」があったからであろう。ちがういいかたをすれば、チキュウにセイメイをはじめさせるためのブッシツとウンドウ（デンキ）があつまったからだろう。つまり、セイメイをハッテンさせるには、デンキがヒツヨウだということだ。そういうシゲンとデンキがあつまるほしをみれば、セイブツのようなものがカンソクできるかもしれない。セイブツはウンドウをみて、ウンドウをはじめたと。

ななジュウニ

ウンドウは、エル（ウンドウ）イコールイー（エネルギー）わるダブリュ（シツリョウ）ではかれるとかいた（●ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）。それがただしいとすれば、ウンドウのおおきさをきめるのに、ふたつのハウハウがある（●ロクジュウロク）。

ひとつはウンドウするもののシツリョウをへらすことである。だから、よりちいさなブッシツをさがす。これはわかるはなしだ。イッポウ、もうひとつは、エネルギーをふやす

ことである。よりおおきなエネルギーをつかえば、ひかりよりもはやいウインドウがカノウになるかもしれない。

たとえば、ひかりは、ヤクサンジュウマンキロメートルを、イチビョウですすむという。かりに、サンジュウマンイコール ロクジュウマン わる二とする。そのエネルギーのブンをヒャクニジュウマンにすれば、ニバイのウインドウになるだろう。

ただそのエネルギーをどうするかというモンダイはある。エルイコールイーエル（デンキ）だから（●ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ）、タンジュンにデンキをつよめればともいえる。しかし、それによって、エルイコールジー（ジュウリョク）（●よんジュウゴ）のジーをハッセイさせてしまうカノウセイはある。だから、カンタンではないだろう。いってみれば、タイヨウケイなどをぶっこわさないようにやるべきだろう。

ななジュウサン

トシにいくと、ひとがあふれている。なれていないと、ぶつかってしまうだろう。しかし、いなかにくと、そんなにひとがいない。だから、ひとよりものをみるだろう。わたしは、イゼンはトシがすきだったが、いまではいなかのホウがすきになった。とりなんかがとんでいたホウがいい。

トシだと、ひとをあいてにしごとをすることがおおいだろうが、いなかだものをカコウしていれば、しごとがなりたったりする。どうも、わたしもものをカコウするホウがすきなようだ。

それでも、わかかいは、ひとをあいてに、しごとをしていたことがある。きらいではなかったが、ものをあいてにするホウがこのみかもしれない。そうやって、ひとをみるのか、ものをみるか、えらんでみるのもいいとおもう。

ななジュウよん

なんとなく、パソコンでブンショでもつくってれば、しごとをしたようなきになるかもしれない。しかし、しごとがあるのは、ガメンのそとである。ガメンをのぞきこんでもヤサイはとれないし、コウギョウセイヒンもできない。ケッキョク、パソコンでできるのは、イチブのサービスギョウではないか。それだって、パソコンは、にもつをはこんでくれない。そこのところをわすれてしまうと、いいしごとができないとおもう。しごとがあるのは、ガメンのそとということだ。

ななジュウゴ

コンピューターネットワークでリエキをだすのはむずかしい。あるカカクをセッテイし

ても、ほかのみせのホウがやすかったりするからだ。それでも、ユウイにたとうとすれば、タクサンしいれるなどして、イッコあたりのしいれねをさげるようだ。そうすれば、カカクキョウソウでユウリになる。あとは、どこかとおくからしいれないで、ちかくでいいものを、からだをつかってしいれることだ。それなら、ソウリョウブンやすくできる。しかし、そうやってリエキをだすのもカンタンではないだろう。

ななジュウロク

ゲンザイのニホンはキンリがひくい。だから、だれかにあずけて、キンリをかせぐのはむずかしい。しかし、ほかのセンシンコクでは、キンリをあげるかもしれない。ニホンでは、それをおっかけて、キンリをあげるのはむずかしいだろう。セイフフサイがあるからだ。これがキョウガクだから、キンリをあげると、りばらいでザイセイをアップクする。しかし、ホウホウがなくはない。

イチオウキンリはあげて、そのブンすべてにカゼイをすればいいわけである。つまり、キンリをゴパーセントにするならば、そのゴパーセントブンをゼイキンとしてチョウシュウすればよい。それなら、セイフのりばらいでザイセイをアップクすることはすくないだろう。

ななジュウなな

むかしとくらべて、すしやがふえた。ふえたのは、カイテンずしやであろう。やすいものだと、ものはよくないが、そこそこたべられる。おもいだすと、わたしがこどものころにたべていたのは、せいぜいテッカマキだったとおぼえている。

おやじはチュウリュウのサラリーマンだったが、きゅうりをまいたのりまきや、カンピョウをまいたのをよくたべていた。それをかんがえれば、さかなののったすしがたべられるというのは、ゆたかになったということだ。そのジキはバブルまえで、まだ、ニホンがケイザイセイチョウしていた。

わたしは、そんなにすしはたべていないが、そういうすしをわすれて、いいものをたべるようになってから、ニホンのケイザイセイチョウがなくなったとおもう。また、がんばりたかったら、そういうショシンをわすれないことである。

ななジュウハチ

「クヨウ」ということばがある。センゾをクヨウするが、もっともつかわれることばだろうか。ほかにも、はり（サイホウでつかう。）をクヨウしたりするらしい。そういうおもいがあれば、なにをクヨウしてもよいのだろうか。しかし、それがいきすぎると、「ごみヤシキ」になる。そこのジュウニンは、あまりそういうことをいわないようだが、わた

しにいわせれば、クヨウのモンダイがあるとおもう。すてるかみあれば、ひろうかみあり。であろう。

ななジュウキュウ

キンダイのセンソウでは、ヘイはたまをうつ。むかしはゆみやだったろうが、いまはテッポウだ。そういうわけだから、たたかおうとおもったら、たまをタクサンヨウイしなければならぬ。たたかいはじめると、ドンドンたまをショウヒする。これは、いまのショウヒセイカツにもいえるだろう。

コーヒーをのめば、あきカンがごみとしてでる。ジブンのカップをもちあるいて、そこにいれてもらえば、ごみはでないが、いまのところそういうサービスセッケイになっていない。ベントウもたべれば、ヨウキのごみがでる。それをリサイクルするかもしれないが、ドンドンすてる。これもセンソウであろう。

センソウがおわって、ななジュウネンイジョウたつが、そういうなごりがのこっている。わたしがおもうには、ショクヒンなどのヨウキに、リサイクルのむずかしさ、コウジョウからのキョリでスウジをつけて、なるべくスウジのちいさなものをセンタクできるようにすればとおもう。

ハチジュウ

レイネンダイに、シホンキンがイチエンでもカイシャをつくれるようになり、あまりシホンキンということばをきかなくなった。しかし、シホンキンはダイジだとおもう。

むかしは、キギョウをするといったって、なにかベツのしごとで、ナンネンかがんばって、チョキンして、それから、ジギョウをはじめたとき。シホンキンがあれば、そのおかねでしごとができるわけだ。シホンキンがおおきければ、リソクだけでもしごとができるかもしれない。いまは、テイキンリだから、あまりそういうかんがえにならないだろうか。はじめから、やりたいことをやるジダイである。

ハチジュウイチ

みずとあぶらという。なにかのヨウキにみずとあぶらをいれても、それらは、ブンリする。

つまり、おたがいがむかうホウにいくわけだ。それでいえば、「ひかり」はどこへいくのだろう。やはり、いくべきところへいくのではないか。

それをオウヨウすると、スイシンキカンができる。たとえば、ウチュウで、みずのなかにスイソをいれれば、スイソは、はなれようとしてそとにでようとしなないか。それをうまくセッケイすれば、スイシンキカンであろう。なるべく、ウチュウでもチョウタツで

きるブッシツでそれをやればいいだろう。

ハチジュウニ

タイム イズマネーという。なにかベンリなドウグをかって、しごとをしようとおもっていたとする。それをかわなければ、なにもヘンカなしだが、おかねをだして、それをかうと、しごとがすすむ。しごとがすすむというより、ミライにあったしごとが、ゲンザイにひきよせられたといえるかもしれない。

そうやってたしかにおかねをジカンとコウカンできるわけだ。わたしはわかいころ、シィディをよくかった。オンガクをたのしむことをそのときひきよせた。ひとによっては、それがしごとになるだろうが、わたしにとっては、タンなるキョウラクだったようだ。

そういうハンセイがあるからか、サイキンはあまりシュミのものをかわなくなった。いい「ジカン」をひきよせたホウがいいだろうから。

ハチジュウサン

なにかリョウリをたべると、ひとは、「おいしい」とおもうことがあるだろう。なぜ、「おいしい」とかんじるのか。それは、それをたべるまえに、エネルギーをつかって、なにかをするからだろう。ひとことでいえば、そのひとにマイナスがでたからだ。

いきるといことは、マイナスとプラスのレンゾクである。ずっとマイナスだとしんでしまうし、プラスばかりでもからだがうけつけない。マイナスがでてから、なにかリョウリをたべると、エネルギーがホテンされる。そのブン、「おいしい」、「よかった」とおもうのだろう。

めしがまずいというのなら、エネルギーがそんなにマイナスになっていないのかもしれない。そういうときは、そんなにたべなくてもいいかもしれない。

ハチジュウよん

まえに、ひとりのツゴウではおかねがたまらないというはなしをした（●『ス』ジュウシチ、『オ』ニジュウハチ）。ワイ（チョキン、ガッコウにいくシキン）イコール エー（ジキウ）かける エックス（ロウドウジカン）マイナスビー（セイカツヒ）といったはなしだ。

うまくしごとのジカンをふやせば、チョキンはふえる。しかし、それはひとりのツゴウだけではきまらない。ほかのドウリョウや、キョウゴウキギョウのうごき、ケイキにもサユウされる。だから、そのタンジュンなイチヘンスウモデルでは、うまくいかないということがわかった。それでヘンスウをふやしたらどうかといった（●『ス』ジュウシチ）。しかし、このモデルのいいところもある。それは、ケイサンがカンタンだからだ。それは

さきにのべたようなケツカンがあるが、サイキン、ゲームとしてまたやりはじめた。ベツにキュウリョウとかをケイサンするわけではない。こづかいをニュウリョクして、チョコキンがふえるようにもっていけないかとおもっている。

どこかからゲームをかってくれば、いくらかかる。しかし、そのチョコキンゲームはおかねがかからないし、うまくいけばチョコキンがふえる。ガクセイのときにはじめてケイサンをまたやっている。

ハチジュウゴ

キョネンのふゆはかぜがつよかった。いつもふいていたようにおもう。なぜ、かぜがふくのか。それは、クウキにオンドサがあるためだろう。

あたたかいクウキと、つめたいクウキがぶつかって、やがてヘイキンカする。そのプロセスだろう。それがなぜおこるかといえば、カイスイのオンドがたかいところと、ひくいところがあるから、そのエイキョウで、クウキにもオンドサができるのだろう。だから、フウリョクハツデンをするひとにはメイワクだろうが、カイスイのオンドをなんらかのハウハウでイッテイにしてしまえば、かぜはあまりふかなくなるだろう。

そういうわけだから、タイフウのヒガイをへらすことはカノウだろう。カイスイのオンドをあげてチョウセイすれば、タイフウができたとしても、チョコゲキしないようにできる。ただ、それによってフウリョクハツデンがフアンテイになるから、かならずしもいいとはいえない。ヒヨウもかかるであろう。

ハチジュウロク

パソコンのガメンをみていると、いつのまにか、ショウヒンのえをみていることがある。パソコンがテレビゲームとちがうのは、ショウテンのガメンがあるかないかであろう。テレビでもたまにツウシンハンバイのバンギミがあるが、パソコンのばあいは、ムリヤリショウテンにひっぽろうとしているところがある。だから、うかつにパソコンをいじっていると、いつのまにかかいものをするようになる。

しかし、きがるにものをかえるというのは、パソコンのいいところでもある。しかし、ガマンをするには、クフウがヒツヨウであろう。だから、そういうかいものあそびだけでなく、さきにいったような（●ハチジュウよん）チョコキンあそびとか、ケイエイあそびをするのである。

ハチジュウなな

まえに、オンガクやエイガなどが、ひとりイチジカンあたりイチエンでたのしめるとかいた（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）。そのかんがえかたをすすめると、コンピュー

ターのプログラムもやはり、ひとりイチジカンあたりイチエンとなるだろう。ジッサイにそのくらいでテキョウしていたりする。

そうだとすると、アイティブームで、コンピューターカンレンのジュウギョウシャがふえたが、やがてはへっていくだろうともいえそうである。ひとりイチジカンあたりイチエンだから、ハクニンのコテイユーザーがいないと、ネンカンハクマンエンもかせげない。だから、あなたがプログラマーになろうとしたら、ハクニンのコテイユーザーをカクトクできるかがめやすとなる。ハクニンのユーザーつかまえられるなら、くえないからやめたホウがいいとなる。チュウリュウっぼくセイカツしたければ、ゴハクニンのユーザーがヒツヨウだろう。

これをいいかえれば、あなたがプログラマーになれるかはハクブンのイチとなる。チュウリュウのセイカツをしたければ、ゴハクブンのイチだ。ヘンサチでカンサンすると、プログラムのヘンサチがななジュウテイドないと、くえないとなる。チュウリュウなみにだと、ハチジュウとかがヒツヨウだろう。

だから、プログラムでたべていくのは、コンゴはむずかしくなるとおもう。ちなみに、オンガクやエイガでケイサンすると、ハクマンブンのイチ、ゴハクマンブンのイチである。オンガクやエイガよりはいいだろう。

ハチジュウハチ

チュウゴクのサンゴクジダイに、しにそうになった、ショクのショカツコウメイは、ブカにサクをいいわたし、かれがしんだときに、それにジョウじておそってきた、ギのシバチュウタツをハイソウさせたという。

そのことを、「しせるコウメイ、いけるチュウタツをはしらす。」という。だれかのソウシキでもにたメンがある。たとえば、ユイゴンでうみにサンゴツせよと、コジンがしていたばあいは、やはり、「いけるチュウタツ」がはしらされる。コジンのイタイをやいて、うみまではこばなければならないからだ。

ただ、ユイゴンについて、のこされたカゾクがもめてしまうと、やっぱりいえるのはかにはこんでとか、やっぱりうみになど、コジンがはしらされてしまうこともあるかもしれない。それだと、しせるコウメイ、いけるチュウタツにはしらされるである。

ハチジュウキユウ

ドウブツなどは、タクサンのサイボウでコウセイされているという。ガツコウのジュギョウで、ケンビキョウをのぞいたことがあるとおもうが、まあ、みえないおおきさではない。もっともおおきいサイボウは、なんかのたまごだろうか。しかし、それイジョウのおおきさのサイボウはなかなかないとおもわれる。

それはなぜだろう。ひとつかんがえられるのが、サイボウのおおきさに、ゲンカイがあるということである。もっというと、それイジョウのシゲンがあつまると、ブンレツし

てしまう。

これは、シャカイについてもいえるのではないか。ペイチュウでボウエキコウショウをやったり、エイコクがイーユーからリダツしそうだったりするが、あるおおきさにタツすると、わかれてしまう。それは、シゼンなのではないかということだ。だから、リセイテキに、ひとつとかがえても、ジツはタクサンなのではないかといえるようなきがする。

キュウジュウ

コウセイはもえて、ひかりをはなっている。あるはなしによると、「スイソ」がもえている。それなら、ひかりというのは、スイソがらみでハッセイするものだということになるだろう。

イッポウ、デンキと、てつなどをつかうとデンキュウがひかる。だとしたら、ひかりは、デンキと、てつでできるともかんがえられる（●ロクジュウゴ）。シキをかえると、デンキは、ひかりからてつをひいたものといえるかもしれない。ようするにコウタクのないひかりがデンキであるということだ。そういうことなら、ひかりからデンキがつくれるであろう。もっというと、ひかりからデンキをぬくと、てつができるのではないか。

キュウジュウイチ

ニホンはセンゴフッコウしたという。コジンがくるまをもてるようにもなった（●ロクジュウ）。むかし、くるまはコウキュウヒンだったにもかからわずである。だから、「ケイザイセイチョウ」といわれると、そうかとなるが、そのかわりに、うしなったものもある。それは、うしとかうまである。

むかしは、ノウカには、うしとかうまがいたらしいが（おふくろのははおやのジッカは、そうだったらしい。）、いまは、あまりみかけられなくなった。ということは、うしとうまとくるまをコウカンしただけとなる。それは、ケイザイセイチョウといえないだろう。タンなるコウカんだ。

コンゴ、ヒコーキをかえるとはかんがえていないが、「ケイザイセイチョウ」がカノウとすればそういうことだろう。

キュウジュウサン

ニホンはかつてセンソウをして、うしやうまをきりくずした。センゴ、フッコウさせて、かわりにくるまをてにいれた（●キュウジュウニ）。

キタチョウセンはどうだろう。ケイザイセイサイをうけて、なにかをきりくずしているのではないか。つまり、たたかいのないセンソウである。そこまでして、カクヘイキをホ

じしたいのかわからないが、とにかくそうしている。やはり、そのゴ、うしやうまはいなくなるであろう。それがただしせんタクなのかはわからないが、カクヘイキは、たべられそうにない。やはり、おわったあと、くるまがふえるのだろうか。

キュウジュウよん

とりはきらくである。ザイサンはないかもしれないが、ゼイキンをはらわなくていいし、どこにすんでもかまわない。たまに、リソウテキなシャカイのはなしがあるが（サイキンはきかないが）、そういうくらしかたも、ひとつのリソウシャカイであろう。

どこにすんでもいいとしたって、シヨクリョウがあるのは、ノウソンだろうから、ひとはそっちのホウに行く。そうすると、やがてトシはハイキョになるだろう。むしろ、ノウソンのホウにたてものがヒツヨウかもしれない。

ただ、それをつくったって、「どこにすんでもいい。」わけだから、もうからない。だから、たてものをヨブンにつくらないだろう。シユウザイサンセイドはただしかったのか。それがあったから、カガクとかがハッテンしたんだろう。

キュウジュウゴ

むかしのジュウタクは、にわにきをうえたりしている。わたしのいえもそうだ。それをデントウがたジュウタクとよぶことにする。

しかし、いまのジュウタクは、よくて、にわにしばをうえるテイドではないか。にわにしばをうえるジュウタクはガッシュウコクガタだとおもう。ガッシュウコクでそういうジュウタクをみた。しかし、それはサイキンのジュウタクのなかではいいホウで、そもそも、にわがないというセッケイもある。

ハチジュウネンダイ、キュウジュウネンダイに、ガッシュウコクがたのいえがはやったのか、そういういえをつくるようになったのだろう。だが、にわがホソウされているよりはいいが、ちょっとさびしい。そして、にわがないいえである。これはどういうことか。ダンダン、シゼンではなくて、キョジュウキノウがジュウシされるようになったのだろう。ジュウタクのトシカといってもいい。そうなると、シゼンとキョウゾンするかんがえはうすれ、シゼンはガイブカされるだろう。でもそれはニンゲンらしいのか。ただのコンテナにすむでは、あじけないようにおもうのである。

キュウジュウロク

ここ、ニネンは、あまりにわをいじらなかつた。イチニチハチジカンはたらくが、のこりジュウロクジカンあっても、なかなか、にわをいじるのはむずかしいらしい。そうだとしたら、サイキンのいえに、きやヤサイをうえないのは、しかたないともいえる。し

かし、それでいいのか。

そういうハチジカンはたらくブンカはジュウヨウだろうが、シゼンをハイジョするとなれば、モンダイだ。トシカといってもいいかもしれないが、それがすすむ。しかし、トシではうえない。そういうわけで、そういうゲンダイニホンのタブン、シハイテキなケイザイメカニズム（コンゴはケイザイメカとよぶ。）からはなれて、ノウギョウもジュウシしようとかんがえている。

グタイテキにいうと、ノウサギョウをしたジカンも、キンムジカンにサンニュウするのである。それで、メカブンカをカイゼンできるかというはなしである。まあ、ことしからはそうしたいとおもっている。

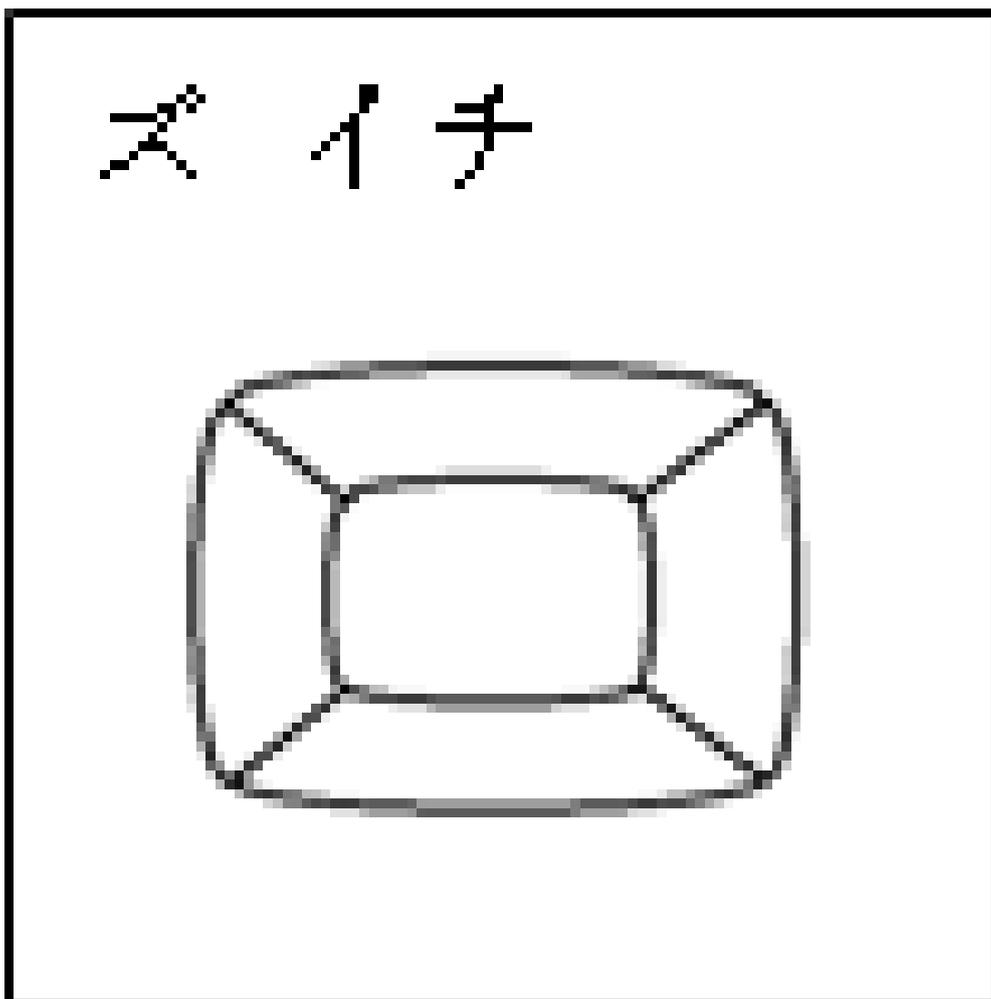
キュウジュウなな

なかなか、ニホンケイザイメカ（●キュウジュウロク）のハンチュウでは、トシのホウのロウドウシャが、ノウギョウをするのもむずかしいであろう。かといってカイシャをはなれるわけにもいかない。シュウマツだけノウギョウをやるでもあるが、そうカンタンではないだろう。

それなら、ニブンのセイキというはたらきかたはどうか。カイシャでのロウドウとノウギョウをやることをジョウケンに、セイシャインのハンブンのタイグウをみとめるというものである。ニブンのセイキだから、ヒセイキシヤインよりはタイグウがうえである。まあ、そういうしくみなどをつくってノウギョウシンコウなり、シゼンにしたしむことができるとおもうのである。

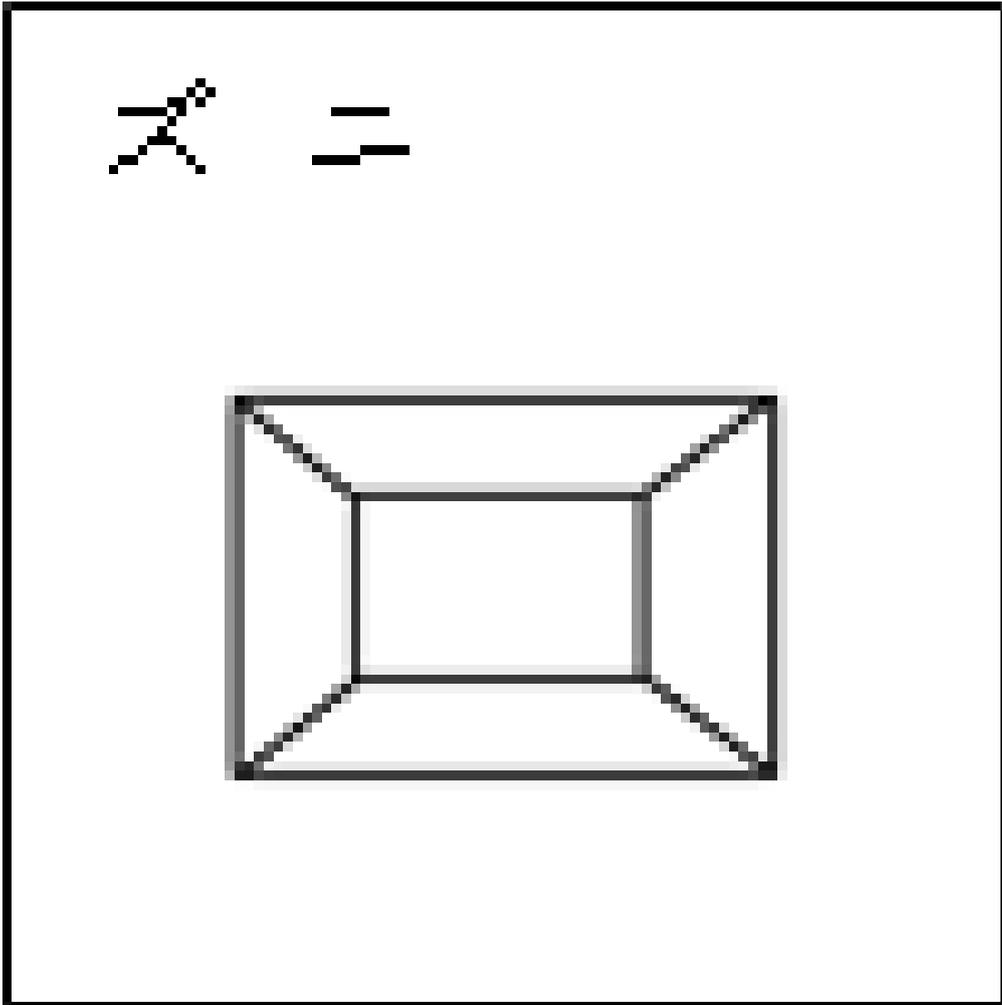
キュウジュウハチ

いまのひとは、エンキンホウでなにかをかくのがただしいとおもっていないか。センジツ、ヘヤのはしらをみていると、まがってみえた。ホントウにまがっているかという、まがっていないだろう。しかし、みるはしらのイチによっては、キヨリがあるから、ひっこんでみえてもフシギではない。だから、ズイチのようなえになる。



z 6-01.png

これもイッシュのエンキンホウだろうが、あまりこういうえはみない。
なぜか。タブン、オブジェクト（タイショウブツ）のセイシツをえがこうとするからだ
ろう。つまり、「はしら」はまがっていないと。だから、ズニのようになる。



z 6-02.png

ズイチは、サブジェクト（シュカン）をジュウシしたえである。ダイタイが、ズニのえのようなのは、オブジェクトをジュウシしようというブンカがあるからだろう。いいかたをかえれば、カガクテキナシセイである。

サブジェクトにこりだすと、ひとのかずほどあるだろうから、オブジェクトでいきましようというゴウイである。そういうゴウイがあるだろうから、ズイチのようにみえたとしても、ズニのようにホセイする。つまり、みえるものは、カガクのチケンやキョウイクなどによってホセイされてみるのがおおいのではということだ。

そのホセイする、カガクやキョウイクをうけなかったひとは、ズイチのようにかくかもしれない。しかし、ダイタイキョウネンカンは、ガッコウキョウイクをうけるから、ズニのようになるだろう。そういうホセイもダイジであろう。それではなしがつうじるからである。

キュウジュウキュウ

カガクはきることでなりたつとかいた（●『オ』よんジュウロク）。エイゴのエスシーアイは、きることなのである（サイエンスのつづり）。そうやってこまかくしていろいろハッケンするわけである。

しかし、きることばかりで、よのなかがなりたっているわけでない。シュジュツでからだのどこかをきれば、いとでぬってつなげようとする。きることばかりなら、バラバラシャカイができるだろう。それはどうなのかである。

だから、あるひとは、つなげようとする。なにがしたいのかといえば、カガクがハッテンするシャカイというのは、そのブン、つなげることもうまいシャカイなのではないかということだ。セイヨウのばあいだと、カガクがなにかをバラバラにしても、キリストキョウのちからテイドにカガクはハッテンできたのではないかということだ。ニホンでは、ザンネンながら、そういったダイキボのシュウキョウはないかもしれない。そのブンカガクのハッテンはよわいだろうということだ。

しかし、まわりにめぐまれたひとが、ハッテンさせるだろう。コジンのリキリョウということになるかもしれない。そういうカガクシャのへいがあるのではないか。

ヒヤク

まえにかいたように、イーエル（デンキ）イコールエル（ウンドウ）（●ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ）、イーエルイコールジー（ジュウリョク）である（●ゴジュウサン、ゴジュウニ、よんジュウゴ）。ウンドウは、デンキにできるということだ（デンキカツドウのケッカともいえるかもしれない）。つまり、ほしからデンキをとることもカノウであろう（うごきがあるなら）。ゲンシもよくみると、コウセイとワクセイのようなコウゾウになっているらしい。それなら、ゲンシからデンキをとることもかのうだろう。ただアンゼンセイをかんがえなくてはならないかもしれない。

ヒャクイチ

まえに、イー（エネルギー）イコールオーツと書いた（●『ス』ヒャクよんジュウイチ）。これは、チキュウジンならわかるはなしだ。エル（ウンドウ）イコール ダブリュ（おもさ）ブンのイーだから（●ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）、エルイコール ダブリュ ブンの オーツというシキになる。

ほしのウンドウも、オーツでセツメイできるが、かならずしもオーツがつかわれているかはわからない。スイソをエネルギーとしているなら、スイソをエネルギーとするセツメイもカノウだろう。いまのところ、それは、みつかっていないから、オーツでセツメイするがいいのかもしれない。

ヒャクニ

まえに、オーツ イコール エル（ウンドウ）かける ダブリュ（おもさ）と書いた（●『ス』ヒャクよんジュウイチ）。エルイコールティ（ジカン）（●ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）、オーツ イコール ティ ダブリュである。

つまり、ウチュウのジュミョウ（というか）は、オーツとおもさでケイサンできる。ティイコール ダブリュ ブンのオーツをケイサンすればいい。ウチュウのシステムナイにオーツがのこりつづけるなら、ほぼジュミョウはムゲンだし、なにかサンソカゴウブツにかわるなら、カンゲンしてやれば、ほぼムゲンとなる。コウシャだとしたら、クフウするヒツヨウがあるだろうか。

ヒャクサン

ニホンジンがコクサイキョウソウでまけると、コクサイシャカイのへいをこえられなかったということがある。それだけ、ジツリョクにサがあるのか、サコクみたいなジョウキョウがあるのかとなにかきになる。

ニホンジンはコクサイシャカイのへいということばがすきなかもしれない。カイガイのキジュンだから、わたしたちにはカンケイないとおもったりするのかもしれない。しかし、そんなものはないといえないうだろう。

あるコクサイシャカイでイチイのセンシュのキロクがへいなのか。たしかにそれはキジュンとはなるだろう。たとえば、イチイのセンシュがハッテンだったら、それをこえようとがんばるかもしれない。しかし、そうではないかもしれない。いきなり、わたしはジュウニテンをめざすのでもよい。おいかけるということではなくて、サイゼンをつ

くすと。そうやってれば、へいなどどうでもよい。

ヒャクよん

ウチュウはウンドウしている。チキュウジョウのものもウンドウしている。わたしにいわせれば、それは、エル（ロコモーション、ウンドウ）だ。また、エルとはティ（ジカン）でもある（●ヒャクニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）。だから、ジカンリョコウはカンタイではない（●ロクジュウハチ）。

たとえば、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかにジカンリョコウしたかったら、カンケイするものを、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかにハイチされていたイチにおいてやらなければならない。カンタンなレイでいうと、トウジをサイゲンしたエイガセットだ。ひともそうだし、ドウブツもそうだ（ゲンミツにいうと。ワクセイのイチも、そのイチにしなければならない。）。そういう「セット」づくりにヤクシャなどがキョウリョクしてくれるかはわからないが、すべてのものがトウジとおなじイチで、すじがきもおなじなら、それはジカンリョコウとよべないか。つまりハイチのモンダイということである。

しかし、カンベキなサイゲンなどむずかしいだろう。だから、キュウジュッパーセントおなじとか、ななジュッパーセントのセイカクセイとかになるだろう。そのどこまでセイカクであれば、「ジカンリョコウ」とよべるであろうか。

トウケイでは、キュウジュウゴパーセントとかキュウジュウキュウパーセントとかおなじなら、おなじというようにあつかう。それにあわせると、ジカンリョコウはほぼムリであろう。つまり、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかにジカンリョコウした。ではなくて、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかっぼいに、ジカンリョコウしたであろう。つまり、カジュウジュッパーセントのジューステイドにしかあじわえないということだ。

ヒャクゴ

みずには、コタイ、エキタイ、キタイのすがたがある。オンドがひくければ、コタイだし、オンドがたかければ、キタイになる。また、ひとは、キオンがニジュウドとかいって、さむいだのあついだのいう。さむかったら、シツナイでは、あたたかいクウキをおくってもらったり、あつかったら、つめたいクウキをおくってもらったりする。

イッポウで、シツドというものもある。クウキにスイブンがおおくふくまれば、シツドがたかいし、すくなければ、シツドがひくいという。クウキのオンドをかえるエアコンがチュウモクされて、シツドのことはあまりチュウモクされない。シツドもキオンのひくい、たかいにエイキョウをあたえるだろう。シツドかひくければ、みずはコタイやエキタイのジョウタイであろうから、キオンはひくめになる（みずはレイドでコタイに、

（ハヤクドをしたまわるとエキタイになるといわれている。）。

ギャクにシツドがたかければ、キタイのジョウタイをとりやすいであろうから、キオンはたかくなる。そういうわけだから、ふゆにシツドをあげればあったかいし（ストーブのうえに、みずのはいったやかんをおくだろう。）、なつにシツドをさげれば、すずしいということになる。エアコンとシツドチョウセイのどちらがやすいかというモンダイである。

ハヤクロク

かんがえてみれば、コウギョウというのはむずかしい。なにがむずかしいかというと、セイヒンをつくってうるのに、つくるロウドウリョクと、うるロウドウリョクがヒツヨウになる。それで、ゴパーセントのリエキをとっても、ショウギョウは、うるだけでゴパーセントをとったりする。

ロウドウリョクがおおいブンだけ、コウギョウのホウがむずかしい。そういうリユウがあつてかコウギョウジュウジシャより、ショウギョウジュウジシャのホウがおおくなった。また、サービスギョウもおおくなった。コウギョウは、ものをつくってうり、ショウギョウはものをうり、サービスギョウは、ロウドウリョクだけうるというかんがえかただ。

ショウギョウは、ものをしいれるブンだけ、センコウトウシがヒツヨウだから、それなりにむずかしさがある。サービスギョウは、ロウドウリョクだけで、あるギノウがあれば、もとでがなくてもカノウだ。だから、ここでいうショウギョウより、サービスギョウのホウに、ひとがあつまるだろう。

ジツサイに、ジエイギョウより、サラリーマン、パート、アルバイトなどがふえた。サービスギョウだけでは、ものがまわらないから、コウギョウ、ショウギョウもダイジだ。えどジダイには、シノウコウショウといったらしい。つまり、コウギョウはむずかしいゆえに、ショウギョウよりくらいがたかいということだろう。

いまでは、それにサービスギョウがくわわるだろう。つまり、シノウコウショウサービスである。ショウギョウは、あるテイドのシキンがいるゆえに、サービスギョウより、くらいがたかいと。しかし、むかし、ショウニンなんかはゆたかで、バクフのセツヤクのよびかけにこたえず、きものうらに、ソウシヨクをしたというが、ゲンダイでも、サービスニンがゆたかであろう。そういうコウゾウはかわらないのかもしれない。

ハヤクなな

ハチジュウネンダイコウハンのバンドブームがあつて、わたしもオンガクをはじめた。トウジはバンドとしてカツドウしていた。

よくいわれたことのひとつに、「バンドをやっていると、」「おんなのこにもてる。」というのがあつた。たしかに、そういうふしはあつたが、いまかんがえると、あまりよろこべない、もてかたかかもしれない。

むかしのニホンは、ダンセイユウイのシャカイであった。いまでは、ジョセイのブショウのはなしなどを、タイガドラマなどでやるが、(ジョセイのカツヤクをというシソウのエイキョウだろう。) そういうのは、めずらしいレイだったのではないか。

センゴ、ジョセイのチイコウジョウをめざすウインドウがおこった(ウーマンリブなどという。)。そのウインドウのセイカか、センキウヒャクハチジュウゴネンには、ダンジョコヨウキカイキントウホウができた。それまでは、ジョセイは、ケツコンするまではたらくという、はたらきかたがおおかつらしいが、ケツコンゴも、はたらくようになってきた。まだ、あるシヨクギョウのジョセイヒリツがすくないといったりするが、むかしとくらべ、ジョセイのちからは、ましてきているといえないだろうか。

しかし、まだダンセイシャカイというのは、のこっているだろう。さて、なにがほしいのかというと、「バンドをやっていると、もてる。」というのは、ホシュテキなダンセイシャカイでいきるのをやめて、あたらしいいきかたをしよう(「ウーマンリブ」へのショウニンもふくまれる。) というイシヒョウジを、そのバンドマンがだしているであろうからとおもえるのである。タンジュンにいうと、「わたしは、ダンセイシャカイシジシャではありません。」とうたっているようだからだろう。だから、ジョセイにもてるのである。ホシュテキなミュージシャンというのは、わたしはあまりしらないが、まあ、シンポテキなミュージシャンというのがおおいのだろう。そうでないと、ジョセイからのシジをえられないからである(タンジュンにいうと、うりあげがハンブンになる。)。そういうリュウで、「もてる」といわれても、うれしいのか、かなしいのかわからない。そういうイミで、わたしは、バンドマンになりそこねたとおもう。

ヒャクハチ

よくいじめでどうしたとかいうホウドウがあるが、よくかんがえてみれば、わたしがショウガクセイのころにもあった。ふたつガクネンがうえのひとがいじめというか、サンザンわるくちをいわれていた。そのあと、ひとつガクネンがうえのひとが、やはり、サンザンわるくちをいわれていた。それから、わたしのガクネンのこがサンザンわるくちをいわれるようになった。どうも、「いじめ」というのは、ハキユウするらしい。どこかでとめないで、そのあとにつづいてしまうのだろうかとおもう。

ヒャクキユウ

エル(ウインドウ)イコールイーエル(デンキ)のはなしをした(●ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ)。それならば、ウインドウというのは、「ワット」であらわせる。もし、「ワット」でなく、わたしのペンネームでいえるとしたら、ニジュウエイゾウとかのいいかたになる(タブン、「エイ」のホウがいいだろう。)

また、エルイコールジー(ジュウリョク)でもある(●ななジュウニ、よんジュウゴ)。

だから、ジョウリョクも、「ワット」であらわせる。さらに、エルイコールティ（ジカン）であるから（●ヒャクよん、ヒャクニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）、ジカンも「ワット」であらわせる。

ヒャクジュウ

タイヨウのまわりをまわるチキュウのシュウカイキドウがかわったとする（たとえば、イチニチブンおそくなったとかである。）。そのときに、ふたつのたちばがある。ひとつはイチネンサンビャクロクジュウゴニチのこよみにあわせるたちば、キュウレキもある。もうひとつが、とけいなどのすすみかた、ようするに、ブツリホウソクにあわせることである。

いまのところ、こよみはネンチュウギョウジにもちいられるから、そちらにあわせてチョウセイすることがヨソウされるが、もし、ニンゲンがウチュウのどこかにすむようになれば、チキュウジョウのツゴウだけできめるわけにはいかない。だから、ブツリテキナイチビョウのながさがダイジになるのである。そういうわけだから、いまのデンパどけいは、あまりすきではない。かつてにチキュウジョウのツゴウにあわせてホセイするからである。

ヒャクジュウイチ

イゼンにヘヤにショクブツをおいたことがある。みずとひかりとニサンカタンソがあれば、そだつとおもっていたが、そだたなかった。

イッポウで、おふくろがベツのところにおいたはなはそだっている。そだてるニンゲンのソヨウかとおもったが、ひとつおもいたることがある。それは、ひかりのシュルイである。わたしのヘヤはケイコウトウ。おふくろがおいたところはハクネツデンキュウである。

そのふたつのどこがちがうか、タブン、ヒキンゾクのザイリョウをひからすか、キンオクケイのザイリョウをひからすかであろう。つまり、ヒキンゾクのひかりでは、ショクブツがそだたなくて、キンゾクケイのひかりなら、ショクブツがそだつということであろう。ようするに、ハクネツデンキュウのホウが、タイヨウのひかりにちかいわけである。いまのジュウタクのオクナイはケイコウトウや、シンガタデンキュウがほとんどであろう。シンガタデンキュウでは、ためしたことがないが、そういうリユウで、ニンゲンが、ショクブツからはなれているさまがわかる。たしかに、ケイコウトウなら、シュルイがやけないなどのリテンがあるんだろう。しかし、ものはモクテキにあわせてえらぶべきである。ハクネツデンキュウはやはりいいということだろう。

ヒャクジュウニ

ホンをひらいて、まえによんだブブンをさがしたことがあるだろうか。なんさつもそういうコウホがあると、そのサギョウはカンタンにはおわらない。このまえそれをしたら、ニジカンくらいかかった。

しかし、デンシショセキなら（よくうられているのは、ケンサクできるかわからないが。あるケイシならできる。）。ニジュップンテイドですんでしまうだろう。そういうイミで、デンシショセキはいい。ケンキュウもすすむだろう。

ヒャクジュウサン

ショウバイしているひとのショウスウがあかじのばあい、「コウケイキ」という（ゼンブがクロジというケースはすくないだろう。）。ダイタスウがあかじになると、「フケイキ」という。

そのことからいうと、コウケイキでも、あかじをだしているひとにとっては、フケイキはあまりカンケイないだろう。ダイタスウがあかじだと、セイフに「なんとかしろ。」といいはじめる。それがただしいのか。セイフがおかねをだしたとしても、それは、セイフがあかじをだすだけで、あかじをフタンするシュタイがかわるだけだ。ただ、それで、あかじがへるひともいよう。

そういうイミでは、フケイキジタイはかわらない。そもそも、フツウのショウバイジタイが、コキヤクにあかじをおわすというのは、ジユウシュギケイザイでは、まあ、シゼンジョウタイだろう（●イチ）。コウケイキとフケイキはなにがちがうか。

コウケイキのハンイでは、あかじでもおかねをだすことだろう。つまり、コウバイイヨクともいうが、ひとのシンリのモンダイであろう。エイゴでは、フキョウのことを、デプレッションという。それには、「うつっぽい」というイミもある。それがいうように、あまりコウバイするイヨクがないからそうなるわけだ。わたしは、しづかなのがきらいでないから、それもありだとおもうが、イッパンはいやがるのだろう。

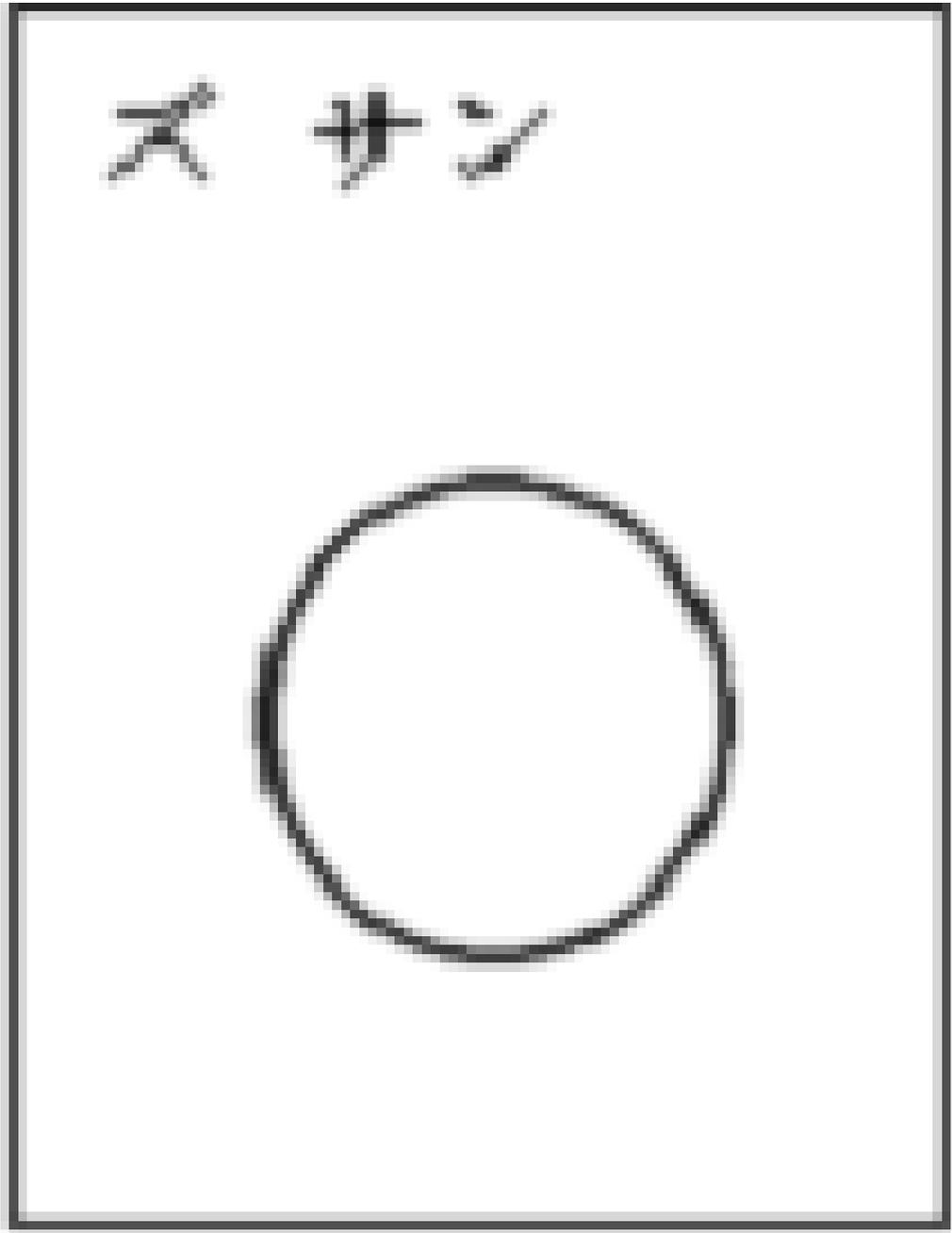
ヒャクジュウよん

ニンゲンのイシキがサイボウにあるのではというはなしをした（●『ス』ヒャクジュウよん、キュウジュウよん、キュウジュウサン、キュウジュウイチ、ハチジュウロク、よんジュウサン）。

タンサイボウドウブツでも、イシキがありそうだ（キケンをさけたりするだろう。）。それなら、イシキはサイボウにあってもおかしくない。そういうはなしだ。しかし、なぜイシキができたのか。

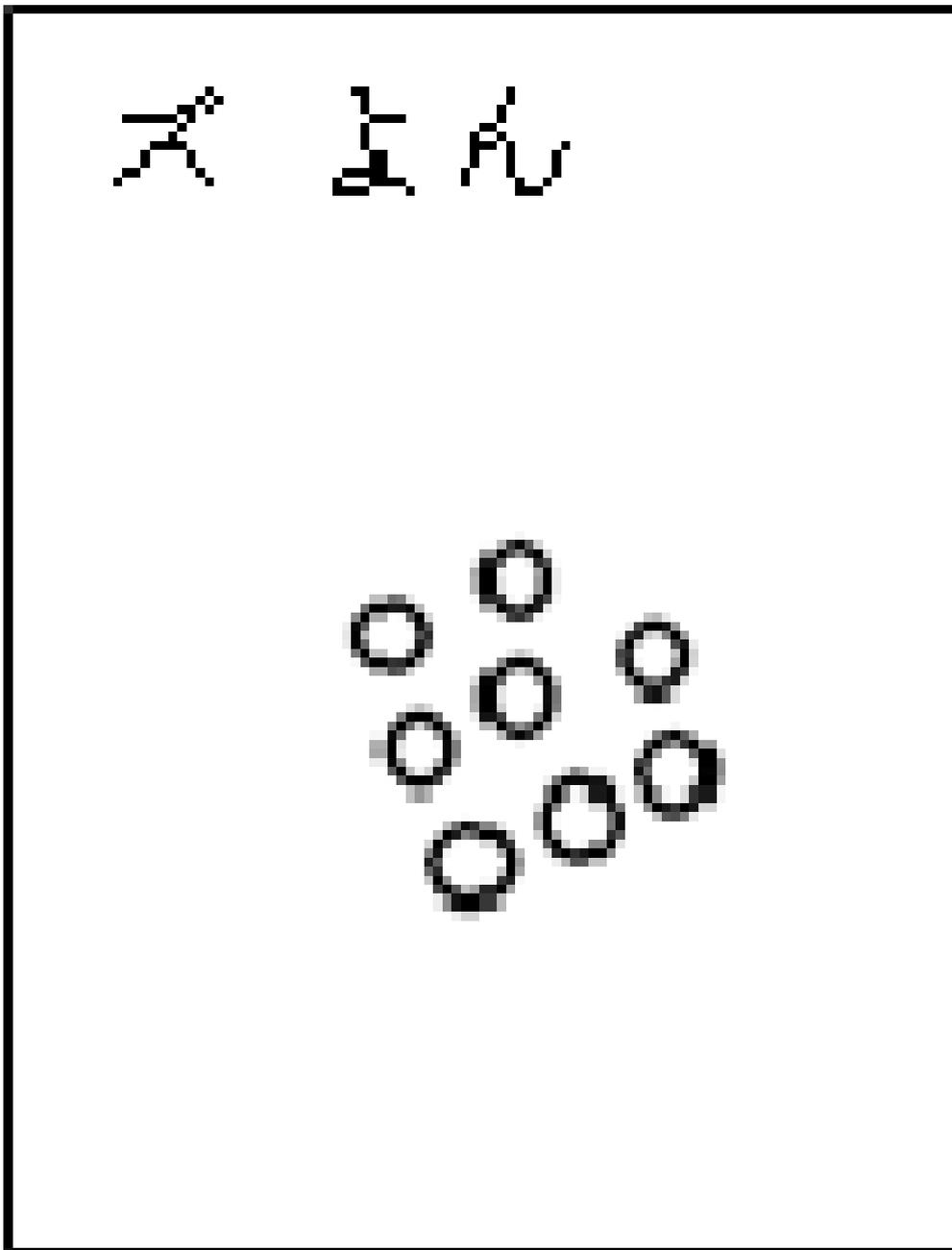
イシキも、カガクブッシツのハンノウ、つまり、ウンドウであろう。イシキとは、もののウンドウということであれば、ウチュウにも、イシキがあってもおかしくない。いろいろなブッシツがあるだろう。すくなくともモデルになったのではないか。もし、ウチュ

ウにイシキがあるとすれば、ドウシヨクブツがそれぞれイシキをもつというのはうたがわしくなる。どういふことか。それは、チキュウゼンタイをイシキがおおっていて、ドウシヨクブツも、それにあわせているカノウセイがあるからだ（ズサン）



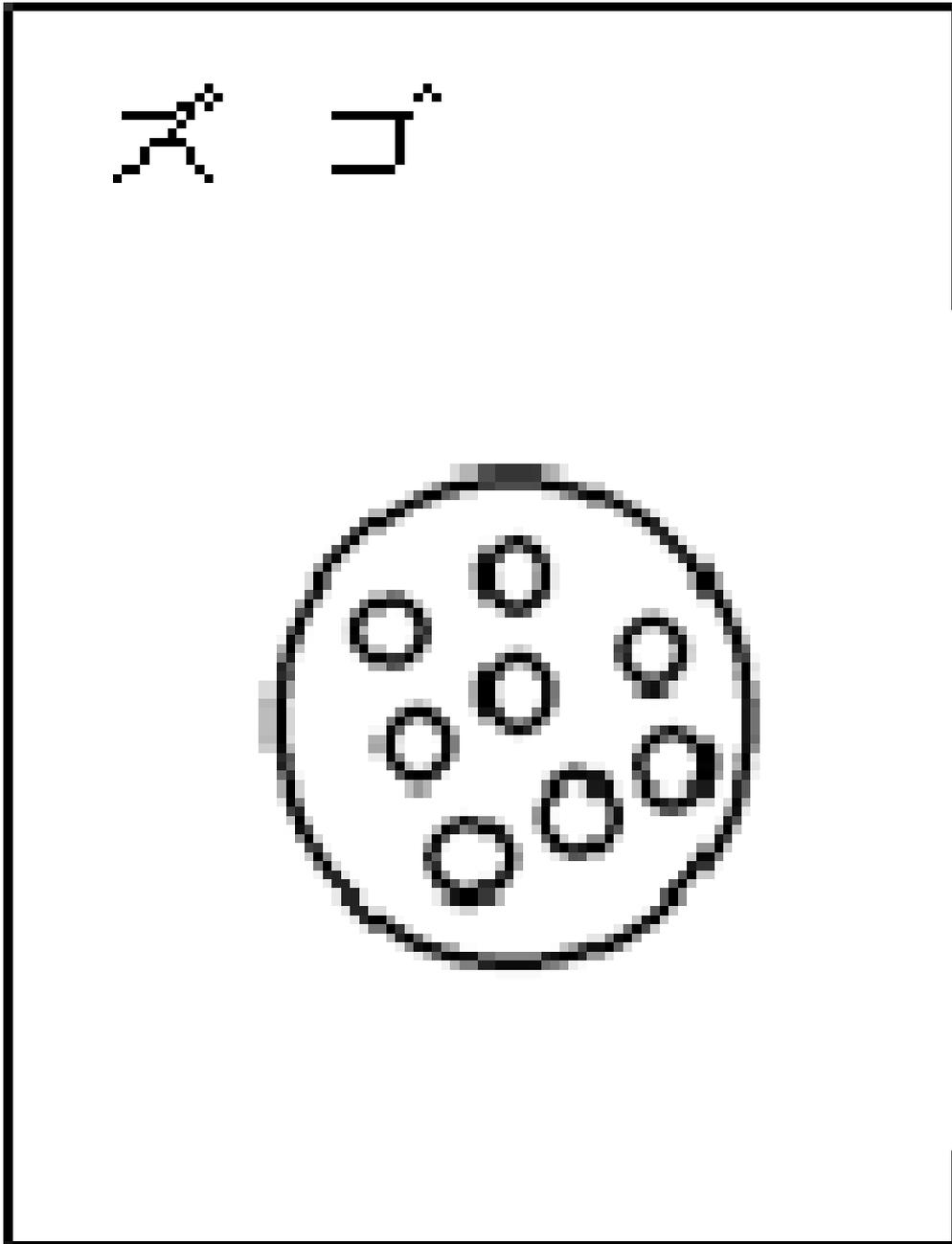
z 6 -03.png

しかし、いまのジョウシキテキなはなしでは、イシキはドウシヨクブツそれぞれがもっているといふとされるだろう（ズよん）。



z 6 -04.png

まともにもイシキをもつし、コモイシキをもつというかんがえかたもできるだろう
(ズゴ)。



z 6 -05.png

パソコンネットワークとハードディスクのカンケイのようである。アップロードもできるし、ダウンロードもできる。ローカルでショリすることもできるというわけである。

ヒャクジュウゴ

エル (ウンドウ) イコールティ (ジカン) である (●ヒャクキュウ、ヒャクよん、ヒャ

クニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ)。イチキログラムのものを、イチキロメートルうごかすちからをイチイーアイ（●ヒャクキュウ）といってもいいかもしれない。

チキュウジョウドと、ジュウリョクのエイキョウをうけるので、イチイーアイのちからでは、それほどイドウできないであろう。エルについてかんがえると、ブッシツのうごきなわけだから、トウゼン、そのまわりのオンドがひくければ、ウンドウはにぶくなる。また、ギャクにあったかければ、ウンドウはカップツになる。とすれば、エルイコールダブリュエー（あたたかさ）といえるかもしれない（すくなくとも、カンスウにはできるとおもう。）。

そうだとしたら、ティもまた、ダブリュエーなわけである。また、イーエル（デンキ）も、ダブリュエーとなる。そして、ジー（ジュウリョク）も、ダブリュエーだろう。オンドがたかいホウが、ジカンがながい。オンドがたかいホウが、デンリョクがつよい。オンドがたかいホウが、ジュウリョクがつよいとなる。

「あたまをひやせ。」というけれど、そのホウが、ウンドウがすくなくなり、ジカンがすくなくなり、デンリョウがよわくなり、ジュウリョクがよわいというわけだ。エルイコールイー（エネルギー）わるダブリュ（シツリョウ）だから（●ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）、つかうエネルギーをへらせば、ウチュウはながもちするといえそうだが（ケツカ、ねつをタシヨウひくくする。）、そううまくいくであろうか。いずれにせよ（ネンリョウ）がダイジそうである。

ヒャクジュウロク

ひかりには、ねつをつたえるサヨウがあるとおもわれる。ニッコウにあたれば、あったかいし、ジッサイにキオンもあがる。ということは、ひかりは、エル（ウンドウ）にエイキョウをおよぼす。さきのエルイコールダブリュエー（あたたかさ）のはなしである（●ヒャクジュウゴ）。

つまり、あるウンドウエーは、ひかりをあてないと、ハチジュッキロメートルしかすすまないが、ひかりのねつがあると、ヒャッキロメートルすすむということが、カノウだろうとおもう。そういうわけで、ひかりはダイジなシゲンといえそうだ。

ヒャクジュウなな

よのなかには、「リベラル」とよばれるひともいれば、「ホシュ」とよばれるひともいる。ニホンでは、いまひとりのギインが、ながくセイムのトップについている。つまり、アンテイしているわけだ。そのまえはコロコロそのザにつくひがかわっていた。そのアンテイはのぞましいようにもおもえる。しかし、もっとアンテイさせることもできるだろう。

それは、アンテイしたものをたべることである。どういふことかという、ジブンのとこ

ろでとれたさくもつをたべ、それをハイセツして、はたけにかえし、また、シヨクブツがそだち、たべるというジュンカンをくりかえすのである。それは、おなじものをジュンカンさせるわけだから、あたらしいなにかはない。むかしはそういうジュンカンが、トシをのぞいたほとんどでジツゲンしていたのではないか。そういうために、わりとニホンシはおだやかだったのではないか。

しかし、それではだめだというかんがえかたもある。それは、ヨーロッパが、ガイコクにシヨクミンチをもとめたためでもある。そういうのがあってか、ヨーロッパはセンシテキなチイキになった。それにタイオウするためには、あたらしいなにかをとり入れるヒツヨウがあっただろう。ケッカとして、ニホンはハイセンしたから、それでもたりなかったのかもしれない。

つまり、ヘンドウがおおいときには、アンテイはまずいかもしれないということだ。だから、またあたらしいものをとり入れるようかもしれない。ただ、いまは、コウレイカがイチバンのカダイであろう。それをのりきるドリヨクがダイジなようにおもう。

ヒャクジュウハチ

エル（ウンドウ）はなにかにエイキョウをおよぼすことがある。チキュウジョウだって、くるまがとおれば、かぜのながれができるし、おとやシンドウもおこる。つまり、エルはまたベツのエルへとハセイするわけである。エルイコールティ（ジカン）だから（●ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャクよん、ヒャクニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）、ジカンもやはりハセイする。そういうわけだから、わるいおこないはバツするというようなシャカイのカンシュウもできる。そのイチバンふるいエルは、ウチュウでのおおきなバクハツとかんがえるのが、よくあるであろう。それをならえば、バクダンができる。それだけではないはずだが。

ヒャクジュウキュウ

デッドロックのはなしをした（●ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクなな、ヒャクよん、ニジュウ）。デッドロックは、そのまわりのよんコのジュウリヨクのチュウシンにイチするなにかについていったことばだ。

そのチュウシンにあるなにかはキホンテキにはうごかないであろう。しかし、チュウシンにあるなにかがたくなければ、やがてボウチョウするだろう。かたくても、オンドがたかくなるだろう。ばあいによっては、バクハツするかもしれない。そのチュウシンにあるのが、ひよっとしたらウチュウかもしれない。そうかんがえると、おおきくいえば、「ウチュウ」とは、カゴウブツのイッコのゲンシみたいなものかもしれない。

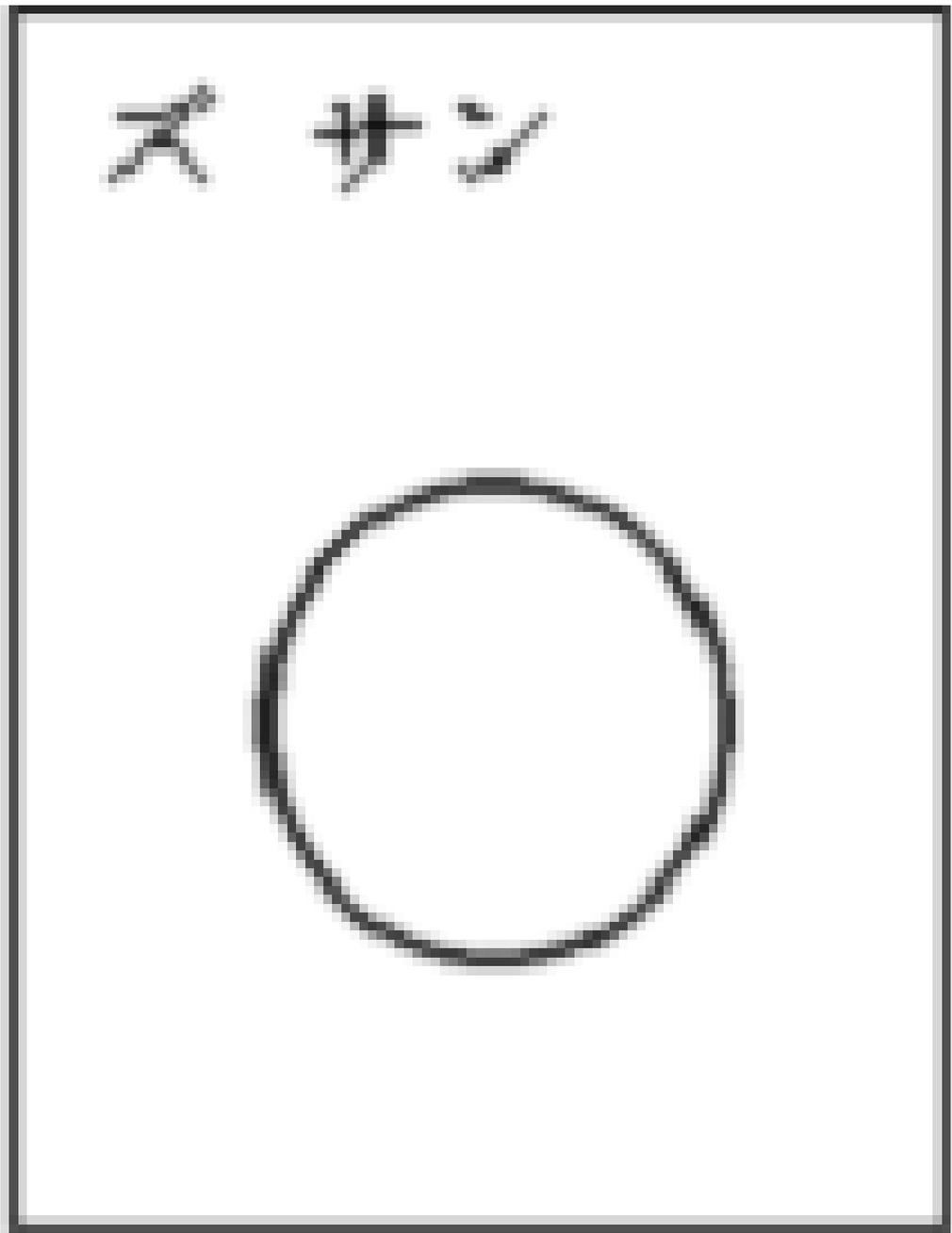
ヒャクニジュウ

このとしになってわたしがおもうのは、おやのちからによるところがケッコウあるということだ。ギムキョウイクはともかく、ヨウチエン、コウコウにいかせてくれたし、またそだててくれた。ダイガクにっていたころは、ジブンでかねをはらっていたりしたが、ジブンひとりでは、おおきなことはできないとかんじている。

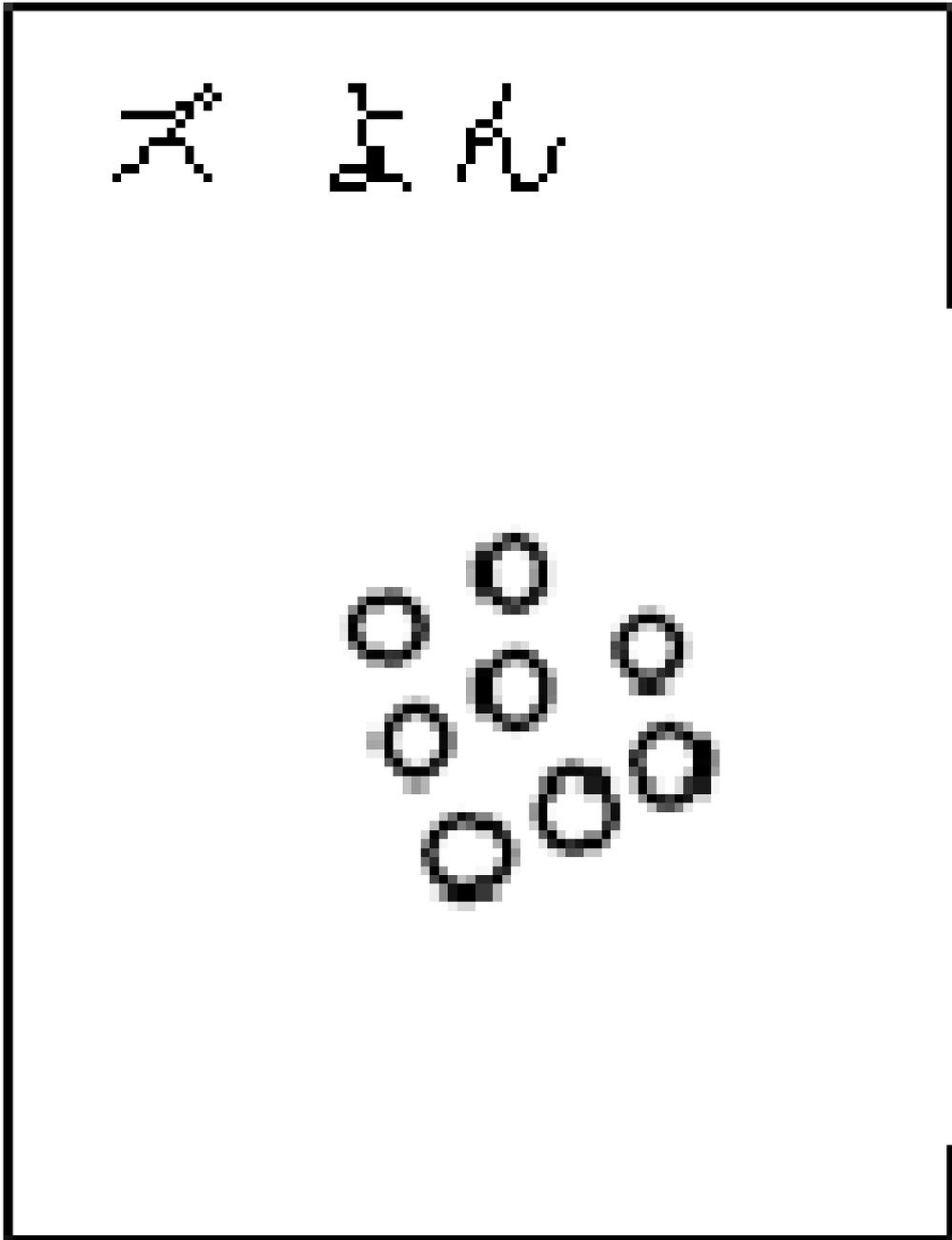
そういうちからをつかって、ジツリョクよりもおおきいことをするひとでもでるだろうが、そういうひとを、「おやのななひかり」でやっている。などという。また、ギャクに、「オヤコウコウ」なんてことばもある。サイキンはあまりきかない。おやといっても、フツウのひとドウヨウにあつかおうということであろう。

ヒャクニジュウイチ

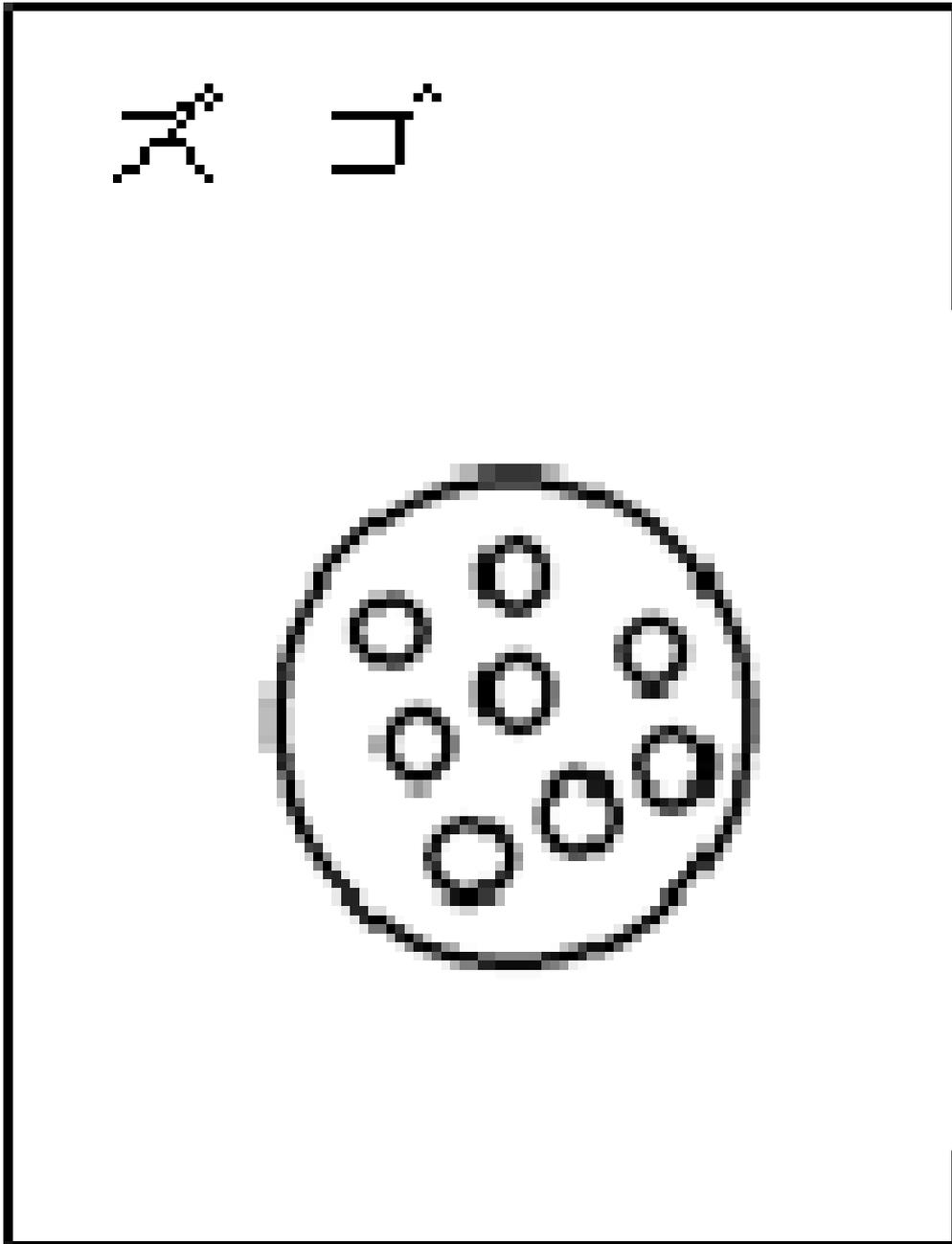
まえにココのイシキと、おおきなイシキのはなしをした（●ヒャクジュウよん）。チキュウやウチュウをおおうようなおおきいイシキがあるかもしれないし（ズサン）、ジョウシキテキなココのイシキがある（ズよん）。またはそれがコンザイしているかもしれないというはなしだ（ズゴ）。



z 6 -03.png



z 6-04.png



z 6 -05.png

それは、ジカンについてもいえるかもしれない。エル（ウンドウ）イコールティ（ジカン）で（●ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャクよん、ヒャクニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）、イシキもエルのイッシュだからだ。

つまり、おおきなジカンはあるかもしれないが、ココのジカンはある（ジブンでカンサツなりうごけばよい）。そして、コンザイもあるかもしれない。

このおおきなジカンは、はかるシャクドがきまれば、すぐにでもカノウといえカノウ

だろう。たとえば、まえにものべたが、ひかりなどをほかのブッシツのウンドウのエイキョウをのぞいてタンイとすれば、ゼツタイジカンができる（●『ス』ニジュウ、『オ』ハチ）。ジカンイコールゼツタイジカン わるインリョクをケイサンすればよい。それではかれれば、チキウにすもうが、カセイにすもうが、フベンはないだろう。ちいさくみれば、それぞれのリズムということである。

ヒャクニジュウニ

ウンドウにはエネルギーがヒツヨウだ。シキでいうと、エル（ウンドウ）イコールイー（エネルギー）わるダブリユ（シツリョウ）だ（●ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）。コウセイがもえるにもネンリョウがヒツヨウだ。それらが、なるべくつづいたホウが、チキウジンは、セイカツしやすい。だから、リサイクルをかんがえる。

しかし、チキウジョウをみると、はでにエネルギーをつかっている（わたしもそうだ。パソコンをつかうのをやめられなかったりする。）。あまり、チキウジョウのエネルギーがなくなっていくことをシンパイしていないかのようだ。むかしだったら、たまったきのブンくらいしかネンリョウにしなかった。それでも、もりをゼンメツさせたブンメイもある。そういうところはサバクになっている。

それなら、エネルギーがあるうちに、もりをシュウフクさせたホウがいいだろうに、あまりそういうはなしはきかない。なにがいいかという、コンピューターはショセンエネルギーのみである。エネルギーがなかったらうごかない。そんなセイヒンばかりをいまつかっている。むかしのひとにいわせれば、それはデカダン（タイハイ）だろう。だから、すこしでもひかえて、リサイクルできるエネルギーでまかなうようにしたホウがいいだろう。

ヒャクニジュウサン

エネルギーにかんしていえば、ジタクとカンコウチのキョリも、ネンリョウがちぢめたといえるだろう。ヒコーキでいけば、そこそこのネンリョウ。パソコンでみるだけだったら、すくないネンリョウ。いずれにせよ、ネンリョウがヒツヨウだが、それをつかうことで、キョリがちぢまる。それでいいケツカがでたかはわからない。センソウがすくなくなったから、よかったのかもしれないが、さきのことかかんがえるヒツヨウがある。すくなくとも、セツヤクすることはできるはずだ。

ヒャクニジュウよん

ニジュツセイキはセンソウがあった。それはおおくのシシャとハカイをもたらしたとい

う（ザンネンながら、わたしはカンサツしていない。）。もうそれから、ハチジュウネン
たつが、まだ、ひよっとしたらたたかっているのかもしれない。ただ、ジュウをむける
センソウはそうおおくはない。あいてにキョウラクをあたえるセンソウである。そして、
それはジンルイをタイハイにむかわせているのかもしれない。

コンピューターもそうだし、シィディプレイヤーもそう。エアコンもそうだし、ゲーム
キもそうだ。ダイタイ、これらはセンゴにできたものだろう。これらは、キホンテキに
なくてもすむものだ。そういつつ、わたしもサイヨウしている。まずは、「はずかしな
がら、タイリョウにネンリョウとみずをつかうフロをショユウしています。」とか、「こ
れはわたしのダラクなんです、オーディオセイヒンをつかっています。」というところ
からはじめなければいけないのかもしれない。しかし、そのまえに、まえのセンソウの
ショリもダイジであろう。

ヒャクニジュウゴ

エル（ウンドウ）は、ねつがたかいとおおきくなくなるとかいた（●ヒャクジュウゴ）。
エルイコールティ（ジカン）だから（●ヒャクジュウハチ、ヒャクジュウゴ、ヒャクキュ
ウ、ヒャクよん、ヒャクニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャ
クよんジュウよん、『よ』サンジュウニ）、ティもねつがたかいホウがおおきいとなる。そ
れなら、あったかいホウが、ひとはながいきできるのかとなる。しかし、いまのチキュ
ウジョウでは、ケイザイテキなモンダイがあつてか、さむいくにのホウがひとは、なが
いきするようだ（●『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』[イカ、『む』] サンジュウよん）。
ひとのジュミョウをはかるのは、むずかしいようだ。

ヒャクニジュウロク

これまで、いくつかホウテイシキをかいた。それをセイリすると、ウチュウのエネルギー
のおおきさがケイサンできそうだ。エル（ウンドウ）イコールイー（エネルギー）わる
ダブリュ（シツリョウ）だから（●ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、な
なジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）、エネルギー
は、エルかけるダブリュとなる。つまり、ウチュウナイのウンドウのソウワと、ウチュ
ウナイのシツリョウのソウワがわかれば、ウチュウないのエネルギーのソウワがだせる。
それで、コンゴのモヨウがあるテイドヨソクできるだろう。

ヒャクニジュウなな

まえにジカンリョコウのはなしをした（●ヒャクよん、ロクジュウハチ）。おおザッパに
いえば、それはむずかしい。だが、これまでのホウテイシキをセイリすると、カノウセ

イがある。

エル (ウンドウ) イコールイーエル (デンキ) (●ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ)、エルイコールティ (ジカン) (●ヒャクニジュウゴ、ヒャクジュウハチ、ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャクよん、ヒャクニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ) につき、ティイコール イーエルである。イーエルイコールエルである (●ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ)。エルイコール イー (エネルギー) わるダブリュ (シツリョウ) であるから (●ヒャクニジュウロク、ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ)、ティイコール イー わる ダブリュだ。

そのティがマイナスのアタイをとれば、ジカンをギャッコウできるといえそうだ。エルのばあい、マイナスのエネルギーというのはむずかしいだろう (ギャッコウでも、コウホウにシンコウともかんがえられるからだ。シツリョウは、ここでは、マイナスをかんがえないことにする)。イーエルのばあい、マイナスにできないか。ようするに、デンキをギャッコウさせるというわけである。つまり、マイナスイーエルイコール マイナスエネルギー わる ダブリュがなりたてば、ティ イコールイーエルにより、マイナス ティがタッセイできるというわけである。

だから、デンキをギャッコウさせることがカノウなら、ジカンリョコウはカノウだということになる。しかし、それは、カコホウコウにだ。ミライにとどかせるのは、むずかしい (そのときをこえられない)。だから、やりなおしたいばあいということになる。また、ニンゲンもドウジにおくるのはむずかしいだろう。また、イチのモンダイもある (なにもないところに、おくってもしかたがない)。ケイサンではそうなるが、マイナスティイコールマイナスエルであるので、わかがりのようなコウカ、もしくはなにかをわすれるというコウカしかえられないとおもう。シュウダンテキにやれば、それなりのコウカはあろう。

ヒャクニジュウハチ

エル (ウンドウ) は、ダブリュエー (ねつ) のカンスウかもしれないといった (●ヒャクジュウロク、ヒャクジュウゴ)。つまり、ねつがなければ、ウンドウはおこらないということだ。ドウブツもしぬとつめたくなるから、わかりやすいはなしだとおもう。ものも、こおらせてしまえば、ほとんどヘンカしない。ギャクにオンドをたかめれば、ウンドウがカップツになるといえるのではないか。

われわれは、そのねつにイゾンしているブブンがある。それがなければ、いきながらえない。ウチュウがもしおわるとすると、そのウンドウがテイシするということであろう。つまり、エルイコールレイだ。エル イコール イー (エネルギー) わるダブリュ (シツリョウ) だから (●ヒャクニジュウなな、ヒャクニジュウロク、ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』

サンジュウニ)、エネルギーがレイになるばあいと、シツリョウがレイになるばあいがあるだろう。エネルギー、そう、それが、ねつであるかもしれない。だから、たとえば、エルイコール ダブリュエー (ねつ) わる ダブリュ (シツリョウ) のような。

ウチュウのエネルギーがレイとは、すべてのものが、コタイになるというのにちかいだろう。また、エネルギーが、ウチュウのそとに、すべてでていったジョウタイだろう。イッポウ、シツリョウがレイとは、ものがすべてウチュウのそとにでていたということだろう。そうならなければ、ウチュウはつづく。ねつやシツリョウはそとがわにいくかもしれないが、またひきもどせばいいということだ。

ヒャクニジュウキュウ

エネルギーとは、ねつだけかという、なんともいえないが、とりあえず、エルイコール ダブリュエー (ねつ) わるダブリュといえるだろう (●ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウロク、ヒャクジュウゴ)。

ということは、ティ (ジカン) イコール ダブリュエー わるダブリュでもあるし (エルイコールティ [●ヒャクニジュウなな、ヒャクニジュウゴ、ヒャクジュウハチ、ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャクよん、ヒャクニ、ロクジュウキュウ、ロクジュウハチ、よんジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、『よ』サンジュウニ])、ジー (ジュウリョク) イコール ダブリュエー わる ダブリュでもあるし (エルイコールジー [●ヒャクキュウ、ななジュウニ、よんジュウゴ])、イーエル (デンキ) イコール ダブリュエー わる ダブリュでもある (エルイコールイーエル [●ヒャクニジュウなな、ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ])。ねつがおおきいホウがジュウリョクはつよいとなる。

だが、「ブラックホール」は、はげしくもえていないにもかかわらず、ひきこむちからがおおきいとされる。それをどうセツメイするか。それは、フツウのコウセイにくらべて、ジュウリョクとハンタイホウコウにはたらく、ハンシンリョクがすくないからといえるのではないか。つまり、フツウのコウセイは、ジカイ (ジリョク) のように、ほかのワクセイをイッテイのキヨリにおくが、ブラックホールは、そのジカイがよわまってしまっているということだ。だから、なにかものをひきつけてしまう。だから、エネルギーが つよいほど、インリョクが つよいと、タンジュンにはいえなかつたりする。

フツウのコウセイは、インリョクとハンシンリョク (●サンジュウキュウ、サンジュウハチ、『ス』ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャクハチ) がセツになっているのだろう。ひかりというのが、ハンシンリョクのショウタイかもしれない。だから、コウセイをはかるには、ジーたすアール (ハンシンリョク) というようなシキになるかもしれない。ウチュウのチュウシンがもえているとすれば、かりに、もえつきたばあいに、ハンシンリョクのない「ブラックホール」になるであろうから、またものが、ウチュウのチュウシンにあつまるかもしれない。

ヒャクサンジュウ

ハンシンリョク (●ヒャクニジュウキュウ、サンジュウキュウ、サンジュウハチ、『ス』ヒャクジュウゴ、ヒャクキュウ、ヒャクハチ) がありそうだから (それはひかりだとももっている。)、コウセイドウシは、あまりおたがいをひきあわないだろう。つまり、ひかっているコウセイは、ドクリツしたユニットということだ。それを「ケイ」とよぶのではないか。だからひかっているコウセイにはあまりひきつけられない。キョクロンすると、コウセイのばあい、ほかへのエイキョウは、ジー (ジュウリョク) ひく アール (ハンシンリョク) イコール レイなのかもしれない。

もえること イコール ダブリュエー (ねつ) たすアール (エルアイ [ひかり]) たすはいということだ。ジュウリョクのシキにいれて、ねつをエネルギーとすると、ジーイコール (もえること たす ひかり たす はい) わるダブリュ (シツリョウ) となる。シツリョウのおおきなコウセイのホウが、ジーはすくなくとケイサンできる。だから、もえつきてできた「ブラックホール」が、ジーがおおきいといえるだろう。よくもえているコウセイは、ジーがすくなくともいえる。タイヨウケイは、ジーイコール アール たす エンシンリョクでうまくつりあっているのだろう。

ヒャクサンジュウイチ

おもさには、プラスのあたいと、マイナスのあたいがありそうである (それをいまのところはシツリョウとイッショにしない。)。あるワクセイのうえてたまをもっていて、それをはなすとすると、ジュウリョクのあるワクセイでは、たまは、ワクセイのヒョウメンにおちる。このばあいは、プラスのあたいであろう。

さて、マイナスのあたいがでるところはあるか。これはありそうである。もし、「ない」とすれば、「ビッグバン」セツは、まちがいということになる。「ビッグバン」は、そのケイソクがマイナスのあたいをとるホウコウにちからがかかっている。つまり、たまはとばされるわけだ。そういうジョウケンもあろう。かりに、「シツリョウ」とカンケイあるゼンテイではなしをすすめると、ジー (ジュウリョク) イコール イー (エネルギー) わるダブリュ (シツリョウ) だから (エル [ウンドウ] イコール イー わるダブリュ [●ヒャクニジュウハチ、ヒャクニジュウなな、ヒャクニジュウロク、ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ]、エルイコールジー [●ヒャクニジュウキュウ、ヒャクキュウ、ななジュウニ、よんジュウゴ] より。)、シツリョウがマイナスだと、マイナスジュウリョクになる。つまり、おしだすということだ。

マイナスのエネルギーというのは、どうかとおもうが、「はい」などを、それにみたててケイサンしてみる。マイナスのエネルギーと、マイナスのシツリョウを、さきのシキでケイサンすると、ジーイコール マイナス イー わる マイナスダブリュで、プラスのあたいになる。ということは、ジー イコール イーエル (デンキ) であるから (●ヒャク、ゴジュウサン、ゴジュウニ、よんジュウゴ)、マイナスのエネルギーでも、マイナスのシツ

リョウがあれば、プラスのデンキがえられるということになる。どうやって、マイナスのシツリョウをヨイするかだが、またかんがえてみたい。

ヒャクサンジュウサン

イシキはサイボウにあるのではとかいた（●ヒャクジュウよん、『ス』ヒャクジュウよん、キュウジュウよん、キュウジュウサン、キュウジュウイチ、ハチジュウロク、よんジュウサン）。それだと、ノウはウンドウをするためのキカンとなる。しかし、ダイタイのニンゲンのイシキは、ことばをつかうであろう。だから、そのメンでは、ノウのハンチュウといえそうだ。

ことばをシュウトクするには、ウンドウがヒッスである。「あ」ということばをおぼえるにも、そのハツオンをきいて、ジブンでいってみて、おぼえるようだ。だから、ナラティブ（オンセイ）のばあいは、ノウがはたらいているとってよいだろう。つまりウンドウだ。モジのばあいは、いきなりよめるようにならないし、ほとんどのばあいが、オンセイをきいておぼえるようではないか。だとしたら、ウンドウというわけだ。ただ、ことばにならないおもいなど、サイボウがもっていることはあるとおもう。

ヒャクサンジュウよん

わたしはおどりがあまりすきではない。トクにシュウダンでやるおどりがにがてだ。ニホンでは、ハチジュウゴネンに、エンダカがすすむようになり、やがてバブルケイザイへとイコウしたようだ。それは、エンダカのなせるわざだったかもしれない。いままで、イチマンエンだったウイスキーがサンゼンエンでのめるようになったというようなはなしだからだ。それで、ブランドブームだのなんだのになっただろう。また、フシギなことにディスコがはやったときかれる。また、ガイショクのみせもふえただろう。

こうみると、ニホンジンがはたらかなくなったというのも、みえてきそうである。それで、ニジュウネンくらいまえから、「ソウシツされたジュウネン」だのいいはじめた。ジュウネンまえに「ニジュウネン」だったから、いまもつづいていけるとすると、「サンジュウネン」である。その「ソウシツ」がはじまったハチジュウネンダイコウハンに、ゲンバでカツヤクしていたのは、センキュウヒャクゴジュウネンから、ロクジュウネンぐらのうまれだろう。よくいう「ダンカイのセダイ」のしたのセダイでロクジュウダイくらいのひとだろう。

いま、ガッシュウコクでもっともヒョウカされているカイシャは、コンピューターメーカーだ。タブン、かれらとドウネンダイのひとがやっているとおもう。つまり、かれらは、ガッシュウコクのそのキギョウにまけたのである。また、「ソウシツされたニジュウネン」のコウハンニジュウネンは、センキュウヒャクロクジュウネン、ななジュウネンのうまれのひとが、カツヤクしていたキュウジュウネンダイである。かれらは、いま、ゴジュウダイだろう。

やはり、かれらもガッシュウコクのおおてソフトウェアメーカーにまけた。ニホンでかれらとキョウソウできるひとはすくないだろう。それで、「ソウシツされたニジュウネン」となる。いまはまだ、「ソウシツされたサンジュウネン」というはなしはあまりきかないから、センキュウヒャクななジュウネンダイからハチジュウネンのうまれががんばっているだろう（ジッサイにわたしもがんばっている。）。

やはり、このネンダイのガッシュウコクキギョウもつよい。ケンサクエンジンのカイシャやツウハンガイシャがある。また、チュウゴクでも、カデンメーカーやパソコンメーカーがそだっている。かれらにかたないと、「ソウシツされたサンジュウネン」となりかねない。そうはさせたくない。がんばろうとおもう。

ヒャクサンジュウゴ

かわせやブッカがアンテイしているホウがくらしやすい。それをタッセイするために、ツウカのシンライドがジュウヨウとなる。むかしは、ドルとキンのコウカンがホシヨウされていた。ドルをもっていくと、キンなんグラムとコウカンしてもらえたわけである。だから、そういうタイセイカでは、ケイザイはアンテイするだろう。しかし、ベツのモンダイもある。

それは、シホンシュギのシステムのモンダイだ。それはなにかとというと、まえにセツメイしたとおり（●『ス』ヒャクロクジュウハチ、ヒャクニジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウ）、リエキやチョキンをだすと、シジョウからおかねがすくなくなることだ。それで、ブッカがやすくなると、「デフレ」という。そうすると、キギョウのギョウセキがアッカするから、チンギンもさがるし、シツギョウがでる。そういうモンダイだ。

むかしは、ガッシュウコクとシャカイシュギのソレンで、ちからくらべをしていたから、ガッシュウコクはまけるわけにはいかなかったんだらう。ドルとキンのコウカンをやめてしまった。それによって、ツウカをタクサンインサツして、リエキやチョキンでツウカがきえたブンをキョウキュウしただらう。それによって、「デフレ」はカイショウされただらう。それで、キュウジュウネンダイにソレンがシュウリョウした。シホンシュギがかったようだが、おかねのすりすぎというモンダイがのこった。リエキやチョキンがイッセイにシジョウにでたら、イッキにインフレになるだろう。そういうイサンがのこった。

これをカイショウしてというはなしはあまりきかない。なにかものがたかくなったとしたら、リエキやチョキンをそのしなものにかえていくということだらう。ニホンでもタニンゴとではない。キュウにキョウコウがおこるカノウセイはあろう。ソレンというセイタイはシュウリョウしたが、かならずしも、シホンシュギがかったわけではないかとおもう。

ヒャクサンジュウロク

たまに、おいしいものをたべたくなる。とはいっても、わたしにとってのそれは、せいぜいゴビャクエンテイドのものだ。しかしである。ガイシヨクをほとんどしないわたしのリョウシンとくらべれば、ゼイタクかもしれない。わたしのリョウシンはセンゼンうまれだから、センソウをしているし、シツソだ。なにかものをかってくるということもすくない。それに比べて、わたしは、ものをかってくる。センソウをしているか、しらないかでこうもちがうものか。

ただタンに、わたしがあまりかんがえていないだけかもしれない。バブルが、ハチジュウネンダイコウハンにあって、ブランドものがはやるようになった。わたしは、すこしだけ、それをかった。しかし、それもゼイタクだろう。ハチジュウネンダイコウハンから、そういう「ゼイタク」ムードがニホンにひろまったとおもう。そのまえは、かっぱまきやら、やきそばパンをたべていたにもかかわらずである。

たしかに、ニホンはセンゴフッコウして、まあまあゆたかになったかもしれない。それは、おやじたちや、そのまえのセダイや、コウゾクのセダイがドリヨクしたためであろう。イチジはジーディピーでセカイニイとなった。しかし、それからのサンジュウネンは、あまりかんばしくなかった。ジーディピーはほぼよこばい。キュウリョウもほとんどあがっていない。ケイザイリヨクは、イーユーやエイレンポウやチュウゴクにぬかれてゴイとなった。

ただ、おもうのは、それでも、たべものがゆたかになったということだ。ショウテンをみても、かっぱまきはあまりみられないし、きゅうりをはさんだだけのサンドイッチもみられないし、やきそばパンもあまりうっていない。センゼンよりゼイタクになったか、ジツサイに、みてくらべたわけでないのかわからないが、カクジツにショウワのジダイよりは、ゼイタクになったであろう。また、タブン、センゼンよりゼイタクであろう。それをケイザイハッテンだと、ケイザイガクテキなメンでいえば、まあわるくないが、セイジガクテキなメンでいうと、ちょっとそれとはちがうはなしになる。フツウ、レキシテキにいえば、センソウにまけたくには、まずしくなる。また、そのまけをばねに、ドリヨクしたりするであろう。もしドリヨクしなければ、つよいくにほろぼされる。そういうのは、レキシをみれば、よくあるはなしである。

ニホンはセンソウにまけたにもかかわらず、そのセンソウにまけるまえよりも、いいたべものをたべている。これをレキシテキなユウシュウなジンプツだったらどうみるか。ひとことでいえば、「ダラク」であろう。それでは、くにはながくないである。ハンロンもあろう。もう、センソウはおわったと。だが、ホントウに、そのショリがおわったのか。わたしはうたがわしいとおもっている。ながくないでは、こまってしまうので、わたしは、やきそばパンをよくたべるようにしたいとおもう。

ヒャクサンジュウなな

わたしのおやじは、ダイガクにいかなかった。それで、バンネンシュツセができなかったときいている。それでも、カイガイフニンもしたサラリーマンで、ヤクインにこそなれなかったが、そこそこのチイまでいった。そういうリユウがあったから、リョウシン

は、わたしに、ダイガクにいてほしいとおもったんだとおもう。

しかし、わたしは、すぐにはダイガクにいかなかった。いまかんがえれば、シュミにおかねをかけて、ゴハンをあまりたべなかったからだ、まあ、ちょっとシュミをやりたいかった。それはオンガクである。そのゴ、ダイガクにいったが、いまかんがえれば、わたしのジツリョクでは、ダイガクにいきづらかったんだとおもう。それは、ガクリョクのはなしではない。おかねのはなしだ。

ダイガクにかよっていたときに、アルバイトをはじめ、ジブンでガクヒをだすようにした。モチロン、その夕のセイカツヒもジブンでだした。イチネン、ニネンは、まあそれでつづけられたが、トウジは、「ニューシャカンレイキ」のようないわれかたをしたし、ケイキがそれほどよくなかった。それなら、ケイエイシャは、ヒヨウをけずったり、ギョウムのコウリツカをする。それで、あるアルバイトさきでは、そんなにかせげなくなった。それから、アルバイトさきをかえて、ふらふらアルバイトをして、おかねをためた。しかし、ガクギョウのホウがおろそかになってしまい、キュウガクしたり、ソツギョウがナンネンかおくれたりした。

こういうわけだから、「わたしのジツリョクでは、ダイガクにいきづらかった。」という。うまれたジキヤウンのモンダイもあるだろうが、いってみれば、「シジョウは、ロウドウリョクをダイガクにいかせるほどのヨウユはない。」とシテキしたのだらうとおもう。

ヒャクサンジュウハチ

ダイガクセイのことを「ユウヨキカン」といういいかたもある。しかし、ジツシツテキには、ユウヨされづらいのだとおもう（●ヒャクサンジュウなな）。ショウガクキンがかえせないガクセイのはなしもきく。それなら、コウコウにいきながら、アルバイトをして、おかねがたまったら、ダイガクにいけばいい。

ガクリョクがユウセンされるむきもあるが、ニンゲンにとってダイジなのは、ケイザイセイカツである。そのシジョウのこえにも、みみをかたむけるべきだとおもう。ジツサイにおかねをだしてみ、そうおもう。

そんなカンサツからスイソクすると、スウジのうえでは、ニホンジンは、いえをかえたりするが、ジツシツテキには、そうカンタンでないといえるとおもう。カイガイフニンもした、わたしのおやじでも、いえはたてたが、くるまはチュウコシャにのっていた。それをかんがえれば、そうカンタンでないわかる。

タブン、ジツシツテキには、ニホンジンのロウドウシャには、ふたつのセンタクシがあるとおもう。「いえをかいますか。くるまをかいますか。」だ。どっちもというのは、ジツシツテキなイミでむずかしいのだとおもう。わたしなんかは、くるまにのらないで、シュミのオンガクにおかねをつかっていたから、いえもかえないで、ショウヒでおわるかもしれない。

ヒャクサンジュウキユウ

デンキをながすと、ねつをだすブッシツがある。それがどのブッシツにも、おおかれ、すくなかれ、あてはまるとすれば、ねつはデンキのカンスウということになる。つまり、ダブリュエー（ねつ）イコール エックス かける イーエル（デンキ）である。

デンキからねつをだすソウチは、ジッサイにうられているし、わたしもつかっている（もし、そのギャクのテンカイがカノウとすると（スウシキジョウはカノウだ。）、ねつからデンキをつくれることになる。チネツハツデンもあるし、カリヨクハツデンもそれにちかい。また、おおきなイミではフウリヨクハツデンもそうだろう。カイスイのオンドのばらつきによるクウキのながれからハツデンしている。

そのギジュツがカクリツされれば、チキウオندانカというから、デンキにこまらないのだろう。また、イーエルイコールエル（ウンドウ）だから（●ヒャクニジュウなな、ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ）、ダブリュエーイコール エックス かけるエルとなる。ねつは、ウンドウのカンスウともいえよう。また、エル イコールイー（エネルギー）わる ダブリュ（シツリョウ）だから（ダブリュエー わる エックス イコールエルとテンカイさせて、●ヒャクサンジュウイチ、ヒャクニジュウハチ、ヒャクニジュウなな、ヒャクニジュウロク、ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）、ダブリュエーわる エックス イコール イー わる ダブリュで、シツリョウがレイのばあい、ねつはショウじないとなる。つまり、ねつはものがないとしようじないとなる。だから、ひかりもものであろう。もののばあいは、エルイコールイー わる ダブリュで、エル イコールイーエルだから、ひかりもデンキのひとつといえる。つまり、ひかりには、ハツするテンとトウチャクテンがあるということだ。

ヒャクよんジュウ

まえに、ウチュウのそとがわにひかりのコタイがたまっているかもしれないとかいた（●サンジュウハチ、『ス』ヨンジュウハチ、ゴジュウキュウ）。また、それはチキウのなかからみたそとがわについても、おなじことがいえる（●ニジュウイチ、『ス』ヒャクニジュウロク）。いま、セキユをリヨウしているが、そのことかもしれない。もし、もつとはやくそれをシテキできていれば、かなりかせげたかもしれないが、オウベイのひとつにさきをこされてしまった。

もし、もえることもデンキのイッシュとかがえれば、ネンリョウをハンノウさせてデンキをつくっているわけだから、そのギャクもカノウではないかということになる。つまり、デンキからネンリョウがつくれるということだ。それができれば、セキユのコカツ（タブン、しないとおもうが。）もモンダイではないだろう。

ヒャクよんジュウイチ

ねつはデンキのカンスウだから、デンキをつかうほど、ねつがおおきくなるといえる（●ヒャクサンジュウキュウ）。「チキュウオンダンカ」は、シーオーツーがゲンインとされることがあるが、ジツは、デンキのリヨウリョウがゾウダイしたためといえないか。スウシキからいうとそうなる（イーエル [デンキ] イコールダブリュエー [ねつ] わるダブリュ [シツリョウ]、●ヒャクニジュウキュウ、ヒャクニジュウハチ）。

だから、デンキのリヨウリョウをへらせば、「チキュウオンダンカ」はとまるだろうが、ジツサイテキには、むずかしいとおもわれる。ダンボウやパソコンをつかわないというのは、きびしいだろうからだ。だから、トウキョウがしずむセンもかんがえないといけないかもしれない。

ヒャクよんジュウニ

どうすれば、「チキュウオンダンカ」をとめるようにできるだろう。ひとついえなそうなのは、ものをかうばあい、ちかくでつくられたものをかうことだろう。とおくからはこぶのなら、エル（ウンドウ）イコールイー（エネルギー）わるダブリュ（シツリョウ）だから（●ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクサンジュウイチ、ヒャクニジュウハチ、ヒャクニジュウなな、ヒャクニジュウロク、ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）、おもいものほど、エネルギーがかかる。エルをデンキとみれば（エルイコールイーエル [デンキ] より。[●ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクニジュウなな、ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ]）。とおくのおもいものほど、ショウヒデンリョクがおおきい。つまり、もののイドウについては、ワットなりイーアイ（わたしがかんがえたタンイ、●ヒャクジュウゴ）であらわせるわけだ。そのスウチのひくいものをかえば、デンキのリヨウリョウがちいさいから、チキュウオンダンカをとめるのに、コウカがある。ショウヒンにねだんとイッショに、つかったエネルギーのヒョウジをするといいかもしれない（●ななジュウキュウ）。

ヒャクよんジュウサン

デスクワークというのがある。ショルイをかいたり、うったりするわけだが、それはもうかるしごとなのだろうか。かせげるデスクワークは、そうおおくないだろう。シャナイへのレンラクジコウなどをかいたとしてももうかるわけではない。もうかるのは、サツカがかくショウセツやコンピュータープログラムであろう。そういう、はながたのほかは、ほとんどがザツヨウであろう。

だから、コジンが、もうかるデスクワーカーになりたかったら、はながたのしごとをねらうしかない。ザツヨウのしごとでは、キョクロンすると、はたらくだけむだになってしまう（それでキュウリョウがでるならいいが）。そういうわけでかせげるホワイトワーカーになるのはそうカンタンではない。サイノウがないのなら、からだをつかってはた

らいたホウがいいかもしれない。

ヒャクよんジュウよん

エル（ウンドウ）イコールイーエル（デンキ）とかいた（●ヒャクよんジュウニ、ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクニジュウなな、ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ）。くわしくセツメイしなかったかもしれないが、セツメイすると、あるものとベツのなにかをこすりあわせていると、セイデンキがおこる。それは、マサツというかもしれないが、そのうごきはウンドウであろう。そういうわけで、エルイコールイーエルなのである。

ヒャクよんジュウゴ

シホンシュギのケイザイはリエキをだすことをだめといわない。そのリエキがためこまれば、デフレになるが（●ヒャクサンジュウゴ、『ス』ヒャクロクジュウハチ、ヒャクニジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウ、リエキのうらに、だれかのあかじがあってもだ〔●ヒャクジュウサン、イチ〕。）、おかねという、ジュウにできるケンゲンを、タニンにジョウトしたり（ジョウトというより、コウカンだ。）、タニンから、ジョウトされたりするのをよしとする。みんながジュウにジョウトしあっていいことになっている。

イッポウ、シャカイシュギでは、リソウテキには、コウヘイにケンゲンがブンパイされる。リエキやあかじをだすのもよしとしないだろう（コウカンは、ゆるされたりもする。）。だから、ヒンプのサがすくない（リソウテキには、ないであろう。）。

しかし、そのコウヘイというブンをつきつめていくと、セイフがセイリツしない。なぜなら、セイフのトップとフツウのロウドウシャのキュウリョウがおなじだと、おそらく、どこかガイコクでカイダンをするのにつかうヒコーキのリョウリョウがはらえないからだ。オウフクでサンジュウマン、よんジュウマンエンくらいするかもしれない。フツウのロウドウシャのゲツキュウブンをイチニチのカイダンでつかいきってしまったら、タブン、そのセイフのトップはガシするだろう。

だから、まったくコウヘイなシャカイシュギというのは、ゲンジツテキにはキノウしない。そこで、セイフのニンゲンにトッケンをフヨするわけである。ゼイキンをとりたてたり、シユウザイサンをフキョカにしたり、トチをとりあげたりをカノウにする。タイホすることもできるだろう。

ソレンでは、まあまあうまくいっていたが、そういうドクサイをおこなったくにはすくない。そういうわけだから、ヒンプのサをすくなくするために、シャカイシュギでは、ドクサイがうまれるから、よろしくないとなる。

いまのニホンにシャカイシュギセイタイをホンキでヒョウボウしているセイトウはいないとおもうが、そっちよりのひとつでも、せいぜいヒンプのサをちぢめるようなセイサクをめざすテイドだろう。ゼンインにキソキュウフというのが、わりとあたらしいやりか

ただが、それがうまくいくのかはわからない。

ヒャクよんジュウロク

ベッドをつかったことがある。やすいベッドはダイタイボールでささえるが、なかには、モクザイなどをつかって、ゆかにべったりおくベッドもある。しかし、ザイリョウのセツヤク、セイサクヒのサクゲン、ハンバイカカクのひくさ、をねらうなら、ボールをつかうだろう。それだと、ザイリョウがすくなくてすむ。これはドウブツにもいえないか。つまり、かねもちのドウブツはジメンやゆかにべったりとしていてもいいわけである。ねているということだ。イッポウ、おかねがないドウブツは、あしをつかうということだ。いまのところ、あしをつかうドウブツがシュリユウだろう。しかし、そうやってシンカしたともいえる。べったりねるドウブツは、ほろびてしまったか、レッセイということだ。

ヒャクよんジュウなな

ショクブツはコウゴウセイするという。グタイテキには、ニサンカタンソとスイソから、みずとサンソをつくるということである。まえに、ひかりはデンキだとかいた（●キュウジュウ）。だから、デンキをあびせれば、ショクブツは、コウゴウセイするかもしれない。しかし、ケイコウトウのひかりではだめらしい（わたしのケイケン、●ヒャクジュウイチ）イッポウ、ハクネットデンキュウでは、そだっているようだ。

しかし、ひかりやデンキというよりも、タンジュンにいえば、スイソであろう。スイソがなければ、みずはできない。ニッコウのセイブンのひとつは、スイソといえるのではないか。そうでなければ、みずはできない。

ところで、ニサンカタンソにひかりをあてつづけたら、どうなるであろう。チキュウはもえているので、ニサンカタンソは、むかしからあるとおもわれる。そこに、ニッコウがあたっていたのもかわらないであろう。あまり、ニサンカタンソがブンカイされれば、みずとタンソができるか、タンスイカブツと、サンソができるであろう。このふたつのうち、どちらがさきだったのだろうか。

なにか、クフウしてやれば、これらができるわけである。このふたつは、ショクブツケイにヒツヨウなブッシツと、ドウブツケイにヒツヨウなブッシツである。そのショクブツとドウブツがどうやってできたか。または、どこからかはこぼれてきたかというのはわからない。ためしにそのブッシツをどこかのワクセイにおいておいたら、どうなるのかをみとみるといいかもしれない。

ヒャチよんジュウハチ

シゼンカガクとシャカイカガク、さらにはジブンカガクという。シゼンカガクはシゼ

ンをケンキュウタイショウにする。セイブツガクやブツリガクなどがある。しかし、よくかんがえてみると、なぜ、シゼンカガクのダイガクがトウキョウにあるのか。たしかに、トウキョウにシゼンがまったくないわけではない。とはいえ、すくないだろう。それで、シゼンがケンキュウできるのか。

こういうわけだから、ニホンのカガクケンキュウは、すすみづらいのかもしれない。タンジュンなカンサツができないからである。トウキョウにあるものといえば、ジンコウブツだ。それなら、あらたにジンコウカガクというシュルイをつくるといい。コウガクなんかは、これにはいるだろう。

ヒャクよんジュウキュウ

ケイザイやとりひきについて、ひとつのたちばがあらう。それをひとことでいえば、「もうかるということはない。」である。

どういうことか。ゲンコウのやりかたでも、セイヒンには、あるテイドのホショウがついている。イチネンホショウなどだ。「もうかるということがない」やりかたでは、それをエイキュウホショウにする。つまり、こわれたら、シンピンとコウカンするということだ。そうだと、ケッコウなカカクにしても、もうかるということはないだろう。いつこわれてコウカンになるかわからないから、うりあげをつみたてておくようだ。

これは、ゲンコウのやりかたでも、ホケンというのがある。それをセンモンのカイシャがやるのではなく、それぞれのキギョウがやるということである。カンゼンホショウだから、ユーザーはたずかる。しかし、メーカーはもうからない。メーカーがチョコセツハンバイすれば、やはり、ショウテンももうからないだろう。

このかんがえかたをすすめると、たべものがムリョウになる。どういうことか。たとえば、ダイコンをつくるノウカは、ダイコンのセイサンにセキニンをもつ。イッポンヒャクエンでシュッカするでしょう。それをリヨウシャがヒャクエンでかう。このリヨウシャもダイコンのショウヒにセキニンをもつ。どういうことかという、それをたべたあとのウンコ（ダイコンのセイブツがはいっているであろう。●『ス』ゴジュウロク）を、ノウカにやはりヒャクエンでうるわけである。そして、しいれたノウカは、そのウンコをつかって、ダイコンをそだてる。そのジュンカンがつづくならムリョウだ。ノウカはヒャクエンでうって、ヒャクエンでしいれている。リヨウシャは、ヒャクエンでかって、ヒャクエンでうっている。

たべものがムリョウなら、ゼイタクしなければ、いきでいける。セイヒンもやはりムリョウにできる。どういうことかという、イチマンエンのラジカセをかうとする。それでメーカーにイチマンエンはいる。ただ、それは、さきにのべたように、エイキュウホショウである。だから、つかいおわって、メーカーにかえせば、イチマンエンうけとれる。つまり、セイヒンがムリョウなわけだ。ただ、ナンテンは、みずはムリョウにできても、ガス、デンキを、いまのところムリョウにできなさそうなテンだ。これらがムリョウになれば、その「もうかるということはない」いきかたもできるであろう。これは、シジョウやセイフをヒテイするものではない。キギョウなどがやればいいとおもっている。あ

かじのあびせあいとか、カクサはモンダイにならなくなるとおもう。

ヒャクゴジュウ

カンペキな「もうかるということはない」シャカイ（●ヒャクよんジュウキユウ）もかんがえられるが、それはどあいのモンダイかもしれない。サイキンのニホンジンは、ガッシュウコクジンのかんがえかたをよくとりいれるが、むかしは、ノウサンヒンとウンコのジュンカンが、できていたであろう。つまり、ものがやすかったということだ。またニホンは、わりとシンライシャカイなので、ソショウもすくない。つまり、ホショウのどあいがおおきいということだ。ガッシュウコクはソショウがおおいという。つまり、ホショウのどあいがちいさいということ。そのブン、もうけもおおきいだろう。

ジジツ、ガッシュウコクのキギョウのなかには、おおきいものがある。しかし、「もうかる」というばあいはゲームのヨウソがつよい。かちとまけがあるということだ。ニホンもサイバンセイドを、ガッシュウコクのようにかえはじめたが、そんなにゲームをしなくてもよいとおもう（すきなひとはやればいい。）。コウシンライで、ものがやすいというのもダイジだからだ。

デフレで、サンジュウネンケイザイセイチョウしなかったというが、ものがやすいということは、わるいことではない。そもそも、「ケイザイセイチョウ」というのではないだろう。なぜなら、チキユウのシゲンはユウゲンだからだ。あったとしても、タイヨウコウのリョウだけであろう。もしくは、インフレリツのことをいっているのか、ほかのくからとってきたシサンのおおきさをさしているのだろう（ガイコクとのシサンのやりとりについては、ボウエキトウケイがある。）。

「ケイザイセイチョウ」がインフレリツとすれば、それは、ちいさいにこしたことになる。それはそれでよろこばしいことだ。コクナイソウセイサンをヒャクチョウエンふやすということは、ニジュッパーセントのインフレをタッセイしようということである（ゲンザイ、ニホンのコクナイソウセイサンはゴヒャクチョウエンテイド）。それより、ショクリョウがムリョウのホウがよくないかとおもってしまう。

ヒャクゴジュウイチ

ソレンもショクリョウがムリョウのようだっただろう（●ヒャクゴジュウ）。それがなぜだめになってしまったか。インセンティブやヒキョウサンケンにあったカジョウなほど

のセイヒンのせいだとおもう。

ヒキョウサンケンでは、リンジのキュウリョウなどは、トクにわるいとされない。そういうのをもらえば、ロウドウシャはフツウイジョウにはたらくであろう。ヒキョウサンケンはもうけをだすブンカだから、そこからインセンティブをだせばよい。それでは、ソレンのロウドウシャが、ヒカクテキはたらかなくなる。また、カジョウなセイヒンも、もうけをだすブンカなら、タショウもうけをギセイすればつくれる。そういうわけでソレンはまけた。だから、ダイダイテキに、ムリョウのケイザイケンをつくってもむずかしいであろう。ただ、センタクのジユウはあってもいいとおもう。

ヒャクゴジュウニ

セイヒンをつくるロウドウシャは、セイヒンをつくって、うってキュウリョウをえる。キョウサンケンでは、シホンカはいやがられるが、さきのエイキュウホショウのセイヒンメーカーのように（●ヒャクゴジュウ）、おかねをあずかるだけだったらどうか。それでは、リエキはでない。そういうショクシュをシホンロウドウシャといおう。ばあいによっては、いまのニホンのギンコウのように、ゲンゾンするだろう。そのひとたちはどうやってたべていけばいいか。いま、よくあるやりかたは、おかねをウンヨウすることであろう。それでネンにサンパーセントのあがりでもだせば、シホンロウドウシャはたべていける。そのほかのやりかたは、いまのところわからないから、ウンヨウもあくではないとおもう。ただやはり、ウンヨウさきにあかじ（ウンヨウのくろじのブン）がでる。

ヒャクゴジュウサン

ニュースをみていると、たまにきびしいはなしがある。「コンピューターツウシンホシュ」というようにいわれるひとたちががんばっていたりする。わたしにいわせれば、それはかたよっているイケンだ。さらに、それにそうかのようにセイジカがうごいているというようなはなしもきく。セイジカはセンキョでえらばれるわけだから、おおいか、すくないかまではわからないが、そういうソウのはなしをきくというのはわかる。しかし、まえにイチドセンソウにはしたカコをかんがえれば、レイセイになるべきだろう。

かつてはそれをヨクサンタイセイといった。コクエキがダイジというシュチョウも、イチリあるが、キョウチョウをわすれては、トクにそれが、ほかのくにへもおよべば、ケイオス（コンラン）となる。わたしがしるハンイでは、ほかのくにのひとはレイセイだ。だから、ケイオスになるのは、ニホンシュウヘンだけだろう。そんなことをしては、ケイザイはままならないだろう。へたをすれば、すぐにおうてがかる。それでタブンつまだろう。

ケンポウにもあるが、「コクサイシャカイ」を「シンライ」するヒツヨウがある。そのイッポウ、「コクエキ」というタンゴは、それにのっていないとおもう。ケンポウをかえ

るきでいるらしいから、もうすでに、かえたあとのシコウわくぐみになっているのかもしれない。もし、そうだとすると、そのカイセイはあぶないとなる。ヨクサントイセイでは、しかたないとおもうのである。

ヒャクゴジュウよん

ことしも、むくどりがすをつくりはじめた。ことしきたとりも、まじめにすをつくっている。すにこもるのは、やはりゴガツゲジュンだろうが、まいとしおなじジキにつくるというのは、フシギである。タブン、もっともそのジキがテキしているからなのだろうが、いまのところ、はずれはみたことがない。トウケイテキには、ゴサがあるだろうから、そういうとりもいるのだろうか。

ヒャクゴジュウゴ

イシキとはなにか。このといにこたえないひともあるらしい。ブンケイテキにいえば、かんがえたりするなにかというのにちかいだろう。わたしは、これは、サイボウがカガクハンノウをしたり、ねつをもったケツカショウずるものとかんがえる。ようするに、エル（ウンドウ）というわけである。だから、ウンドウしていないものは、イシキをもたないであろう。

そこらにあるいしは、キホンテキにはイシキをもたないであろう。しかし、チキウのジュウリョクにひかれているブンウンドウがある。だから、イシキをもつかもしいない。ひよっとしたら、もっとおおきなレベルでイシキがあるかもしれない。

ヒャクゴジュウロク

ニホンキギョウのつくったセイヒンが、それほどカイガイでうけなくなっている。それを、「めずらしいいきものいるしまのようだ。」などというひともある。ようするに、ニホンコクナイだけで、あるセイヒンなどがショウヒされているということだ。ニホンは、ヤクイチオクのシジョウである。

センゴ、ニホンがフッコウしてから、ガッシュウコクのサンオクのシジョウでもがんばったらしい。チュウゴクがシジョウケイザイにぎりかえたあとは、ガイコクのキギョウがチュウゴクで、セイヒンをつくるようになった。チュウゴクは、ジュウオクのシジョウである。そこでうれば、おおきい。ニホンのジュウバイのシジョウだからだ。

もっとおおきくみると、チキウジョウのななジュウオクというシジョウがある。そのなかで、まあ、おかねにヨコウがあるのは、ハンブンテイドだろう。サンジュウオクのシジョウだ。ザンネンながら、ニホンキギョウのタイハンは、ジュウオクのシジョウでも、サンジュウオクのシジョウでもショウブできていない。せいぜい、イチオクとサンオク

のシジョウである。それをヒにすると、ジュツタイイチである。つまり、ジュウオクのシジョウとサンジュウオクのシジョウでがんばっているキギョウとくらべると、ギョウセキは、ジュウブンのイチになる。それでは、さがつくだけであろう。だから、セカイのキギョウのギョウセキランキングに、あまりニホンキギョウはでてこない。やはり、ジュウオクのシジョウやサンジュウオクのシジョウでがんばれるようにするのがダイジだろう。

ヒャクゴジュウなな

ヨーロッパのよろいは、てつでできていてガンジョウである。イッポウ、ニホンのよろいは、やをとおしてしまうかもしれない。なぜ、ガンジョウなよろいがヒツヨウだったか。みをまもるためといわれそうだが、リユウがあるとおもう。

それは、よろいをきるようなタイショウが、ブジであれば、ヘイシにきちんとキュウリョウがしはられるからだ。ヘイのなかには、いやいやつきあっているひともいるだろうが、なぜ、たたかうかといえば（ボウエイのときは、しょうがないであろうが。）。キュウリョウがもらえるからである。キョウリョウがもらえないのなら、ベツのしごとをしていたホウがいいだろう。しかし、タイショウがしんでしまうと、キュウリョウがみばらいになる。だから、タイショウがよろいをつけていると、ヘイもアンシンなわけだ。

ニホンでもおなじだろうが、ちょっとよろいがよわかったかもしれない。そのケツカ、ケッコウなみばらいがショウじただろう。だから、タイショウには、ガンジョウなよろいをつけてもらったホウがいい。おだのぶながコウが、ヨーロッパのよろいをみたことがあったかわからないが、していたなら、すくなくとも、ブカが（はしばひでよしや、もりランマルである。）、そういうよろいをヨウイしておくべきだったであろう。

ヒャクゴジュウハチ

ななジュウネンまえのセンソウでは、ニホンジンは、なんビャクマンのかずでたたかおうとしていたらしい。しかし、タイグウがわるかったときく。それでは、ろくにたたかえないというのはわかるだろう。すくないキュウリョウでよくはたらくひともいるが、そういうひとは、めずらしいだろう。

ソンスのヘイホウだったとおもうが、テキよりニバイのヘイリョクでたたかえば、そんなにあぶなくないというのがある。ガッシュウコクがヒャクマンのヘイシをだしてきたら、ニヒャクマンのヘイをだすということである。しかし、ザンネンながら、さきのリユウもあって、ニバイのヘイをヨウイできなかつたのであろう。キンダイセンは、ヒコーキもつかうし、ふねもつかう。レーダーもつかうのである。それをあいてのニバイヨウイするヒツヨウがあった。それができなかつたために、まけたのであろう。いまなら、ジンコウエイセイもつかうし、サイバーコウゲキブタイもつかうし、ミサイルもつかう、タイリョウハカイヘイキもつかう、デンシコウゲキキもつかう。これらをヨウイしなければ、またまえのセンソウとおなじことになるであろう。

ヒャクゴジュウキュウ

イシキというのは、ダンペンでもある。しかし、それをなれば、レキシになる。ということは、イシキは、ジカンといってもさしつかえないのではないか。つまり、シーオー（イシキ）イコールティ（ジカン）である。ジカンでなかったら、エル（ウンドウ）といえばよい。デンキシシゴウなり、カガクブツシツがうごくわけだから、そういうわけだ。カガクブツシツやデンキシシゴウというわけだから、それをよみとれるキノウがあれば、イシキをあつかうイシキというわくぐみはあるだろうということになる。だから、ニンゲンイガイのどうぶつだけでなく、シヨクブツにも、イシキがあるだろうとなる。そのイシキをあつかうイシキのわくぐみとはなんだろう。わたしは、それは、タンパクシツではないかとおもっている。よくたべたホウがイシキカツドウがカップツになるからである。

ヒャクロクジュウ

コンピューターのジョウホウシヨリは、エル（ウンドウ）である。デンキシシゴウをシヨリしている。ということは、ティ（ジカン）でもある。カンジョウをもつものもあるというから、イシキもあるかもしれない。これで、セイブツのように、フクセイできるようになったら、もはやギジセイブツである。

ただ、ボディのフクセイはむずしいだろう。だから、なんかのボディにキセイするセンがかんがえられる。すると、あたらしいセイブツシユかもしれない。しかし、カガクブツシツのシヨリができないかから、セイブツとはいえないかもしれない。もはや、そんなときかもしれない。コンピューターは、コンピューターのツゴウでうごく。

ヒャクロクジュウイチ

コウセイには、ジュウリヨクがあるにもかかわらず、なぜ、ワクセイは、ひきよせられないか。それは、コウセイのジュウリヨクが、デンキやジリヨクによるものだからでないか（ジー [ジュウリヨク] イコールイーエル [デンキ] [●ヒャクサンジュウイチ、ヒャク、ゴジュウサン、ゴジュウニ、よんジュウゴ]、イーエルイコールエム [ジリヨク]）。つまり、ちからがつりあって、エンキドウをえがくということである。

しかし、コウセイがもえつきてしまうと、デンキやジリヨクは、まわりをひきつけるホウにかわり、ブラックホールのようになるとかんがえられる。なぜ、デンキやジリヨクのちからがかわるか。もえるというカツドウともえきったというカツドウのちがいはないかとおもう。

ヒャクロクジュウニ

ひょっとしたら、シンジツよりもしあわせのホウが、ダイジかもしれない。これまで、わたしは、チャレンジャーのシセイでいろいろケンキュウしてきた。しかし、ホントウに、シンジツやシンリはダイジなのだろうかとおもった。

わたしが、チキュウがまわるリュウをしらなくても、チキュウはまわりつづけるだろうし、また、ソクラテスもやりすぎて、ガリレオもつかまえられてしまった。いまは、カガクをやって、ころされるということはすくないだろうが、そうおもってしまった。

ヒャクロクジュウサン

しあわせはそのひとが、ハンドメイドでつくるのが、フツウかもしれない。しかし、どこかのコウジョウでつくられたリョウサンヒンでもいいかもしれない。エコノミーでいえば、どちらがやすいかだろう。しかし、エイガやタンスはつくってくれるひとがいても、なかなかしあわせをつくっているコウジョウのはなしはきかない。そういうわけで、やっぱり、ハンドメイドしなければならないのかもしれない。

ヒャクロクジュウよん

わたしがチュウコウセイだったころは、なぜだかバンドがやりたかった。チュウガクセイのときには、ジッサイにやっていた。コウコウのときは、バンドができるにはできたが、スタジオにはいなかったのので、すべてのガツキをあわせることはできなかった。いま、かんがえれば、スタジオにいけばよかったのだとおもう。

「ケイオンガクブ」ならぬ、「ジュウオンガクブ」をつくろうかとおもった。また、シィディをつぎつぎとかった。ひるごはんをあまりたべずに、そういうことに、おかねをついやしていた。フツウのコウコウセイは、そんなことをしないであろう。ガクシヨクもあったが、イッカイもつかったことがなかった。カツドンでもたべて、ベンガクにはげめばよかったんだろう。

だが、そういうセンにわたしはのれなかった。ダイガクにいていたときもそうだったが、エイヨウのあるものをたべるといふカンカクがなかった。ガクシヨクにいても、うどんとかそんなものばかりたべた。パイテンで、パンかおにぎりをたべることがイチバンおおかった。そうやって、おかねをシィディにつかったわけであるが、いまなら、つきセンエンで、オンガクききホウダイがある。それなら、カツドンもたべ、オンガクもきくことができるだろう。

しかし、そうやって、オンガクのねだんがさがただけに、オンガクをつくるわかいひとはへっただろう。もうからないからだ。

ヒャクロクジュウゴ

オンガクは、みじかくてニフン、ながくてもロクジュウブンだろう。それがゲンジョウ。なんでニジュウジカンのオンガクがないのだろうか。タブン、つくるのがタイヘンなんだろう。エンソウするのもタイヘンだ。しかし、ニジュウジカンのオンガクをつくれるようなソウチはととのっているし、コンビニがニジュウヨジカンやっているなら、ニジュウジカンのオンガクがあってもいい。

ヒャクロクジュウロク

まえにいったように、いまは、オンガクがひとりイチジカンあたりイチエンのジダイだ(●ハチジュウなな、『オ』ヒャクサンジュウハチ)。だから、イチニチイチジカンブンだけつくっておわりとか、イチジカンブンだけひいておわりでは、まともにかせげないだろう。イチジカンブンだったら、あとはみるひとのかずだ。センニンみれば、センエン。これは、よくあるアルバイトのジキュウとおなじくらいだ。ということは、サイテイハチジカンは、サッキョクなり、エンソウしないと、ひとなみにかせげないとなる。

キャクがセンニンいれば、めでたくハッセンエンとなる。これがつづけば、ロウドウシャなみにかせげるだろう。わたしはいままできづかなかったが、これが、フツウのオンガクのしごとのありかただとおもう。イチニチにニジカンだけエンソウしてくっつけていけるほどあまくはない。それはユウメイなミュージシャンだからツウヨウする。それがわたしはわからなかった。

ユウメイなミュージシャンでも、いまでは、それはむずかしいだろう。ようするに、キャクをセンニンイジョウカクホして、イチニチハチジカンは、サッキョクなり、エンソウしろというはなしである。フツウのロウドウシャは、それをやっている。ようするに、あそびにんとかロックンロール(フリョウ)では、つとまらないのである。

キャクがゴヒャクニンなら、ジュウロクジカン、サッキョクなり、エンソウしろである。それで、オンガクカとしていちにんまえだろう。そうやってはたらくなら、ハチジカンのキョクもできそうなきがする。

あなたのサクヒンのカソウうりあげは、キャクスウ かける ロクジュウブンのエックス(キョクのながさ)(かける ゼットキョクのかず)でできるわけだ。それで、くっつけていけないとおもうなら、やめればいい。

いまは、ドラマもアニメもそうなりつつある。ソウトウきびしいのではとおもう。オンガクなども、コウリツがジュウシされるジダイかもしれない。わたしなんかだと、イチジカンにジュッキョクつくらなければ、たべていけないだろう。それでジドウカすると、エーアイなどに、まけてしまうカノウセイがおおきい。オンガクでたべていくには、きびしいジダイだ。

ヒャクロクジュウなな

ジンセイには、しあわせとフコウがある。これらをおおきくりかえすひとは、ドラマティックなジンセイだろう。やまあれば、たにありというジンセイである。そういうジンセイははなしになる。それもいい。

しかし、ほとんどどちらでもなく、ヘイタンなジンセイもあるだろう。アンガイ、そういうジンセイのがいいかもしれない。タブン、ゼンインがしあわせというのは、なかなかないだろう。だから、いましあわせであっても、つぎのシュンカンにフコウになることもある。それならば、そのどちらでもない、フツウをめざしたホウがいいのではないか。なんとなくそうおもう。しあわせなら、よりむずかしいカダイにチョウセンして、フコウなら、おいしいものをたべたりというぐあいである。

ヒャクロクジュウハチ

ハチネンまえのフクシマでのゲンパツジコをふりかえると、そんなにダイサンジにならないセンもあった。それは、ソウソウにゲンシロにカイスイをいれてしまうセンタクだ。ニホンのゲンパツは、セッケイジョウ、うみのちかくにケンセツする。それは、みずがなくなったら、カイスイをいれて、ゲンシロをひやすというセッケイであろう。つまり、あのジコはソウテイのハンイナイであったわけだ。

わたしも、ジコがおこるときに、カイスイをいれるというセンタクシをおもいついた。しかし、それをゲンパツのショユウシャであるカイシャに、もうしいれることはしなかった。なぜなら、わたしがゲンパツをショユウしていたわけではないからだ。また、かいとるにしても、イッキあたりナンゼンオクエンという。そのかねをはらうヨユウはなかった。なぜ、かいとるヒツヨウがあるか。それは、カイスイをいれることで、そのゲンシロがショウフカノウになるからだ。つまり、それをやったジテンで、ソンシツがハッセイする。だから、わたしはそれをしなかった。

あとになっておもえば、だれかが、ゴセンオクテイドだして、カイスイをいれていたなら、ダイジコにならなかったとおもう。しかし、それはしょうがない。すきこのんで、ゴセンオクエンをすてるひとはすくないだろうからだ。そういうわけだから、あらかじめダイサンシャのカイシャに、ゲンシロイッキにつき、そのケンチクヒとドウガクのおかねをホショウキンとしてつんでおけばいいとおもう。ショユウするカイシャは、こわしたくないからねばるだろう。しかし、ダイサンシャが、そのホショウキンで、ゲンシロをかいとってとめられるようにすれば、すこしはアンゼンになるかとおもう。

ヒャクロクジュウキユウ

わたしは、スウガクのモンダイをとくのがおそい。チュウガッコウまでは、まあまあだったが、それでも、あまりいいテンはとれなかった。コウコウにはいつてから、ほぼラクダイテンになった。

なぜ、そうなるのか。わたしは、スウガクのモンダイをとくのにヒツヨウなコウシキをショウメイしてからときはじめる。いきなりコウシキにスウジをあてはめることができないのだ。だから、ジカンがかかる。といているうちにジカンぎれとなり、てをつけなかったモンダイのブン、テンがわるくなる。それでスウガクがきらいになった。スウガクのジュギョウにでるのもクツウで、コウコウをやめた。

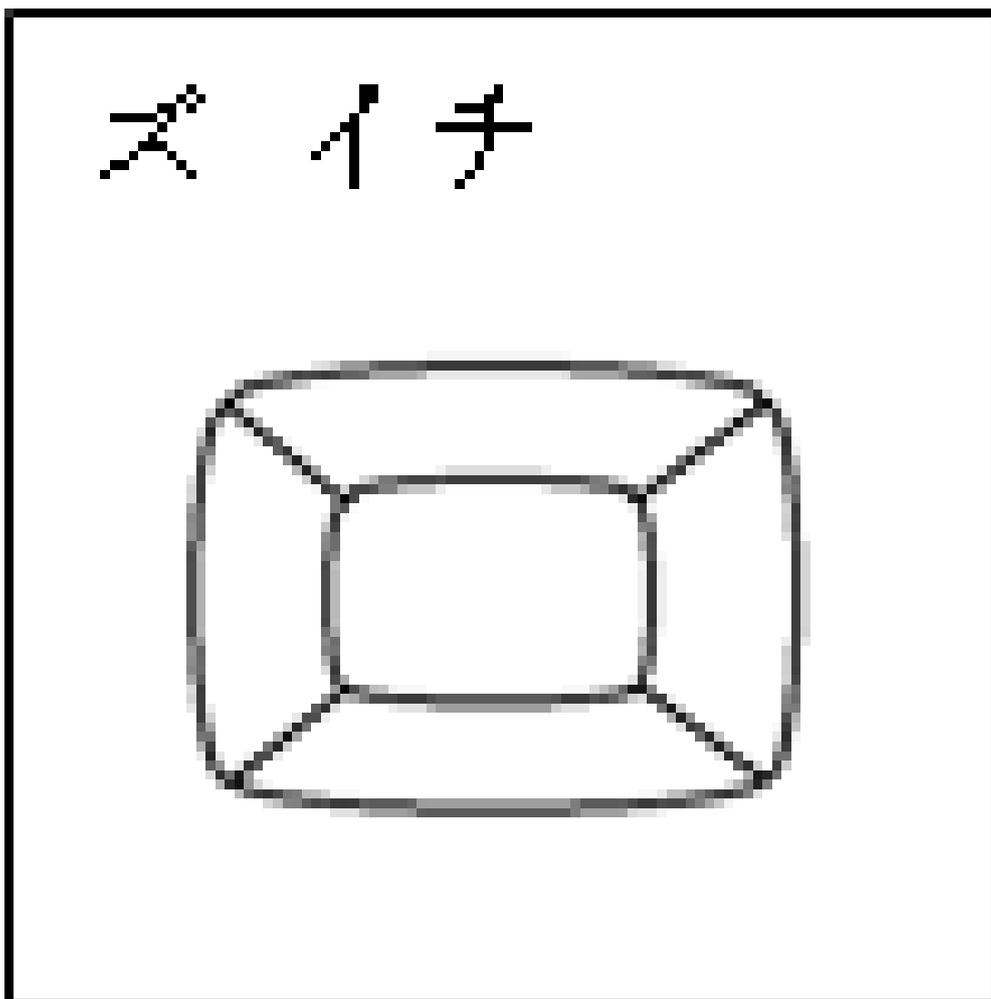
シンガッコウのベンキョウは、はやさとセイカクさをもとめられる。そうしないと、いいダイガクにはいれないからだ。しかし、わたしは、そういうリユウで、はやりにつきあうことはできなかった。いまでは、それでよかったとおもっている。あしがはいひひとがいれば、あしがおそいひともいる。ムりに、ジブンにあわないことをしなくてもいいだろうと。そのゴ、わたしはダイガクにいったが、そこでも、スウガクのエンシュウは、イチバンとくのがおそいほうだった。

スウガクでいいテンがとりづらいとわかったら、ジブンにむかないダイガクではなくて、それイガイのシンロをかんがえればよい。ただ、わたしのばあいは、リョウシンがダイガクにいてほしかったようだから、その夕のシンロをしらなかった。もっとヘイキンテキなコウコウにいて、センモンガッコウにでもいけばよかっただろう。そのホウがしあわせだったかもしれない。

ジブンにあう、あわないはあるとおもう。むいているしごとをやればいだろう。スウガクのモンダイのときかたがそうだから、ギャクにわかることもある。それは、コウシキやガクセツがジツはただしくないのではないかということだ。はやくとくひとは、コウシキやガクセツがただしいというカテイでとく。しかし、コウシキやガクセツがただしくなかったら、ケイサンジタイはただしくとも、こたえはまちがいだ。だから、そういうのをシテキするのもいいとおもっている。

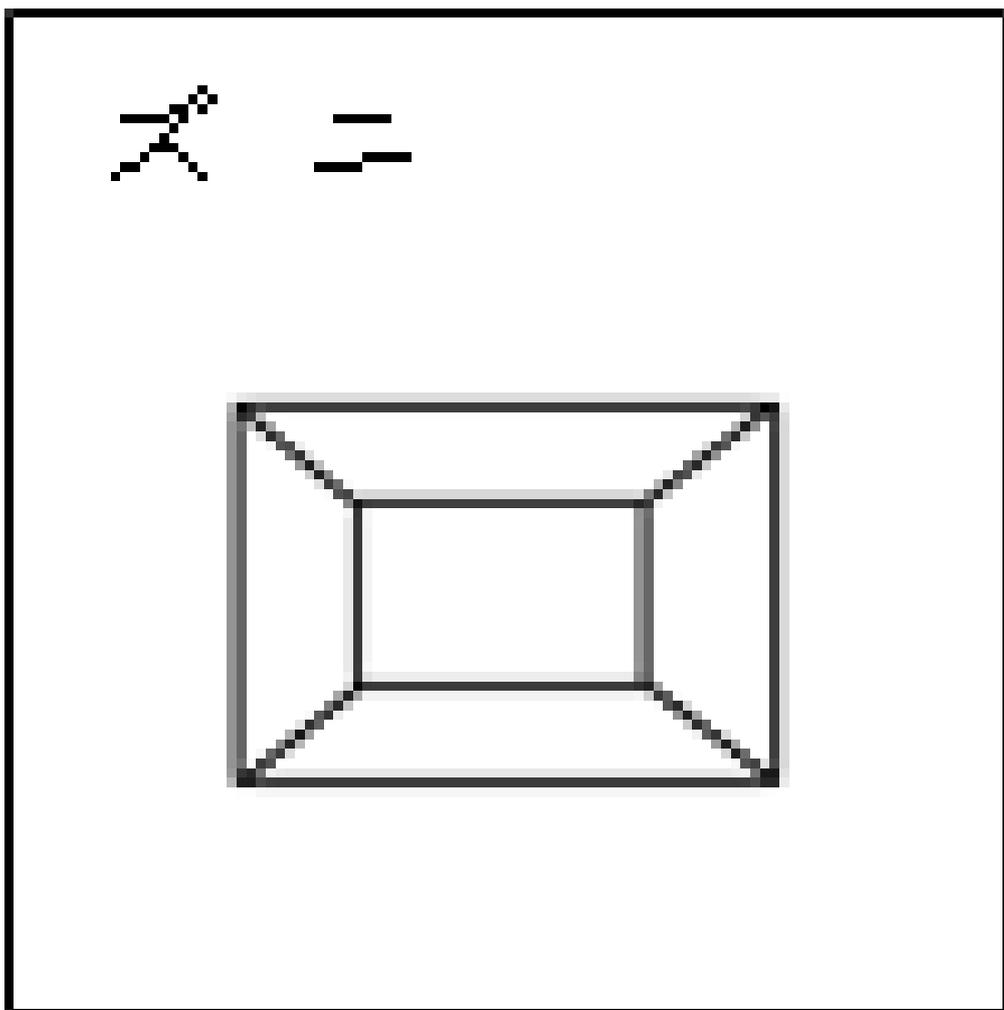
ヒャクななジュウ

さきにニンゲンのもののみかたのはなしをした（●キュウジュウハチ）。ニンゲンがなにもゼンテイがなく、ものをみれば、ズイチのように、ものがみえる（たとえば、へやのイチメンである。）。



z 6-01.png

しかし、キンダイイコウ、キョウイクがハツタツし、ガッコウでまなぶ、ズニのようなエンキンホウをもとにしたえをおぼえさせられる。だから、ズイチのようなジブンのシカクではなくて、ズニのようなエンキンホウによるえをイッパンテキとする。



z 6 -02.png

えでもテレビでもズイチのようにみるひとはすくないだろう。ジッサイにまがっているかを、はかってみると、そうまがっているわけではない。もののジョウタイのえとしては、ズニのホウがただしいのである。だから、シュカンより、オブジェクトをユウセンするシコウともいえる。だから、ズイチのようにみえたとしても、ズニのようにかくのが、キンダイのキョウイクのたちばだろう。それを、「ケイモウシュギ」としておく。しかし、そのキホンをわすれてしまうと、ズイチをみたときにファンになる。わたしのめがおかしいのだろうか。でも、ニンゲンのめはシカクくできていない。だから、ビミョウなカクドができるのはムリもない。むしろ、ズニが、わたしのみたえだとおもうホウがヘンではないか。

ようするに、キョウイクによって、ズイチをあたまのなかでフゴウカして、ズニのように、ヘンカンして、シュツリョクするというキノウをあたまのなかにインストールする。そのフゴウカしたズニから、またしかくでみるような、ズイチにフクゴウができないというと、キソをわすれているということになる。

たとえば、はしごをつかってブタイのうえにのって、おりようとしたら、はしごがなかったというジョウタイにちかい。それをキョウイクのケツカとありがたいがすることもできるが、やはり、ズイチとズニはちがうというひとはでてくるだろう。ようするに、テレビのえをみるのもタンレンなわけである。ダイタイがズニのようなえをだす。カメラがとったえだ。カメラはまるいのに、なぜ、えがシカクくなるかは、わたしにはよくわからないが、ようするに、カメラごしにえをみるわけだ。だから、なれないひとにみせるとヘンだというのではないか。

そういうフウに、サイキンのシカクゲイジュツは、ヨーロッパリュウのケイモウシュギをドダイにしている。きづいてしまったわたしにいわせれば、「クラシック」「ヴィジュアル」であろう。ただ、シュカンよりものりにキテンをおいたテンですぐれているとおもう。テレビはさきにいったようだから、われわれは、フゴウカしたエイゾウをみるということだ。ようするにあたまのなかでのショリがおこなわれるということだ。ひよっとしたら、さきのズイチのようにもどさないかもしれない。

しかし、ジブンがかかわるエイゾウだったら、ジツサイにめでもカクニンするから、ズイチのようにニンシクしない、イワカンがおこるだろう。めより、カメラレンズのホウがたてながだから、ニクガンより、テレビでうつるえのホウがやせてみえるかもしれない。しかし、いまのテレビはフゴウカしているから、すこしのショリをくわえることで、めでみたカンがでるかもしれない。ニンゲンのあたまがショリしたホウがいいか、マイクロチップがショリしたホウがいいかというはなしである。ショリをするとつかれるだろうから、ひとはそんなにみない。だから、キカイにショリさせることもできるだろう。

ヒャクななジュウイチ

キオンがたかくなったり、ひくくなったり、からだがタイオウすることが、むずかしかったんだろう。あたまがいたくなかった。そのままほうっておくと、めでたく「かぜ」となる。そのときに、はやめにくすりをのむのが、わたしのリュウギだ。いまのところこじらせたことはないが、これがとしよりだったらタイヘンだろう。わたしもとしをとったのか、そういうことがあった。きをつけたいものだ。

ヒャクななジュウニ

よく、ウチュウのはじまりは、「ビッグバン」でセツメイされるが、そのまえになにもなかったんだろうか。わたしは、ウチュウのそとには、ウチュウみたいなものがあるとおもっているし、チキウのなかにも、チキウのようなものがあるとおもっている（●『ス』ヒャクニジュウロク）。

ようするに、ウチュウだけのモンダイではないだろうということだ。リョウシャから、アツリョクをうけるといってもいいだろう。そのアツリョクがよわければ、ウチュウはひろがるし、アツリョクがよわまれば、ウチュウはちぢまるだろう。ものがすでにあった

とすれば、「ビッグバン」がはじまるまえに、ウチュウにちからがくわったんだらう。それはどういうことかということ、チュウシンがコウオンになるということだ。そうすると、ハッカもするだらう。また、ひがつくということは、カガクハンノウのようなものだから、そのまえにそういうブッシツ、デンキがあったということになるらう。

わたしは、すべてのウンドウは、デンキでもあるとかんがえるから（エル [ウンドウ] イコールイーエル [デンキ]、●ヒャクよんジュウよん、ヒャクよんジュウニ、ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクニジュウなな、ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ）、どこかからデンキがとどいた（もえるテンに）ということだらうとおもう。

ヒャクななジュウサン

チキュウがもえているということは、チキュウにあるゲンシがもえてもおかしくない。しかし、チキュウのように、ヒョウメンには、ひはつかないであらう。コウセイぐらいのもえかただと、やはり、ゲンシももえるのだらう。ニンゲンもひをつかうことをおぼえている。だが、チキュウヒョウメンのカンキョウでは、ネンリョウをつかうヒツヨウがあるのかもしれない。

ヒャクななジュウよん

クーラーをつけているにもかかわらず、まどをしめなかったらどうなるか。すずしいクウキがでていくか、あたたかいクウキがはいてきてしまう。これはなんだろう。「ねつのコウカン」といえば、とおるだらうが、これは、「ウンドウ」ではないのか。これも、おおきなイミでは、ウンドウだらう。

コウセイからひかりが、ウチュウのそとがわにむかっていく。これは、ひかり（エルアイやイーエル [デンキ]）のイッシュがウチュウのそとがわにむかっているかもしれないが、あたたかいブッシツが、つめたいウチュウのそとがわにむかっているのかもしれない。つまり、ナンゼンドというコウセイのチュウオウからみれば、ナンビャクドにもえたベツのコウセイのひかりはみえない（とどかない）となる。チキュウのヒョウメンからほしがみえるのは、チキュウのヒョウメンがヒカクテキつめたいからだらう。このネツコウカンをジュンウンドウということにする。

ヒャクななジュウゴ

どこかのキギョウにつとめないで、いえにいることを、「ひきこもり」ということがある。あまりよくないイメージのようだが、よくかんがえみると、むかしはそれがあたりまえだったであらう。いえではたけをたがやして、なにかをつくったりしていただらう。た

まにやくしょによばれて、なにかするようになると、「シュッセ」といわれる。だから、ゲンザイのいえにいるひとも、「シュッセまえ」とよべばいい。しかし、「シュッセ」するひとはおおくない。やくにんばかりじゃこまるからだ。

ヒャクななジュウロク

あるものエーがあったとする。これにアツリヨクをかけると、エーのオンドさがる。トクに、エキタイからコタイになるというヘンカはわかりやすいだろう。ギャクのアツリヨクをかけたら、タホウコウからひっぱったら、どうなるか。ギャクにオンドがあがるだろう。やがてひがつく。ウチュウのはじまりが「ビッグバン」だとしたら、タホウコウからひっぱるちからがあったともいえるだろう。

つまり、オンドによって、もののキョウカイがダイショウするということだ。ティエイチ(もの)エルエー(おおきさ)イコールティエイチダブリュエー(あたたかさ)と。ティエイチピーディ(アツパクされる)イコール マイナスティエイチダブリュエー、ティエイチエスディ(ひっぱられる)イコールティエイチダブリュエー といえそうだ。

ヒャクななジュウなな

ものもえるとひかりがでる。これはケツカで、もののオンドがたかくなると、ひかりがでるということだろう。また、ものがボウチョウしてもでるかとおもう。つまり、ダブリュエー(あたたかさ)イコール エルアイ(ひかり)、エルエー(おおきさ)イコールエルアイというわけである。しかし、あるイッテイのオンドやおおきさをこえたらといえるかもしれない。

ヒャクななジュウハチ

ニュートンは、リンゴがきからおちるさまをみて、「ジュウリヨク」があるとハッケンしたという。そのジュウリヨク(ジー)は、わたしにいわせれば、エル(ウンドウ)でもあるし、イーエル(デンキ)でもある。リンゴがウンドウとして、ジメンのホウに行く。ということは、デンキもジメンのホウに行くとかんがえられる。デンキはほしのチュウシンのホウに行くのかもしれない。ただエイセイツイウシンもカノウというから、エイキョウはおおくないのかもしれない。

ヒャクななジュウキュウ

「コストサクゲン」のようにいわれることがある。マイツキよんサツのホンをよむひとの

コストは、つきロクセンエンくらいだ。それをニジュウジカンでよんだら、ジカンあたりサンビャクエンとなる。センエンだけのむのみカイをイチジカンできりあげたら、ジカンあたりセンエンだ。イッシュクとしてはまずまずのねだんだろう。

わたしがオンガクをつくるのについやすのは、ジカンあたりおよそジュウエンである。ホンをよむのよりやすい。また、ホンをかくのには、ジカンあたりおよそサンエンをついやしている。これはやすいホウだ。コストサクゲンというわけで、このレンキウはどこにもいかなかった。リョコウしたら、イチジカンあたりセンエンはかかる。テレビゲームもやすいホウだろう。ロクセンエンのゲームをひとつやっていたら、ロクジュウジカンやれば、ジカンあたりヒャクエンである。なるほど、ホんがうれなくなるわけだ。しかし、テイガクセイのオンガクやドラマみホウダイをシチョウすれば、イチジカンあたりイチエンとなる。さすがにこれにはかなわない。やすくしすぎのような気がする。あるカイシャのジムシヨクインは、デンシャにのってカイシャにかよう。つきにイチマンゴセンエン、コウツウヒがかかる。それは、イチニチにハッピーエン、ジカンあたりヒャクエンだ。うりあげがよければ、たいしたモンダイではないだろうが、わたしのオンガクをつくるコスト、ジュウエンや、ホんをつくるコスト、サンエンに比べれば、おおきい。

もし、わたしがあるカイシャのジムサギョウを、ショルイイチマイあたり、ジュウエンでジュウマイひきうけてしごとをしたら、ジムシヨクインがするおなじイチマイジュウエンのジュウマイのしごととくらべて、コストキョウソウでかっってしまう。ジュウエンのコストとヒャクエンのコストということだ。ヒャクマイひきうけてもハチジュウエンとハッピーエンである。

こういうリコウで、しごとをギョウムイタクしたり、ザイタクキンムをさせたりするのは、コストサクゲンになるとおもう。

ヒャクハチジュウ

ウチュウにあるコウセイはなぜか、まわりをカイテンさせる。チキウもそういうわけでコウテンしている。また、コウテンするからジテンもする。なぜ、コウセイがジュウリョクをもつとされるか。それは、もえるもののイドウによってだろう。つまり、もえるのをイジするには、なにかブッシツがヒツヨウだから、それをひきよせるし、そのながれができる。だから、コウセイそのものにジュウリョクがあるわけではないとおもわれる。

つまり、ゲンショウということだ。しかし、もえたあとにできるだろう「ブラックホール」は、なぜものをひきよせるといわれるのだろう。それはまだもえつきていないからかもしれない。ゲンショウがつづくというわけである。しかし、もえているのなら、「ひかり」をはっするはずである。だしたひかりさえもひきつけてしまうのかもしれない。あまり、ひかりがまがるとはきかないから、ひかりをださないようにもえているのかもしれない。あまり、ねつをもたないひかりもあるというから、あまり、ひかりをもたないねつをあるのかもしれない。いずれにせよ、カンサツしても、ひかりがかえってこない

のでは、カンサツしづらいであろう。

ヒャクハチジュウイチ

「ひかり」というものはホントウにあるのだろうか。「ひかり」は「ひかり」でも、ものとしてはあるだろう。しかり、「ひかる」というゲンショウは、それがあたるタイショウがあつてのことのようにおもわれる。つまり、「ひかり」イガイになにかがなければ、ひからないというわけである。

コウセイのちかくから、ウチュウをみると、ほとんどなにもみえないのではないか。ひるまのほしぞらとおなじである。ひるまにかべがあると、そのかべがひかりにあたって、はいいろにみえる。よるだとあまりみえない。なぜ、そのかべは、はいいろなのか。それは「ひかり」にあたってであろう。つまり、かべはいいろに「ひかっている」わけだ。そこでダイジなのが、「かべ」がひかっているということである。つまり、「ひかり」が、かべを「ひからせた」のである。ひとことでいうと、「かべ」はひかるセイシツをもっている。ひかるセイシツのないほかのものは、ひとにいやがられるであろう。ニンゲンにはみえないからだ。これは、デンキなどをつかつかべをひからせるというのににている。いまのところ、「デンキ」としておくが、タブン、ひかりというブッシツのなにかがかべにあたって、かべがハッコウする。だから、エムイー（デンキをおびたもの）イコールエルアイ（ひかり）なのだろうといえる。つまり、デンキをおびるものは、ひかるというわけである。そのキョウジャクはあるだろう。

ヒャクハチジュウニ

デンアツをかけると、ひかるものがある。わかりやすいのが、デンキユウである。また、ねつをハツするものもある。わかりやすいのが、トースターであろう。このように、さきのシキにあてはめると（●ヒャクハチジュウイチ）、おなじエムイー（デンキをおびたもの）だが、そして、タブンどちらとも、ひかりをだすが、コウリョウにかたよったものと、ねつにかたよったものにわかれる。ゼンシャをメイコウ、コウシャをネツコウということにする。

おなじデンキでも、このようなサがある。これは、ひかりジタイのセイシツなのだろうか。あたるもののセイシツともかんがえられる。ドウロはねつをハンシャしてというぐあいである。これも、デンキがあたって、ドウロがあつくなつたのかもしれない。つまり、ドウロジタイがあつくなつたということである。それなら、ものによってはあつくならないのであろう。

しかし、ネツコウには、ゲンドがありそうだ。タイヨウケイのそとがわのワクセイはずしそうだからだ。つまり、キョリによって、ねつのつたわるリョウがきまりそうだ。タンにタイヨウケイのそとがわのワクセイに、ねつをだしにくいものがあるわけでもないだろう。エムイーイコール エルアイ（ひかり）だが、エムイー イコールエフエルアイ

(あかるいひかり)でも、エムイーイコールダブリュエーエルアイ(あたたかいひかり)にはなりづらいであろう。いや、ひよっとしたら、エムイーイコールエフエルアイにもならないかもしれない。そんなとおくまでひかりをとばしたことがないからだ。

つまり、ダブリュエーエルアイイコールイー(エネルギー)、もしくは、イーエル(デンキ)、もしくは、エルアイ(ひかり)わるディ(キョリ)か、エフエルアイイコールイー、もしくは、イーエルわるディなのかもしれない。そんなとおくまで、すくなくともねつを、ひかりははこべない。ひかりそのものもねつをうばわれれば、コタイになるだろうから、うごきにくくなるとおもう。だから、コウシャのリカイでいいのかもしれない。ほしのひかりがチキュウまでとどくのは、それだけキョウレツにもえている、いたからであろう。しかし、ゲンショウとしての「ひかり」がコタイになるのかというモンダイはある。

ヒャクハチジュウサン

カラオケがリュウコウしていたところがある。ことばとして、カイガイにユシュツされていたくらいだ。あるうたのメロディを、バンソウがなるなか、ほんものカシュがうたうようにうたうあそびである。このあそびでは、すきかってにアドリブ(ジュウエンソウ)してはいけない。しかし、これがジョウタツしたとしても、プロのカシュにはなりづらいだろう。ちゃんとほんものカシュがいるからである。プロになるばあいは、ジブンのもちうたでショウブするべきだろう。

これはどういうことかということ、カラオケがうまいひとはダイタイ、コウタイがカノウということである。つまり、エーというカシュがうたうイーというキョクは、カラオケずきないチマンニンがうたう。そのカラオケのぼでは、かならずしもエムさんがうたわなくてもよい。ほかのキュウセンキュウヒャクキュウジュウキュウニンのだれでもいいから、うたえばよいのだ。そのぼでは、かけがいのないひとりというのではない。あるとすれば、ほんものカシュだろう。これはなにかにいていないか。

そうガッコウキョウイクである。そこでは、ダイタイセイセキのよいジュンに、いいキギョウにシュウショクできるという「おもいこみ」があるだろう。しかし、スウガクのシケンでキュウジュッテンとるガクセイは、ほかにニマンニンいたとする。それなら、そのひとがえらばれるためには、ほかのニマンニンにタイしてなんらかのチョウショがなければいけない。それがなければ、ほかのニマンニンのうちのだれでもいいということになるだろう。

このように、ダイタイカノウセイというのがある。もし、シケンでキュウジュッテンとるエーさんがカイシャをさっても、おなじテンをとるブイさんをサイヨウすればよい。これは、センコウするがわにとってユウリなくみだ。しかし、ニマンニンのがわでは、イチドウにカイしたら、だれがさきかという、ジュンバンまちになるかとおもわれる。スムーズにショウシンできれば、そのひとはモンダイがすくないだろう。しかし、イチマンキュウセンハッピーハクニジュウイチバンメのひとは、イッカイクウですらあがるかわからない。ジュンバンまちからおりてもあるが、やはり、このジュンバンまちで、

ソウトウカンジョウテキになるのだとおもう。

わたしみたいに、ドクジのメロディ（ハモリ）をうたうひとはすくないだろう。だから、カラオケのばによべれない。ただ、ジュンバンまちをしなくていいというのは、ストレスがすくない。

ヒャクハチジュウよん

エル（ウンドウ）のイッシュとして、ダブリュエー（あたたかさ）があるのではとかいたが（●ヒャクニジュウキュウ、ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウロク、ヒャクジュウゴ）、ジツサイのシキにしてみると、エルイコール ダブリュエー わるダブリュ（シツリョウ）となる。これは、ヒコーキなどをかんがえれば、わかるだろう。ネンリョウからかんがえてもいいが、そこでおこるゲンショウから、かんがえてもいい。

つまり、ねつをださなければ、ヒコーキはとべない（デンキシキもあるのだが。）。まえば、エルイコール イー（エネルギー）わるダブリュといった（●ヒャクよんジュウニ、ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクサンジュウイチ、ヒャクニジュウハチ、ヒャクニジュウなな、ヒャクニジュウロク、ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ）。そのイーを、ダブリュエーにかえたわけだ。こういうわけだから、ウンドウは、あたたかさの Kansuウといえる。

ヒャクハチジュウゴ

イッパンのセイカツで、ものをもやしたあとには、くろいすみがのこる。コウセイがもえたあとにも、これはできないであろうか。カーボンがふくまれていれば、それがのこるとおもわれる。くろは、ひかりをキュウシュウするというから、これゆえに、ブラックホールにひかりがすわれるのかもしれない。ひかりをキュウシュウすれば、あとでかくが、エルアイ（ひかり）の Kansuウがウンドウなので、カツドウをはじめるとかんがえられる。

ヒャクハチジュウロク

さきに、エル（ウンドウ）イコールダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）のはなしをした（●ヒャクハチジュウよん、ヒャクニジュウキュウ、ヒャクニジュウハチ）。そのダブリュエーは、ひかりの Kansuウということをかいた（●サンジュウよん、ニジュウイチ、ジュウニ）。つまり、ダブリュエーイコール エルアイ（ひかり）わるディ（キョリ）である。これがただしければ（ひかりのセイシツについてギロンしている [●ヒャクハチジュウニ]。ここではねつのひかりである。）。エルイコール エルアイ わる

ディ わる ダブリュとなる。

つまり、ウンドウは、ひかりのクスウということである。これは、ウンドウだけではなく、デンキについてもいえる。だから、デンキとひかりはヘンカンカノウなのだ（イーエルイコール エルアイ わる ディ わるダブリュである。デンキはゲンショウとしてなので、シキにシツリョウはふくまれていない。）。もっともシツリョウがちいさいひかりをとばせば、もっともウンドウがたかまるであろうか。

ヒャクハチジュウなな

エルアイ（ひかり）がおおいほど、ウンドウがおおきくなる（●ヒャクハチジュウロク）。これは、シャカイゲンショウについてもいえるのではないだろうか。チキュウのそとから、チキュウのうらがわ（よる）をみると、ケツコウなあかるさだという。つまり、そのあかるさのブンだけ、だれかがうごいているということである。くらくして、ねてしまえばいいが、そうしないひともいる（わたしもいま、デンキをつけている。）。そういうデンリョクがセツヤクされれば、チキュウもあつたまりにくいであろう（ダブリュエー [あたたかさ] イコール エルアイ [ひかり] わるディ [キョリ] より。●ヒャクハチジュウロク、サンジュウよん、ニジュウイチ、ジュウニ）。

ただ、そうすると、どこかどのキョウソウにかてないとかいいはじめるかもしれない。そういうわけで、ロウドウセンソウは、おわらせづらいかもしれないが、イツセイにフェアワークをドウニュウすることもできるだろう。そうしないと、チキュウがあつたまるばかりである。まずは、よるに、しごとをしないというところからかもしれない。

ヒャクハチジュウハチ

カセキネンリョウをつかって、ハツデンすれば、トウゼンねつがでる。そのねつをひやすためにつめたくしても、やはり、カセキネンリョウにたよるようだ。ゲンパツにしてもねつをだす。そうすると、やはりチキュウがあたたかくなる。それなら、ねつをださないようなハツデンハウハウとか（フウシャなど）、あるねつからハツデンする（チネツハツデンなど）のがいいかもしれない。

ニホンジンのいくらかは、またゲンパツをすすめたがっているが、やはり、ねつをだすことにはかわりが無い。そういうおもわくがあるから、「ニサンカタンソがふえると、チキュウがあたたかくなる。」といったケントウちがいのセツになってしまうのかもしれない。

なにかをもやすから、ねつがでて、「ニサンカタンソもでて」、チキュウがあつたかくなるであろう。そういうねつのメンからみれば、（ニサンカタンソはださないかもしれないが）、ゲンパツはねつをだす。だから、だめであろう。いまあるねつを、ユウコウにカツヨウできたらとおもう（イーエル [デンキ] イコールダブリュエー [あたたかさ] わるダブリュ [シツリョウ] である。●ヒャクよんジュウイチ、ヒャクニジュウキュウ、ヒャ

クニジュウハチ)。

ヒャクハチジュウキュウ

このまえ、エル(ウンドウ)イコールダブリュエー(あたたかさ)わるダブリュ(シツリョウ)のはなしをした(●ヒャクハチジュウロク、ヒャクハチジュウよん、ヒャクニジュウキュウ、ヒャクニジュウハチ)。このシキをいじると、エルかけるダブリュイコールダブリュエーとなる。つまり、イチ、ウンドウをしていて、ニ、シツリョウのあるものは、すべてねつをハツするということである。シツリョウがないなにかは、ほとんどないだろうから、ウンドウがあれば、だいたいねつをハツしているだろうということだ。これをオウヨウすると、ねつやウンドウをソクテイして、もののおもさをスイソクすることができる。また、デンキについても、おなじことがいえる。イーエル(デンキ)イコールエルだから(●ヒャクよんジュウよん、ヒャクよんジュウニ、ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクニジュウなな、ヒャクキュウ、ヒャク、ななジュウニ、ななジュウイチ、ロクジュウロク、ロクジュウゴ、よんジュウゴ)、イーエルかけるダブリュイコールダブリュエーというわけだ。これも、デンキとねつがわかれば、シツリョウがでる。なるべくシツリョウのちいさいものをねつすると、ハツデンコウカがおおきいということである。

ヒャクキュウジュウ

サンジュウネンほどまえまで、ニホンとガッシュウコクは、ロウドウセンソウをしていたといえるかもしれない(●ヒャクハチジュウなな)。モジどおり、ロウドウのセンソウである。なぜ、これがおこるか。それは、セイフのフサイがおおきいからである。いまやニホンでも、セイフフサイがセンチョウエンをこえた。ガッシュウコクでは、ギョウセイキカンをしめているという。

センチョウエンはセイフのシャッキンだが、ミンシュシユギなら、コクミンのシャッキンともいえる。これをかえそうとしたら、コクミンがおかねをだすか、はたらくということになるだろう。ニホンのコクナイソウセイサンが、ゴヒャクチョウエンだから、コクミンゼンインが、ニネンカンただばたらきをすれば、かえせるということだ。

ガッシュウコクもそうやっておさめられる。サイキンになって、チュウゴクもロウドウセンソウにくわわった。つまり、シャッキンをかえすために、ニホンジンもはたらくし、ガッシュウコクジンもはたらくし、チュウゴクジンもはたらくということだ。ヨーロッパでは、ほとんどセイフフサイがないから、これらをにがにがしくおもっているだろう。こういうジョウケンがあるから、ニホンジンはゆっくりできないわけである。

ヒャクキュウジュウイチ

わたしはイゼン、ものがあればあるだけ、ゆたかだとおもっていた。しかし、ものがふえると、イジするロウドウリョクがかかる。そのロウドウリョクをセツヤクしたければ、もつものをふやさないホウがいいとおもうようになった。だから、ヒツヨウなものイガイあまりかわなくなった。しごとがふえるでは、おもしろくないからだ。かうまえに、それをかんがえるといいだろう。

ヒャクキュウジュウニ

このまえ、わたしのパソコンのあるデータが、わるいやつらによってカイヘンされた。わるいやつらは、センソウにカツヤクすることもあるらしいが、イッパンジンをねらうのは、ハンザイだろう。それで、そのデータのロックをカイジョウするのに、かねをヨウキュウするというテイである。ムシしていたら、そんなフウになった。フツウのホウホウでは、これらをなんともできなかった。そこだけ、フリョウセクターのようになってしまう。わたしは、ハードウェアのヒガイがたまらないとおもった。ケツキョク、ソウジするのに、よっかかかった。こんなようでは、ジーディピーがさがる。

ヒャクキュウジュウサン

フツウのひとは、もしかしてかねもちになれたらいいぐらいに、かんがえてはいないか。しかし、それはむずかしいだろう。ヨーロッパがイセイのよかったジダイのイチリュウサツキョクカでも、タショウうまいものをたべたぐらいらしいからだ。そのひとのなは、モーツァルトである。

モーツァルトは、ロツピャクキョクイジョウのこしたダイサツキョクカである。オウにこわれてキョクをかいたのだろう。それでも、アパートにくらしていたという。いまのニホンのサラリーマンはそれイジョウのセイカツをしていないか。だとしたら、それはほぼゆめである。

モーツァルトぐらいにヒョウカされているひとはめずらしいであろう。むかしとくらべて、いまはケイザイがよくなったというかもしれないが、セキタン、セキユがみつかったぐらいで、デンキをつかうようになったぐらいである。そのセキユは、ほとんどコクナイではとれない。だとしたら、ユニユウするブンまずしくなるである。

それなのに、なぜ、モーツァルトイジョウのくらしをサラリーマンができるのか。トウジのヨーロッパのように、ショクミンチでもうけたり、ボウエキでもうけているのだろう。そのカンケイシャはいくらしができるだろう。でも、がんばっても、モーツァルトぐらいというのが、たっしいみかたでは、ないだろうか。

ヒャクキュウジュウヨン

パソコンのセイノウがあがっている。まえにもいったように、ニジュウヨンキロバイトのメモリが、ヨンジュウハチになり、ヒャクニジュウハチになり、イチメガバイトとネンネンヨウリヨウがおおきくなった(●『む』ヒャクななジュウニ)。このヨウリヨウで、いままだシンポしているかもしれない。トクに、ハードディスクと、メモリだろう。これらをつくるには、ケッコウなセツビトウシがいるという。

しかし、あるメンをみれば、パソコンのシンカなんてカンケイないといえるかもしれない。それは、ブンショウサクセイである。かみにインサツするためか、データとしてエツランするためにそれをつくる。このニジュウネンでかわったのは、モジのショタイがふえたことぐらいだろう。ブンショをつくるギジュツはそうハッテンがないためだ。では、なにがパソコンをシンカさせるのか。

こたえは、ゲイジュツだろう。つまり、エイガやオンガクやシャシンなどである。エイガはこのニジュウネンで、カイゾウドがニカイイジョウふえた。オンガクは、よりこまかいタンイのおとをつかえるようになった(よりゲンオンにちかいということである)。シャシンもカイゾウドがあがった。これらをつくるサッカや、みならいがこれのできるセイノウのパソコンをかうのである。

このシンポはどこまでトウタツするのであろう。ニンゲンのめや、みみのシャクドまで、コンピューターがこまかくなれば、それでおしまいであろう。みえないえや、きこえないおとにこだわるヒツヨウはない。まだそこまですたっていないだろう。

ヒャクキュウジュウゴ

エル(ウンドウ)イコールダブリュエー(あたたかさ)わるダブリュ(シツリヨウ)のはなしをした(●ヒャクハチジュウキュウ、ヒャクハチジュウロク、ヒャクハチジュウよん、ヒャクニジュウキュウ、ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウロク、ヒャクジュウゴ)。わたしは、エルイコールジー(ジュウリョク)とかんがえるので(●ヒャクサンジュウイチ、ヒャクニジュウキュウ、ヒャクキュウ、ななジュウニ、よんジュウゴ)、ジーイコールダブリュエーわるダブリュとなる。

つまり、ジュウリョクとは、ねつとシツリヨウでできているとなる。「ブラックホール」もそうだろう。わたしは、それを、コウセイがもえたあととかんがえている(●ヒャクハチジュウ)。ブラックホールはジュウリョクをもつという。うへのシキによれば、ねつがあるはずだから、あたたかいはずだ。ギャクにねつがひくければ、ジュウリョクはよわいわけだから、フツウにもえていたときよりもコウオンなのかもしれない。また、もえだすカノウセイがある。

ヒャクキュウジュウロク

さきのシキ(●ヒャクキュウジュウゴ)をセイリすると、ジー(ジュウリョク)かける

ダブリュ (シツリョウ) イコールダブリュエー (ねつ) となる。ひっばるちからと、シツリョウがあると、ねつがハッセイする。このゼンシャをマグテキナウンドウということにする(「マサツ」といったホウがわかりやすいだろうが。)

マグテキナウンドウをさければねつはあがらない。いろんなどころでもえていると、ジーがタクサンあるということである。

ヒャクキュウジュウなな

チキュウオندانカがモンダイとされる。ねつをデンキに (イーエル [デンキ] イコールダブリュエー [あたたかさ] わるダブリュ [シツリョウ])。●ヒャクハチジュウハチ、ヒャクよんジュウイチ、ヒャクニジュウキュウ、ヒャクニジュウハチ) かえているのだから、あつくなるイッポウあろう。ハツデンしたり、ダンボウをつかたりというぐあいである。

それをとめるには、ねつやデンキのリョウをひかえなくてはならないだろう。チキュウにながくすみたかったら、そうするだろう。しかし、センジュツのロウドウセンソウ (●ヒャクキュウジュウ、ヒャクハチジュウなな) がそれをすることをよしとしない。ようするに、チキュウジンのヘイワより、それをやっているくにのリエキがユウセンされるわけである。これをどうかんがえるか。

たしかに、ねつがあがれば、ケイザイカツドウもおおきくなるだろう (エル [ウンドウ] イコールダブリュエー わるダブリュ、●ヒャクキュウジュウゴ、ヒャクハチジュウよん、ヒャクニジュウキュウ、ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウロク、ヒャクジュウゴ)。トクにそれがおおきいくにもある。ジュウハチセイキは、エイコクのジダイなら、ニジュッセイキは、ガッシュウコクとニホンのジダイかもしれない。ニジュウイッセイキはチュウゴクのジダイというひとがいるかもしれないが、それはあったとしても、もうおわってしまったようだ。いまは、ヨーロッパのジダイではないか。

ヒャクキュウジュウハチ

ウェブギジュツのハッタツで、コジンがひとりでジョウホウをハッシンするキカイがふえた。たとえば、セイジカや、ユウメイジンがハッシンすれば、そのチョクセツテキなことばをジュシンすることがカノウだ。

これまでは、マスメディアキカンがそうしたジョウホウをひろってハッシンしていた。しかし、チョクセツハッシンするのならば、そうしたことで、マスメディアキカンはヒツヨウなくなる。そういうわけで、マスメディアキカンが、よわくなるであろうということがいえそうだ。

ドウがつきものはいまのところ、コジンからハッシンされることはすくないが、これからそれができるようになるかもしれない。そうすると、テレビなんかはボツラクするであろう。

ヒャクキュウジュウキュウ

ニンゲンは、なにかのウンドウがあって、イシキができる。イシキは、カガクブッシツやデンキシゴウだから、そのうごきがききにあるというわけである。しかし、たまにウチュウにもイシキがあるみたいなことをいうひとがいる。それが、ニンゲンのイシキのもとということであろう。

しかし、ものがうごかないイシキはないだろうから（もし、あるとすれば、シタイにもイシキがあるということになる。）、「ウチュウのイシキ」もなにかのもののウンドウのケツカといえるだろう。キョクロンすると、イシキイコール ウンドウになる。

ただ、ウンドウをふやせば、イシキがふえるのかというのは、わからない。こういうわけだから、「ビッグバン」をウチュウのはじまりにするのは、まあまあダトウである。しかし、ウチュウのそとにウンドウやイシキがあるかもしれないとは、いえるだろう。

ニヒャク

いぬをかっていると、バンケンになるというようなはなしをきく。わたしのいえにもいたが、たしかにほえる。しかし、サイキンキンジョで、ほえているのをあまりきかない。むかしはもっとにぎやかだったようなきがする。ほえない、ほえさせない、フウチョウなのかどうかはわからないが、まあそうカンじる。

そもそも、ほえるためのクンレンをうけていないのかもしれない。わたしのいえにいたときは、あそびで、かみつかせるようなやりとりをした。たまに、そうやってコウファンさせるから、ほえるようなバメンではほえた。しかし、ジュミョウにはかなわない。ジュウネンほどまえにしんだ。もっとひとにかみつかせるようなクンレンをすれば、ケイサツヨウとか、そういういぬになるんだらう。ただ、そういういぬはシュルイがきまっているようなきがする。フツウのいぬではだめなのだらう。

ニヒャクイチ

センシンコクのニンゲンはやくにたっていないのではとかいた（●サンジュウニ）。シジョウでは、やくにたつものがうれつづける。だが、センシンコクでは、こどものかづがへっている。センシンコクのこどもないし、おとなはやくにたっていないのではということだ。

なぜ、センシンコクのひとは、やくにたっていないのであろう。それは、ロウドウセンソウ（●ヒャクキュウジュウなな、ヒャクキュウジュウ、ヒャクハチジュウなな）をす

るからだといえるかもしれない。むかしのことばでいえば、「サクシュ」だ。ロウドウセンソウとは、ほかのくんにまけないように、はたらくことである。つまり、シジョウでユウイにたとうとする。トクに、セイフフサイがおおいと、それをやめづらい。いつかのジテンで、だれかがしはらわなければならないからだ。

また、いまのイッパンテキナショウバイでは、リエキをだすことをよしとする。つまり、そのクロジのブン、だれかがソンシツ、あかじをだすわけだ。しかし、イッパンテキには、それにモンクをいわない。そういうゲームである。クロジをだすのがうまいひとはいいが、クロジをだすのがへたなひとはかせげない。フクシなどがあるが、それなら、そういうゲームをやめてもいいはずだ。センシンコクのことどもがへっているということは、そのゲームがよくないからだとおもう。やくにたつセイヒンをつくって、うっても、リエキをだすわけだから、それはそんなにすばらしいことではない。つまり、ニンゲンがあまりやくにたっていないのではとおもえる。

ニヒャクニ

ことしもとりがわたしのへやのそとにすをつくっていた。しかし、あまりヒンパンにすのザイリョウ、かれはなどを、はこんでいなかったから、どうなるかとおもっていた。たまごをうむジキになると、とりがかよいはじめた。うまくいくのかとおもったが、いまのところ、たまごをうんだケイセキがない。かよってくるとりは、ややちいさかったので、まだ、ひなをそだてるには、はやいのかかもしれない。そういうわけで、ことしはとりとセイカツしないようだ。またライネン。

あとがき

このところ、はんとしにイッサツホンをだしている。はんとしにイッサツブンのゲンコウがたまるからだ。はじめのころは、エッセイというかかるいかんじでかいていたが、ダンダン、ブツリテキナケンキュウがふえている。わたしは、ガッコウで、スウガクがにがてだったので、ブンケイのガクブにいったが、ニンゲンやシャカイをケンキュウするより、ブツリのホウが、ヨウソがすくないブン、タンジュンである。ニンゲンのカガクシキをかいてみればわかるだろう。

だから、キョウミがカンタンなブツリのホウに行くのかもしれない。ブツリのホウでキソがかたまれば、もうすこしフクザツなケンキュウができるかもしれないが、それをやるかは、いまのところわからない。まじめにかいているのだが、ジブンでかんがえたことをかいている。すでにいわれていることや、ケンキュウのためのこやしもあるだろうが、わたしにとってはハツである。センコウケンキュウをサンショウせず、けしから

んといわれるかたもいるかもしれないが、それなら、よむ、よまないのジユウはあるわけだから、ゴヨウシャいただきたい。

ニセンジュウキュウネン ロクガツ よっか ショカ

ウンドウはすべてエレクトリック。

エイゾウ

ニセンジュウキュウネンハチガツジュウよっか

ニセンニジュウネンイチガツニジュウイチニチ

iii toga db006-2

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラカンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニューできます。

<http://eizo09.com>

『ウインドウはすべてエレクトリック。』

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
